

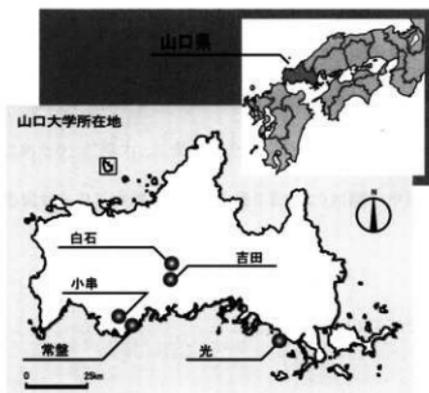
山口大学埋蔵文化財資料館年報
—平成17年度—

2007

山口大学埋蔵文化財資料館

山口大学埋蔵文化財資料館年報

平成17年度 山口大学構内遺跡発掘調査概報
平成17年度 山口大学埋蔵文化財資料館活動報告



2007

山口大学埋蔵文化財資料館

序

平成17年度は、山口大学が「国立大学法人」となり、埋蔵文化財資料館が学術情報機構（平成18年4月1日より大学情報機構に名称変更）内の一組織として位置づけられて2年目の年にあたります。

当館は、学術情報機構に位置づけられたことで、大学構内遺跡の調査・研究を行うだけではなく、その調査成果を情報として学内外に広く還元する活動を積極的に進めております。

本書には、当館が平成17年度に実施した構内遺跡の調査成果をはじめ、収蔵資料の展示活動や社会連携活動、館員の研究活動を収録しています。本書が山口大学および学外研究機関、地域社会において幅広く活用されることを期待しています。

当館の調査体制は決して充実したものではなく、遺物の整理・保管場所も不足しているなど多くの課題を抱えているのが現状ですが、その克服に鋭意努めているところです。当館の調査・研究活動並びに本書の刊行にあたり、ご協力、ご支援いただいた関係機関、関係者各位に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご理解、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年3月
山口大学埋蔵文化財資料館長
糸長 雅弘

例言

1. 本書は、山口大学埋蔵文化財資料館(以下「資料館」と呼称)が平成17年度に実施した、山口大学構内の遺跡発掘調査成果報告と、同年度に資料館が実施した社会教育等の活動報告を記したものである。
2. 構内遺跡発掘調査に関しては、現地での調査は資料館員である田畑直彦(学術情報機構埋蔵文化財資料館助手)・横山成己(学術情報機構埋蔵文化財資料館助手)・有本浩紀(事務局学術情報部情報サービス課教務補佐員)が担当した。
また、現地での調査に際しては、末廣産業有限会社、時盛建設株式会社、株式会社クマヤ組に協力を依頼した。
3. 出土資料の整理は、平成17年度から平成18年度にかけて、資料館員である田畑・植木美佳(事務局学術情報部情報サービス課事務補佐員)・有本が担当した。
4. 発掘調査における現地での実測は田畑・有本が、写真撮影は田畑・横山が行った。出土遺物に関しては、実測・写真撮影を田畑が行った。製図・整図は田畑・横山・植木・有本が行った。
5. 発掘調査に伴う事務は、事務局学術情報部総務課総務係が統括した。
6. 発掘調査の諸記録類と出土資料は資料館で適正に保管している。
7. 本文の執筆分担は目次に記した。
8. 本書の編集は資料館員の補佐を得て田畑が行った。

凡例

1. 山口大学の吉田・白石・小串・常盤・光構内は、そのいずれもが文化財保護法(法律第214号)で示されるところの「周知の埋蔵文化財包蔵地」内に位置している。山口大学各構内の位置する遺跡名は以下の通りである。

吉田構内～吉田遺跡 白石構内～白石遺跡 小串構内～山口大学医学部構内遺跡
常盤構内～山口大学工学部構内遺跡 光構内～御手洗遺跡・月待山遺跡

2. 吉田構内における調査区および層位・遺構の位置は、日本測地系に基づいた国土座標を基準として北から南へ1～24、西から東へA～Zの番号を付して50m方眼に区画した、構内地区割のA-24区南西隅を起点(構内座標 $x=0$, $y=0$)とする構内座標値で表示している。なお、平面直角座標系第Ⅲ系における座標値(X , Y)と構内座標値(x , y)とは下記の計算式で変換される。

$$x=X+206,000$$

$$y=Y+64,750$$

3. 平成17年度に実施した発掘調査に関しては、以下の略号により資料整理を行っている。
吉田構内教育総合研究センター改修Ⅰ期工事に伴う予備発掘・立会調査……………YD2005-1
日本ベドロジー学会水田土壌の断面調査に伴う立会調査……………YD2005-2
吉田構内教育総合研究センター改修Ⅱ期工事に伴う予備発掘調査……………YD2005-3
光構内教育学部附属光小学校体育器具庫新営工事に伴う予備発掘調査……………MTR2005-1

4. 各遺構は下記の記号で表記することがある。

竪穴住居……SB 土壌……SK 溝……SD
柱穴・ピット……Pit 落ち込み……SX

5. 本書で使用した方位は、吉田構内では国土座標を基準とした真北、他の構内では磁北を示す。
6. 標高数値は海拔標高を示す。
7. 土層および土器の色調記号は、農林省農林水産技術会事務局監修『新版標準土色帖』(1976)に準拠した。
8. 遺物の実測図は、下記のように分類した。
断面黒塗り……須恵器、陶器、磁器
断面白抜き……縄文土器、弥生土器、土師器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、石器、木器、金属器
9. 「付節2 山口大学構内の主な調査」における平成16年度以前の調査については、『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成16年度—』を参照されたい。

本文目次

第1章	平成17年度山口大学構内遺跡の調査	1
第1節	平成17年度に実施した遺跡調査の概要	(田畑) 1
第2節	吉田構内(吉田遺跡)の調査	(田畑・横山) 5
1	教育総合研究センター改修Ⅰ期工事に伴う予備発掘調査	(田畑) 5
2	教育総合研究センター改修Ⅰ期工事に伴う立会調査	(田畑) 13
3	日本ペドロロジー学会水田土壌の断面調査に伴う立会調査	(田畑) 16
4	基幹環境整備(外灯取設)工事に伴う立会調査	(横山) 17
5	教育総合研究センター改修Ⅱ期工事に伴う予備発掘調査	(田畑) 18
第3節	白石構内(白石遺跡)の調査	(横山) 34
	教育学部附属山口幼稚園・小学校給水管改修工事に伴う立会調査	(横山) 34
第4節	小串構内(山口大学医学部構内遺跡)の調査	(横山) 35
1	医学部基幹環境整備(冷熱源設備他改修)工事に伴う立会調査	(横山) 35
2	医学部南側通用門塀取設工事に伴う立会調査	(横山) 36
第5節	常盤構内(山口大学工学部構内遺跡)の調査	(田畑・横山) 37
1	工学部職員宿舍揚水施設改修工事に伴う立会調査	(田畑) 37
2	工学部会議棟身障者スロープ取設工事に伴う立会調査	(横山) 38
第6節	光構内(月待山遺跡・御手洗遺跡)の調査	(田畑) 39
1	教育学部附属光小学校体育器具庫新営工事に伴う予備発掘調査	(田畑) 39
2	教育学部附属光小・中学校護岸改修工事に伴う立会調査	(田畑) 44
第7節	その他構内の調査	(田畑・横山) 45
1	経済学部職員宿舍2号フェンス取替工事に伴う確認調査	(田畑) 45
2	工学部職員宿舍(尾山)給水設備改修工事に伴う確認調査	(横山) 46
付節1	平成16年度 山口大学構内遺跡調査要項	47
付節2	山口大学構内の主な調査	49
第2章	平成17年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告	56
第1節	資料館における展示・公開活動	(横山) 57
1	第21回企画展「古墳の世界～山口県の古墳を探る～」を開催	(横山) 57
2	第1回学術情報機構埋蔵文化財特別展 「あしもの遺跡シリーズ1 古代の吉田遺跡」を開催	(横山) 58
第2節	資料館における社会教育活動	
1	第5回公開授業 「古代人の知恵に挑戦！ー弥生土器をつくってみよう2ー」を開催	(田畑) 59
2	山口市立平川小学校で出張授業を実施	(横山) 61
付篇	吉田遺跡第Ⅱ地区の調査	(横山) 62

挿図目次

第1章第1節 平成17年度に実施した遺跡調査の概要

図1 山口大学吉田・白石構内位置図	2
図2 小串・常盤構内位置図	3
図3 光構内位置図	4
第1章第2節 吉田構内(吉田遺跡)の調査	
図4 調査区位置図	5
図5 A調査区北壁土層断面図	8
図6 B調査区平面図・断面図	8
図7 C調査区平面図・断面図	8
図8 D調査区平面図・断面図	9
図9 E調査区平面図・断面図	9
図10 F調査区平面図・断面図	10
図11 F調査区SD1断面図	10
図12 出土遺物実測図	12
図13 調査区位置図①	13
図14 調査区位置図②	13
図15 調査区位置図③	13
図16 詳細位置図	14
図17 調査区位置図	16
図18 調査区位置図	17
図19 調査区位置図	18
図20 A調査区平面図・断面図	20
図21 B調査区平面図・断面図	20
図22 C調査区平面図・断面図	20
図23 D調査区河川断面図	22
図24 D調査区平面図・断面図	22
図25 E調査区平面図・断面図	22
図26 F調査区遺構断面図	22
図27 F調査区平面図・断面図	22
図28 G調査区SD1断面図	23
図29 G調査区平面図・断面図	23
図30 H調査区平面図・断面図	23
図31 I調査区pit1断面図	23
図32 I調査区平面図・断面図	23
図33 J調査区平面図・断面図	24
図34 出土遺物実測図①	28
図35 出土遺物実測図②	29

第1章第3節 白石構内(白石遺跡)の調査

図36 調査区位置図	34
------------	----

第1章第4節 小串構内(山口大学医学部構内遺跡)の調査

図37 調査区位置図	35
図38 調査区位置図	36

第1章第5節 常盤構内(山口大学工学部構内遺跡)の調査

図39 調査区位置図	37
図40 調査区位置図	38

第1章第6節 光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査

図41 調査区位置図	39
図42 調査区平面図・断面図	41
図43 出土遺物実測図	42
図44 調査区位置図	44

第1章第7節 その他構内の調査

図45 調査区位置図	45
図46 調査地点広域図	46
図47 調査区位置図	46

第1章付節2 山口大学の主な調査

図48 山口大学吉田構内地区割および主な調査区位置図	49・50
図49 山口大学白石構内(幼稚園・小学校)調査区位置図	51
図50 山口大学白石構内(中学校)調査区位置図	52
図51 山口大学小串構内調査区位置図	53
図52 山口大学常盤構内調査区位置図	54
図53 山口大学光構内調査区位置図	55
付節 吉田遺跡第Ⅱ地区の調査	
図54 吉田遺跡第Ⅱ地区調査区位置図	63
図55 吉田遺跡第Ⅱ地区 第1調査区平面図	65・66
図56 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区 遺構平面図・断面図①	67
図57 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区 遺構平面図・断面図②	68
図58 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区 遺構平面図・断面図③	69

図59 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区 遺構平面図・断面図④	70
図60 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区 遺構平面図・断面図⑤	71
図61 第Ⅱ地区第1調査区遺物実測図①	79

図62 第Ⅱ地区第1調査区遺物実測図②	80
図63 第Ⅱ地区第1調査区遺物実測図③	81
図64 第Ⅱ地区第1調査区遺物実測図④	82
図65 吉田遺跡第Ⅱ地区第2調査区平面図	94

写真目次

第1章第1節 平成17年度に実施した遺跡調査の概要

写真1 吉田構内航空写真	2
写真2 白石構内（教育学部附属山口幼稚園・小学校） 航空写真	2
写真3 白石構内（教育学部附属山口中学校） 航空写真	2
写真4 小串構内航空写真	3
写真5 常盤構内航空写真	3
写真6 光構内航空写真	4

第1章第2節 吉田構内（吉田遺跡）の調査

写真7 A～C調査区調査前全景	5
写真8 D～F調査区調査前全景	5
写真9 A調査区全景	11
写真10 A調査区北壁土層断面	11
写真11 B調査区南部遺構検出状況	11
写真12 C調査区南部遺構検出状況	11
写真13 D調査区全景	11
写真14 D調査区北壁土層断面	11
写真15 E調査区全景	11
写真16 E調査区北壁・東壁土層断面	11
写真17 F調査区北壁・西壁土層断面	12
写真18 F調査区西壁・SD1土層断面	12
写真19 出土遺物	12
写真20 2C地点北壁土層断面	15
写真21 2D地点河川検出状況	15
写真22 3A地点南壁土層断面	15
写真23 3E地点南壁土層断面	15
写真24 水田土壌調査風景	16
写真25 調査区土層断面	16
写真26 B地点土層断面	17
写真27 A～C調査区調査前全景	18
写真28 D～F調査区調査前全景	18

写真29 A調査区南壁土層断面	24
写真30 B調査区南壁土層断面	24
写真31 C調査区西壁土層断面	25
写真32 D調査区河川土器器出土状況	25
写真33 D調査区南壁・河川土層断面	25
写真34 D調査区西壁土層断面	25
写真35 E調査区西壁土層断面	25
写真36 F調査区全景	25
写真37 F調査区Pit1・半截状況	25
写真38 F調査区南壁・西壁土層断面	25
写真39 G調査区SD1検出状況	26
写真40 G調査区SD1土層断面	26
写真41 G調査区SD1弥生土器出土状況	26
写真42 G調査区SD1完掘状況	26
写真43 G調査区東壁土層断面	26
写真44 H調査区北部遺構検出状況	26
写真45 I調査区西壁土層断面	26
写真46 J調査区北壁・東壁土層断面	26
写真47 出土遺物①	30
写真48 出土遺物②	31

第1章第3節 白石構内（白石遺跡）の調査

写真49 C地区土層断面	34
写真50 B地区土層断面	34

第1章第4節 小串構内（山口大学医学部構内遺跡）の調査

写真51 調査区土層断面	35
写真52 西側調査区土層断面	36
写真53 東側調査区土層断面	36

第1章第5節 常盤構内（山口大学工学部構内遺跡）の調査

写真54 A地点土層断面	37
写真55 B地点土層断面	37
写真56 調査区土層断面	38
写真57 調査区近景	38

第1章第6節 光橋内（御手洗遺跡・月待山遺跡）の調査	
写真58 調査前全景	41
写真59 調査区全景	41
写真60 調査区北東壁土層断面	42
写真61 調査区北西壁土層断面	42
写真62 調査区南西壁土層断面	42
写真63 近～現代石垣	42
写真64 出土遺物	42
写真65 調査区東部土層断面	44
写真66 調査区西部土層断面	44
第1章第7節 その他構内の調査	
写真67 経済学部職員2号宿舍全景	45
写真68 E地点土層断面	45
写真69 調査区全景	46
写真70 調査区土層断面	46
第2章第1節 資料館における展示公開活動	
写真71 第21回企画展ポスター・展示図録	57
写真72 第21回企画展展示模様①	57
写真73 第21回企画展展示模様②	57
写真74 『あしもとの遺跡シリーズ1 古代の吉田遺跡』①	58
写真75 『あしもとの遺跡シリーズ1 古代の吉田遺跡』②	58
第2章第2節 資料館における社会教育活動	

写真76 第5回公開授業の様相	60
写真77 平川小学校6年生の児童	61
写真78 発掘調査の方法を学ぶ	61
写真79 本物の土器を観察	61
写真80 熱中する児童たち	61
付録 吉田遺跡第Ⅱ地区の調査	
写真81 第Ⅱ地区第1調査区南西部	76
写真82 第Ⅱ地区第1調査区北東部	76
写真83 第Ⅱ地区第1調査区南西部	76
写真84 第Ⅱ地区第1調査区北東部	76
写真85 第Ⅱ地区第1調査区中央部遺構群	77
写真86 第Ⅱ地区第1調査区中央部SD1	77
写真87 第Ⅱ地区第1調査区南西部遺構群	77
写真88 第Ⅱ地区第1調査区南西部遺構群	77
写真89 第Ⅱ地区第1調査区中央部遺構群	77
写真90 第Ⅱ地区第1調査区南西部遺構群	77
写真91 第Ⅱ地区第1調査区遠景	77
写真92 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物①	87
写真93 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物②	88
写真94 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物③	89
写真95 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物④	90
写真96 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物⑤	91
写真97 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物⑥	92
写真98 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物⑦	93

表・グラフ目次

第1章第1節 平成17年度に実施した遺跡調査の概要	
表1 平成16年度山口大学構内遺跡調査一覧表	1
第1章第2節 吉田構内（吉田遺跡）の調査	
表2 出土遺物（土器）観察表	12
表3 出土遺物（土器）観察表	32
表4 出土遺物（石器）観察表	32
第1章第6節 光橋内（御手洗遺跡・月待山遺跡）の調査	
表5 出土遺物（土器）観察表	43
第2章 山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告	
表6 埋蔵文化財資料館利用者の推移	56

表7 平成17年度月別入館者数	56
付録 吉田遺跡第Ⅱ地区の調査	
表8 吉田遺跡第Ⅱ地区現存調査記録図一覧	62
表9 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区遺構観察・ 現存遺物一覧表	72
表10 出土遺物（土器）観察表	83
表11 出土遺物（石器・土製品）観察表	86
グラフ1 窯Aの温度変化	60

第1章 平成17年度山口大学構内遺跡の調査

第1節 平成17年度に実施した遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市(吉田・白石構内)、宇部市(小串・常盤構内)、光市(光構内)の県内各市に分散しているが、各構内は「周知の埋蔵文化財包蔵地」内、つまり遺跡の上に立地している。各構内の様相を概略すると、吉田構内は縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての全時代を網羅する複合集落遺跡として県内でも著名である吉田遺跡内に、白石構内は弥生時代から古墳時代を中心とした集落遺跡である白石遺跡内に、小串・常盤構内は旧石器時代から江戸時代にかけての遺物が出土する山口大学医学部構内遺跡・山口大学工学部構内遺跡内に、光構内は縄文時代から江戸時代にかけての集落遺跡・遺物散布地である御手洗遺跡・月待山遺跡内に位置している。

このような環境の中、山口大学埋蔵文化財資料館は山口大学構内の埋蔵文化財を保護・活用する施設として、全構内遺跡の調査・研究を担当している。平成17年度の調査体制は以下の通りである。

まず、各構内において地下掘削を伴う工事が立案・計画された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において事業計画の確認を行った後、文化財保護法の諸手続の下、山口大学各構内が位置する地方公共団体(山口県および各市)の指導により、埋蔵文化財保護の立場から本発掘・予備発掘・立会の三種の方法で調査を厳密に行っている。「周知の埋蔵文化財包蔵地」外に位置する大学関連施設(職員宿舎等)敷地内で地下掘削を伴う工事が実施される場合においても、埋蔵文化財の新規発見の可能性を考慮して掘削時に資料館員が確認調査を行っている。

上記の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合には、同専門委員会が可能な限り、遺跡のさらなる現状変更を避けるべく厳密な協議を行っている。

上記の調査体制の下、資料館が平成17年度に実施した埋蔵文化財の調査は、下記の通り予備発掘調査3件、立会調査9件、確認調査2件の計14件であった。

表1 平成17年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	面積(m ²)	調査期間	本書掲載頁
予備発掘	教育学部附属光小学校体育器具庫新営	光		53	5月19～31日	39～43
	教育総合研究センター改修Ⅰ期工事	吉田	J・K-16	130	6月27～7月22日	5～12
	教育総合研究センター改修Ⅱ期工事	吉田	K・L-16, J-16, 17, K-17	92	3月27日～4月28日	18～33
立会	教育総合研究センター改修Ⅰ期工事	吉田	I・J・K-16, H-12, E-20	580	7月12, 8月22, 9月8・12～14, 10月25・28, 12月20・22・26～28, 1月5～6・10・16～19・23・25・26, 2月3・8・9日	13～15
	教育学部附属山口幼稚園・小学校給水管改修	白石		10	8月2・18・25日	34
	日本ベドロジー学会水田土壌の断面調査	吉田	R-16	3.1	9月23・24日	16
	工学部職員宿舎揚水施設改修	常盤		65	10月21・24・26日	37
	基幹環境整備(外灯取設)	吉田	H-17, H-22・23	7.7	12月5・8日	17
	医学部附属病院基幹環境整備(冷熱源設備他改修)	小串		37	1月6日	35
	教育学部附属光小・中学校護岸改修	光		40	2月3・17日	44
	工学部会議棟身障者スロープ取設工事	常盤		38	2月17日	38
	医学部南側通用門増設工事	小串		30	平成18年4月21日	36
	経済学部職員宿舎2号フェンス取替工事	その他		1	8月23日	45
工学部職員宿舎(尾山)揚水施設改修	その他		15	11月14日	46	

吉田構内 (本館、人文・教育・経済・環境・農の各学部・山口市大宮町1677-1、教育学部附属真嶺中学校・同自由2000所在地)

平成17年度は予備発掘調査2件、立会調査3件を実施した。

教育総合研究センター改修Ⅰ期工事に伴う予備発掘調査・立会調査では、遺物包含層ならびに溝、ピット、河川を検出し、同改修Ⅱ期工事に伴う予備発掘調査では、共通教育本館側の調査区で弥生時代～古墳時代の河川、共通教育講義棟北側の調査区で弥生時代中期後半の溝を検出し、弥生土器、土師器が大量に出土した。これらの調査は、これまで不明確であった吉田構内中心部の埋蔵文化財の状況を探る貴重なデータとなった。また、日本ペトロロジー学会水田土壌の断面調査に伴う立会調査では、溝ないし土壌と考えられる遺構を検出した。その他の立会調査では顕著な埋蔵文化財は確認されなかった。

白石構内 (教育学部附属山口外構園・山口市白石三丁目1-2、同山口小学校・白石三丁目1-1、同山口中学校・白一丁目9-1所在地)

立会調査1件を実施したが、埋蔵文化財は確認されなかった。



写真1 吉田構内航空写真 (南東から)



写真2 白石構内 (教育学部附属山口外構園・小学校) 航空写真 (南東から)



写真3 白石構内 (教育学部附属山口中学校) 航空写真 (南から)

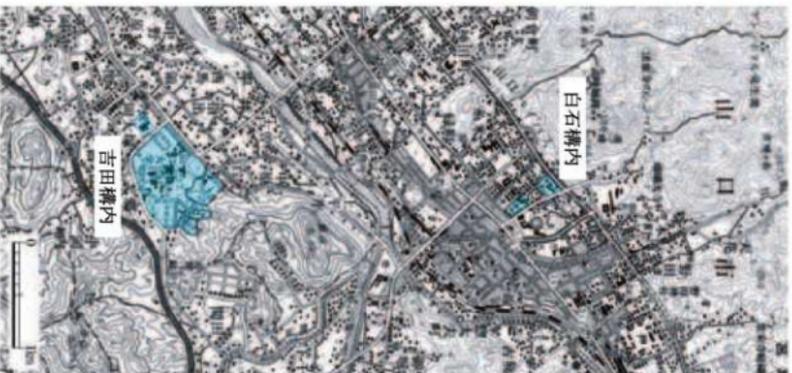


図1 山口大学吉田・白石構内位置図

小串構内 (医学部・岡付真病院:宇部市南小串1丁目1-1)

立会調査2件を実施した。医学部基幹整備(冷熱源地設備改修)工事に伴う立会調査、医学部南側通用門塀取設工事に伴う立会調査とも工事による掘削は造成土の範囲内であり、埋蔵文化財に支障はなかった。小串構内は現在こそ南方の海岸線から乖離しているものの、標高3mの低地部に立地している。また、北方背後には丘陵部が迫っていることもあり、地下の状況は複雑な様相を呈していることが判明しつつある。今後とも、掘削を伴う工事計画等に対しては、慎重な対応が必要不可欠である。

常盤構内 (工学部:宇部市常盤台2丁目16-1)

立会調査2件を実施した。工学部職員宿舍揚水施設改修工事に伴う立会調査、工学部会議棟身障者スロープ取設工事に伴う立会調査とも、地山は確認されたものの遺構は皆無であった。構内北部を除く地域では、過去に遺構が存在したとしても構内造成工事に伴う大規模な削平により、すでに消失したと考えられる。



図2 小串・常盤構内位置図



写真4 小串構内航空写真(南東から)



写真5 常盤構内航空写真(南から)

光構内(教育学部附属光小学校、同光中学校:光市重積8丁目4番1号)

予備発掘調査を1件、立会調査を1件実施した。教育学部附属光小学校体育器具庫新営工事に伴う予備発掘調査では、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。しかし、周辺では過去の調査で埋蔵文化財が確認されており、今後とも掘削を伴う工事計画には慎重な対応が必要である。

護岸災害復旧工事に伴う立会調査では、顕著な遺構・遺物はなく造成土及び波浪による2次堆積層から土器片が若干出土するにとどまった。



写真6 光構内航空写真(北東から)

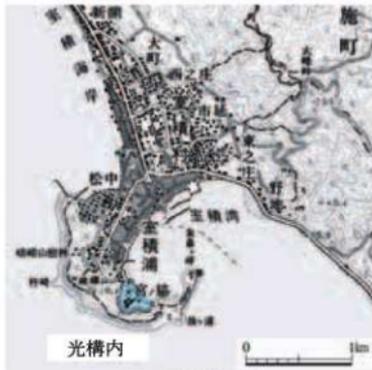


図3 光構内位置図

その他構内

経済学部職員宿舎2号(山口市水の上町6-9)、工学部尾山職員宿舎(宇部市上野中町1-33・34)で各々1件確認調査を実施したが、埋蔵文化財は確認されなかった。

第1節 吉田構内(吉田遺跡)の調査

1. 教育総合研究センター改修1期工事に伴う予備発掘調査

調査地区 吉田構内J・K-16区
調査面積 約130㎡
調査期間 平成17年6月27日～7月22日
調査担当 田畑直彦
調査結果

(1) 調査の経緯(図4、写真7・8)

吉田構内ほぼ中央に位置する共通教育本館西側の改修工事が決定した。工事は現状建物の南北に耐震補強用の外壁と設備配管を新設するものである。共通教育棟は統合移転に伴う発掘調査が行われる以前に建てられたため、建築工事に先立って発掘調査は行われていない。また、その後の調査も少なく、埋蔵文化財の遺存状況は不明な点が多かった。

このため、埋蔵文化財資料館専門委員会の指示の下、(発掘調査を要する工事計画として、平成15年3月13日埋蔵文化財資料館運営委員会承認)、埋蔵文化財資料館が予備発掘調査を行った。なお、調査にあたっては工事予定地内にA～Fの6ヶ所の調査区を設けて行った。

(2) 基本層序

基本層序は下記の通りである。

- 第1層 表土(1-1～2に細分、層厚約5～20cm)
 第2層 造成土(2-1～10に細分、層厚約70～130cm)
 第3層 旧水田耕土(3-1～4に細分、層厚約10～20cm)
 第4層 旧水田床土(4-1～5に細分、層厚約4～20cm)
 第5層 遺物包含層もしくは弥生時代以降の遺構面と考えられる層(5-1～7に細分、層厚約15～30cm)
 第6層 地山(6-1～6に細分、層厚10cm以上)

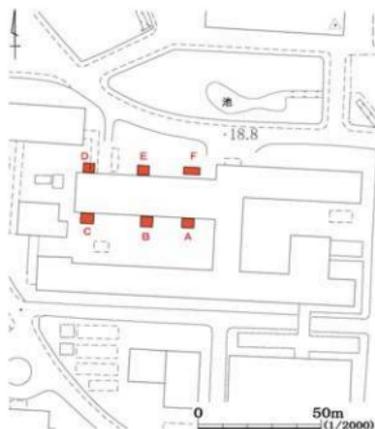


図4 調査区位置図



写真7 A～C調査区調査前全景(南東から)



写真8 D～F調査区調査前全景(東から)

(3) 層序・遺構

A調査区

調査区北半部は污水管と建物建設時による掘削によって攪乱されていた。また、南半には旧浄化槽があり、大きく攪乱されていた。このため、污水管南側のごく一部でのみ土層が観察できたにすぎず、遺構は皆無であった。なお、調査区は掘削直後から崩落が激しく、污水管も一部破損し実験排水が漏れだしたため、安全上の配慮から土層の実測・写真撮影の後、直ちに埋め戻した。

層序は、層厚約72cmの第1・2層、層厚約20cmの第4-1層:灰オリーブ色(5Y5/2)粘質土、層厚約20cmの第5-1層:黒褐色(2.5Y3/1)粘質土、層厚約20cm以上の第6-1層:オリーブ黄色(5Y6/3)粘土の順である。第5-1層は遺物包含層の可能性があるが遺物は出土しなかった。

B調査区

調査区北半は污水管と建物建設時による掘削によって攪乱されていた。層序は、層厚約90cmの第1・2層、層厚約20cmの第3-1層:灰色(5Y5/1)粘質土、層厚約8cmの第4-1層:灰オリーブ色(5Y5/2)粘質土、層厚約15cmの第5-1層:黒褐色(2.5Y3/1)粘質土、層厚約25cm以上の第6-2層:オリーブ色(5Y5/4)粘質土の順である。この調査区では、第3-1層上面から掘りこまれた攪乱土坑、統合移転直前まで使用されていたと考えられる水田暗渠1条を検出した。また、A調査区と同様に第5-1層を検出したが、遺物は出土しなかった。

C調査区

調査区北半は污水管と建物建設時による掘削によって攪乱されていた。また、調査区の南東部には旧浄化槽により攪乱されていた。層序は、層厚約145cmの第1・2層、層厚約20cmの第4-1層:灰オリーブ色(5Y5/2)粘質土、層厚約12cmの第5-1層:黒褐色(2.5Y3/1)粘質土、層厚20cm以上の第6-3層:明黄褐色(10YR6/6)粘土の順である。

この調査区では落ち込み2基(SX1・2)と河川1条を検出した。SX1は攪乱のため全形は不明である。埋土は黒褐色(2.5Y3/1)粘質土の単一層で、深さは約14cmである。北端部を掘削した以外は上面検出にとどめた。遺物は出土していない。SX2は北西側を河川に切られているため、全形は不明である。輪郭がやや不明確であることから、遺構ではない可能性もある。調査区南西端を掘削した以外は上面検出にとどめた。埋土はにぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土の単一層で、深さは約18cmである。遺物は出土していない。河川は北東-南西の流路方向と推測され、調査区内における検出幅は約100cmである。調査区西壁では深さが約70cmで、埋土は3層に分かれる。最下層の暗オリーブ灰色(N3/1)粗砂から土師器小片が出土したほかに出土遺物はなく、時期は不明である。

D調査区

調査区南半は污水管と建物建設時による掘削により攪乱されていた。層序は、層厚約120cmの第1・2層、層厚約10cmの第3-2層:暗オリーブ灰色(5GY4/1)粘質土、層厚約4cmの第4-2層:黄褐色(2.5Y5/4)粘質土、層厚約20cmの第5-2層:褐灰色(10YR5/1)粘質土・5-3層:暗褐色(10YR3/3)粘質土、掘削底面で検出した第6-4層:橙色(7.5YR6/6)粘土の順である。この調査区では第6-4層直上に第5-3層が堆積していた。同層は調査区北端部で厚く堆積していることから落ち込みの埋土である可能性があるが、遺物は出土していない。また第同層上面では溝1条(SD1)、落ち込み1基(SX1)を検出した。SD1の幅は40cm、深さは8cm、埋土は褐灰色(10YR5/1)粗砂である。SX1は深さが15cm以上あり、上面でピット3基(Pit1~3)を検出した。Pit1の直径は32cm、Pit2の直径は8cm、Pit3の直径は12cmで埋土はいずれも5-3と褐灰色(10YR5/1)粗砂のブロック土である。また、北壁沿いの深掘り部分では、第6-4層

上面でピット1基(Pit4)、落ち込み1基(SX2)を検出した。埋土は第5-3層と同一である。ごく一部を検出したにすぎないため、詳細は不明である。また、深掘り部分を除き掘削を行っていないこともあり、遺物は出土しなかった。

E調査区

調査区南半は汚水管と建物建設時による掘削により攪乱されていた。層序は、層厚約100cmの第1・2層、層厚約15cmの第3-3層:灰色(10Y4/1)粘質土、層厚約20cmの4-3層:灰オリーブ色(5Y5/2)粘質土・第4-4層:暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土、層厚約40cmの第5-1層:黒褐色(2.5Y3/1)粘質土、層厚約10cmの第6-5層:にぶい黄色(2.5Y6/4)粘土、層厚68cm以上の第6-6層:明黄褐色(2.5Y6/6)粘土の順である。

この調査区では、河川1条を検出した。河川は、最下層で黄灰色(5Y5/1)粗砂が堆積しており、流水状況にあったことがうかがえるが、上層は粘質土の堆積が主体であるから谷状の落ち込みを呈していたと考えられる。調査区の東半は検出にとどめ、調査区西半で東西・南北方向で深掘りを行い精査したが、遺物は出土しなかった。河川埋没後の落ち込み部分に堆積したのが、第5-1層である。この層からは摩滅した弥生土器片が少量出土した。

なお、調査区から北へ30mの地点では、平成元年度に水銀灯新営に伴い発掘調査が実施されており、黄褐色粘土の地山の直上でオリーブ黒色土の遺物包含層が確認されている。また、オリーブ黒色土の直下では5世紀代の土師器を伴う溝状遺構が検出されている。第5-1層は上記の調査で確認された遺物包含層と一連の遺物包含層である可能性があり、調査区周辺では今後ともその分布に注意を払う必要がある。

F調査区

調査区東半は旧浄化槽及び汚水管布設による掘削、調査区西端は汚水管による掘削による掘削で攪乱されていた。層序は、層厚約80cmの第1・2層、層厚約10cmの第3-4層:暗緑灰色(7.5GY4/1)粘質土、層厚約8cmの第4-5層:灰オリーブ色(5Y5/2)粘質土、層厚約15cmの第5-4層:黄灰色(2.5Y4/1)粘質土・5-5層:オリーブ黄色(5Y6/4)粘質土、層厚30cm以上の第6-6層:明黄褐色(2.5Y6/6)粘土の順である。第5-6層からは摩滅した弥生土器片もしくは土師器片が少量出土した。

この調査区では、旧水田暗渠1条、溝1条(SD1)、ピット4基(Pit1~4)、杭跡が検出された。これらの遺構のうち、SD1以外は掘削を行っておらず、遺物も出土していないため時期は不明であるが、埋土の色調から弥生~古墳時代に属する可能性がある。杭跡の埋土は黒褐色(2.5Y3/1)粘質土、ピット、溝の埋土は黄灰色(2.5Y4/1)粘質土・黒褐色(2.5Y3/1)粘土に遺構検出層である第6-6層をブロック状に含むものである。Pit1~4の直径は約25cm、Pit5の直径は約35cmである。SD1は幅約20~50cm、深さ約20cmである。弧状に湾曲しており、竪穴住居跡の側溝であった可能性がある。

(4) 遺物

今回の調査で出土した遺物は全て小片で、図化できたのは以下の2点にとどまった。1、2はE調査区第5-1層から出土した弥生土器甕底部片で、弥生時代中~後期に属するものと考えられる。いずれも風化が激しく調整は不明である。調査区北側の丘陵部から流れ込んだものであろう。

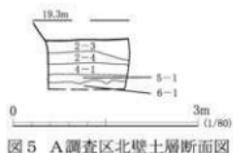


図5 A調査区北壁土層断面図

遺構埋土

- a 灰色 (10Y4/1) シルトと
3・4のブロック土
- b 灰オリーブ色 (5Y4/1) 粗砂
- c 黒色 (5Y2/1) 粘質土
- d 灰オリーブ色 (5Y4/1) 砂質土
- e 灰色 (N4/0) シルト
- f 暗灰色 (N3/0) シルト
- g 暗オリーブ灰色 (N3/1) 粗砂
(0.5 cm大の礫を含む)
- h にぶい黄褐色 (10YR5/4)
粘質土

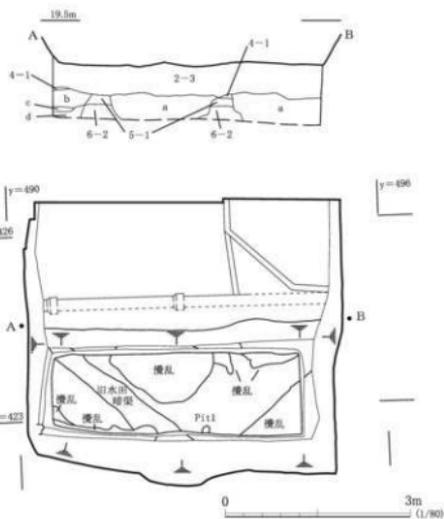
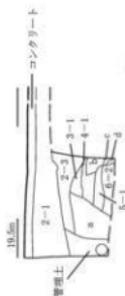


図6 B調査区平面図・断面図

- 1-1 表土 腐植土 (マサ土)
- 1-2 アスファルト
- 2-1 造成土 マサ土
- 2-2 造成土 パラス
- 2-3 造成土 パラス・3・4,
青灰色 (5B6/1) 粘土ブロックを含む
- 2-4 3-1・4-1のブロック土
- 3-1 旧水田跡土 灰色 (5Y5/1) 粘質土
- 4-1 旧水田跡土 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘質土
- 5-1 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘質土
- 6-1 地山 オリーブ黄色 (5Y6/3) 粘土
- 6-2 地山 オリーブ色 (5Y5/4) 粘土
- 6-3 地山 明黄褐色 (10YR6/6) 粘土

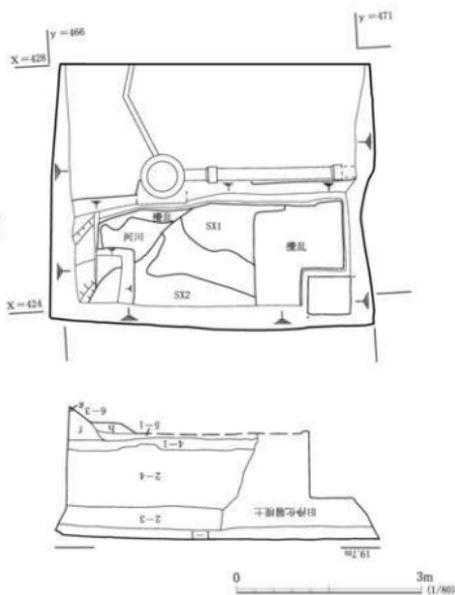


図7 C調査区平面図・断面図

吉田構内(吉田遺跡)の調査

- 1-1 表土 腐植土(マサ土)
- 1-2 表土 アスファルト
- 2-1 造成土 マサ土
- 2-2 造成土 バラス土
- 2-5 造成土 オリーブ褐色(2.5Y4/3)
- 粘質土・橙色(5YR6/6)粘質土
- 2-6 造成土 オリーブ褐色(2.5Y4/3)
- 粘質土に6-4をブロック状に含む
- 2-7 造成土 灰オリーブ色(7.5Y5/2)土
- マサ土を含む
- 2-8 造成土 灰オリーブ色(7.5Y5/2)土に、灰色(7.5Y4/1)、6-5、6-6をブロック状に含む
- 3-2 旧水田耕土
- 暗オリーブ灰色(5G4/1)粘質土
- 3-3 旧水田耕土
- 灰色(10Y4/1)粘質土
- 4-2 旧水田床土
- 黄褐色(2.5Y5/4)粘質土
- 4-3 旧水田床土
- 灰オリーブ色(5Y5/2)粘質土
- 4-4 旧水田床土
- 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土
- 5-1 黒褐色(2.5Y3/1)粘質土
- 5-2 褐灰色(10YR5/1)粘質土
- 5-3 暗褐色(10YR3/3)粘質土
- 6-1 地山 オリーブ黄色(5Y6/3)粘土
- 6-2 地山 オリーブ色(5Y5/4)粘土
- 6-3 地山 明黄褐色(10YR6/6)粘土
- 6-4 地山 橙色(7.5YR6/6)粘土
- 6-5 地山 にぶい黄色(2.5Y6/4)粘土
- 6-6 地山 明黄褐色(2.5Y6/6)粘土

遺構埋土

- i 褐灰色(10YR5/1)粗砂
- 1cm大の礫を含む
- j 灰黄褐色(10YR4/2)粘質土
- k 黒褐色(10YR3/1)粘質土
- l 黄灰色(2.5Y4/1)粘質土
- m 灰色(7.5Y4/1)粘質土
- n オリーブ褐色(2.5Y4/3)粘質土
- o 黄灰色(5Y4/1)粘質土
- p 黄灰色(5Y5/1)粗砂

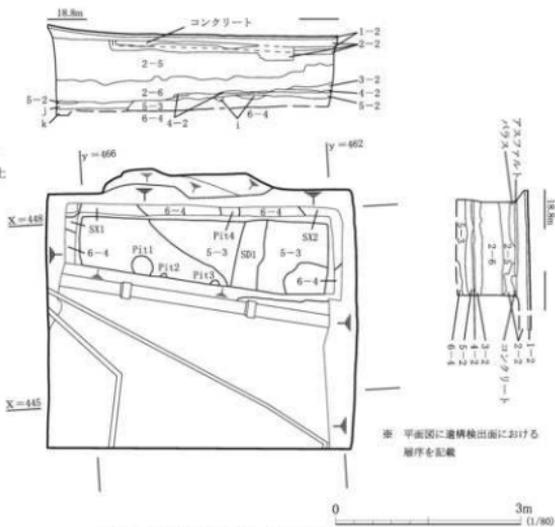


図8 D調査区平面図・断面図

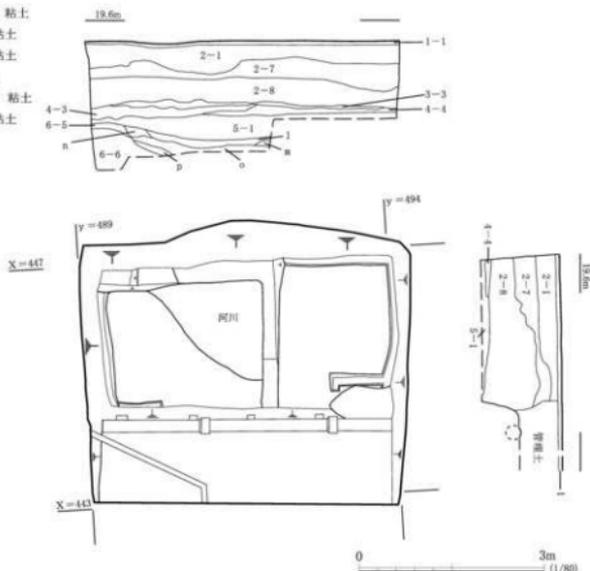


図9 E調査区平面図・断面図

吉田構内(吉田遺跡)の調査

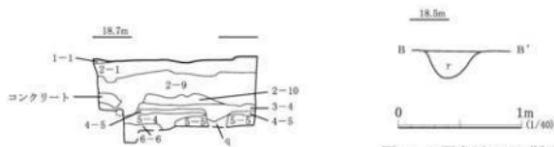


図 11 F調査区S.D1断面図

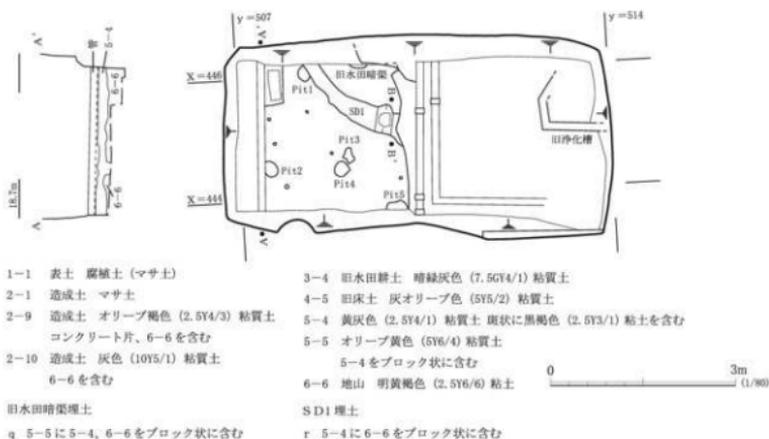


図 10 F調査区平面図・断面図

1-1 表土 腐植土 (マサ土)

2-1 造成土 マサ土

2-9 造成土 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質土

コンクリート片、6-6を含む

2-10 造成土 灰色 (10Y5/1) 粘質土

6-6を含む

旧水田暗渠埋土

q 5-5に5-4、6-6をブロック状を含む

3-4 旧水田耕土: 暗緑灰色 (7.5GY4/1) 粘質土

4-5 旧床土 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘質土

5-4 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土: 斑状に黒褐色 (2.5Y3/1) 粘土を含む

5-5 オリーブ黄色 (5Y6/4) 粘質土

5-4をブロック状を含む

6-6 地山 明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘土

S.D.1埋土

r 5-4に6-6をブロック状を含む

(5) 小結

今回の予備発掘調査の結果、改修建物の南側に設定したA～C調査区では攪乱が激しく、C調査区西端で河川を検出するとどまった。しかし、改修建物の北側に設定したD～F調査区では河川や溝・ピット等の遺構を検出し、E調査区では遺物包含層から弥生土器片が出土した。これにより、改修建物北側における埋蔵文化財の保護が課題となった。調査結果を踏まえて、埋蔵文化財資料館専門委員会が埋蔵文化財の保護について協議を行った結果、矢板工法により掘削幅を極力狭くすれば、検出された遺構が保護され、埋蔵文化財の破壊が最小限にとどまることが判明した。そこで、改修建物の北側における掘削工事は矢板工法で行い、工事掘削の際に立会調査を実施することにより埋蔵文化財の記録保存を行うことになった。

今回の調査によって、これまで状況が不明確であった吉田構内中心部における埋蔵文化財の存在が明らかとなった。今後の調査によって、さらに詳しく埋蔵文化財の分布を明らかにしていく必要がある。

[註]

- 1) 河村吉行(1991)「第2章 吉田構内水銀灯新営に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報IX』, 山口



写真9 A調査区全景(西から)



写真10 A調査区北壁土層断面(南から)



写真11 B調査区南部遺構検出状況(東から)



写真12 C調査区南部遺構検出状況(東から)



写真13 D調査区全景(西から)



写真14 D調査区北壁土層断面(南西から)



写真15 E調査区全景(西から)



写真16 E調査区北壁・西壁土層断面(東から)



写真17 F調査区遺構検出状況(南西から)



写真18 F調査区北壁・西壁土層断面(南東から)

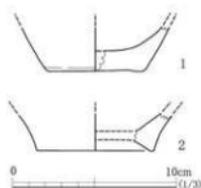


図12 出土遺物実測図



写真19 出土遺物

表2 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物 番号	地区	層位	器種	部位	法量(cm)		色調		胎土	備考
					①口径	②底径	③器高	①外面		
1	E	5-1	弥生土器 甕	底部	②(5.8)		①灰オリーブ色(5Y6/2) ②灰白色(5Y7/2)	0.1~3mmの砂粒を 多く含む		
2	E	5-1	弥生土器 甕	底部	②(7.2)		①浅黄色(2.5Y7/4) ②黄灰色(2.5Y6/1)	0.1~4mmの砂粒を 多く含む		

2. 教育総合研究センター改修Ⅰ期工事に伴う立会調査

調査地区	吉田構内I・J・K-16区、H-12区、 E-20区
調査面積	約580㎡
調査期間	平成17年7月12、8月22、9月8、12～14、 10月25、28、12月20、22、26～28、1月 5～6、10、16～19、23、25、26、2月 3、8、9日
調査担当	田畑直彦

調査結果 教育総合研究センター改修Ⅰ期工事に伴い、立会調査を実施することとなった。調査は改修建物周辺(調査区位置図①)のほか、工事に伴う仮設電力引き込み設置に伴い、サッカー・ラグビー場(調査区位置図②)、電気設備改修工事に伴い、正門の守衛所南側(調査区位置図③)でも工事が行われた。これらの調査区は広範囲に分散しているため、以下では、1～8区に分けて報告を行う。

1・2区は外壁新設工事に伴う調査区で、1区は幅約5m、長さ約50mの範囲、2区は幅約2.7m、長さ約50mの範囲を、いずれも現地表下から約150～200cmまで掘削を行うもので、建物外壁から外側約1.9mまでは掘削底面まで攪乱されていた。3区は排水管と雨水枡新設工事に伴う調査区である。幅1.4m、延長約100mを、最深处で現地表下約170cmまで掘削を行うものであった。

1区では、1A地点の南壁、現地表下約110cmで幅約2m、深さ約30cm、埋土が暗緑灰色(10G3/1)粘土の単一層である遺構の一部を確認した。また、1B地点では、現地表下約150cmで、予備発掘調査時に検出した河川の延長部分を検出した。河川は調査区壁面で幅約2.1m、深さは44cm以上である。いずれも遺物は出土しなかった。

2、3区は近接しているため、合わせて東側から報告する。3A地点では、現地表下約100～80cm、造成土直下で黒褐色(10YR3/1)粘質土を検出し、弥生土器・土師器小片が少量出土した。若干色調は異なるが、この層は予備発掘調査E調査区で検出された黒褐色粘質土と同一層であると考えられる。2A地点では、現地表下約125cm、層厚約30cmの黒褐色粘質土の直下で土坑を検出した。86cm×25cm以上の規模で、深さは約13cm、埋土は黒色(10YR2/1)粘

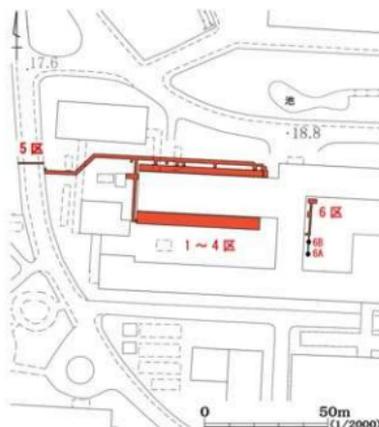


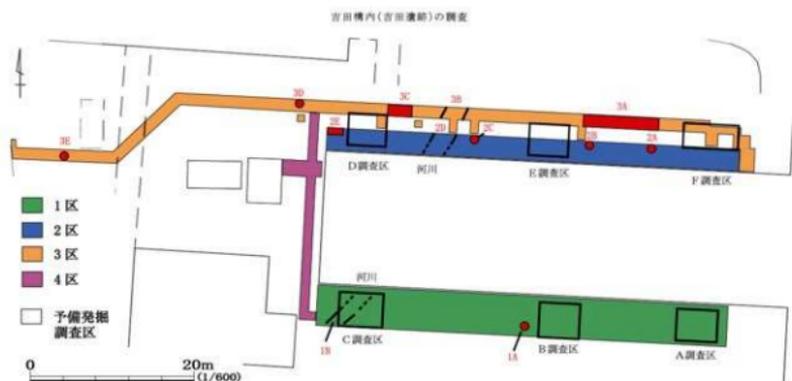
図13 調査区位置図①



図14 調査区位置図②



図15 調査区位置図③



質土の単一層である。遺物は出土しなかった。2B地点北壁では、現地表下約130cm、層厚約30cmの黒褐色粘質土の直下で幅約50cm、深さ約20cm、埋土は黒褐色(10YR3/1)粘質土の単一層である遺構の一部を検出した。2C地点北壁では現地表下約110cmで、幅約170cm、深さ50cm以上、埋土がオリーブ黒色粗砂である溝の一部を検出した。遺物は出土していない。2D、3B地点では、河川を検出した。2D地点北壁では、現地表下約90cmで河川上面を検出し、幅約2.5m、深さ50cm以上であることを確認した。埋土は、現地表下約90～113cmが灰黄褐色(10YR4/2)シルト、113～145cmが灰色(7.5Y4/1)粗砂、掘削底面が灰色(N4/0)粘質土と明黄褐色(5YR5/6)粗砂とのブロック土であった。流路方向は北東～南西であり、1B地点で検出された河川と同一の可能性が高い。検出時に弥生土器、土師器、須恵器小片が少量出土した。3C地点東側では、現地表下117cmで、直径約22cmのピットを検出した。埋土は灰褐色(7.5YR4/2)シルトと明黄褐色(10YR6/6)粘土のブロック土である。掘削は行っていない。同地点西側では現地表下107cmで幅・長さ40cm以上の遺構の一部を検出した。埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトである。いずれも遺物は出土していない。2E地点北・西壁では、直径、深さが約10cmのピットを3基検出した。埋土は黒褐色(10YR3/1)粘質土である。遺物は出土していない。

3D地点は現地表下約122cmまでが造成土で、掘削底面で黒褐色(10YR3/1)シルト、灰黄褐色(10YR4/2)粘質土を検出した。攪乱が激しいため断定できないがこれらは遺構の一部である可能性がある。3E地点は現地表下約105cmまでが造成土、105～115cmが旧水田耕土・床土、115～133cmが灰オリーブ色(5Y6/2)シルトであった。この地点では、灰オリーブ色シルト上面で幅40cm、長さ170cm以上の遺構の一部を検出した。埋土は灰色(5Y4/1)シルトと灰オリーブ色(5Y6/2)シルトとのブロック土である。3D～3E地点間では現地表下約120～130cmで灰色系シルトを検出している。遺物は出土していないが、遺物包含層の可能性が高い。

なお、3A地点から東側では、掘削が現地表下100cm以下にとどまったため、旧水田耕土及び造成土の範囲内であった。また3区のうち予備発掘調査区に重複する部分では、掘削が遺構面に及ぶことはなく埋蔵文化財に支障はなかった。

4区は排水管・給水管・ガス管新設工事に伴う調査区である。幅1m、長さ約25mの範囲を最深度で現地表下約150cmまで掘削を行うものであった。調査の結果、攪乱が激しく、調査区北部の一部において現地表下約120cmで旧水田耕土を確認したのみで、埋蔵文化財に支障はなかった。

5区は、建物東側の仮設電力引き込み工事に伴う調査区である。工事は幅約0.6m、長さ約10mの範囲を現地表下約50cmまで掘削を行うものであった。調査の結果、すべて造成土の範囲内で埋蔵文化財に支障はなかった。

6区は、建物東側の設備配管新設に伴う工事に伴う調査区である。工事は、幅0.3～1.8m、長さ約20mの範囲を平均で現地表下から80cm、一部の地点で140cmまで掘削を行うものであった。大半は造成土の範囲内であったが、6A地点では現地表下85cm、6B地点では現地表下55cmで、明黄褐色(2.5Y7/6)粘土の地山を検出した。

7区は、サッカー・ラグビー場の仮設電力引き込み工事に伴う調査区である。工事は、支線の基礎を埋設するため、1.2m×2mの範囲を現地表下から約102cmまで掘削を行うものであった。層序は現地表下57cmまでが表土・造成土、57～72cmが旧水田耕作土であるオリーブ灰色(2.5GY4/1)シルト、72～87cmが旧水田床土であるオリーブ灰色(7.5Y6/3)シルトであった。さらにその直下、現地表下87～105cmで灰色(7.5Y4/1)シルトを確認した。同層から遺物は出土しなかったが、遺物包含層の可能性が高い。

8区は、正門の守衛所南側で行われた電気設備改修工事に伴う調査区である。工事は幅約0.4m、延長10mの範囲を最大で現地表下約80cmまで掘削するものであったが、全て造成土の範囲内で、埋蔵文化財に支障はなかった。

以上の調査の結果、1～3区で埋蔵文化財が確認された。特に2、3区では、ピットや河川等を検出し、弥生土器、土師器、須恵器片等が出土した。1、4区では攪乱が激しいため、予備発掘調査の所見通り埋蔵文化財はあまり確認されなかったが、1、4区周辺においても、攪乱されていない場所であれば埋蔵文化財が遺存している可能性が高いと推測され、掘削工事の際には慎重な対応が必要である。



写真20 2C地点北壁土層断面 (南東から)



写真21 2D地点河川検出状況 (南西から)



写真22 3A地点南壁土層断面 (北東から)



写真23 3E地点南壁土層断面 (北から)

3. 日本ペドロジー学会水田土壌の断面調査に伴う立会調査



図17 調査区位置図



写真24 水田土壌調査風景（西から）



写真25 調査区土層断面（南東から）

調査地区 吉田構内R-16区

調査面積 約3.1㎡

調査期間 平成17年9月23、24日

調査担当 田畑直彦

調査結果 吉田構内の東部に位置する農学部附属農場実習水田にて、日本ペドロジー学会により開催された第15回ペドロジスト・トレーニングコースによる水田土壌の断面調査が計画されたことを受けて、立会調査を実施した。

調査による掘削は、実験水田4号田ほぼ中央において、1.4m×2.2mの範囲を最深度で現地表下から約70cmまで掘り下げるものであった。

調査の結果、現地表下約22cmまでが現在の耕土・床土、32cmまでが統合移転前の耕土と考えられるオリブ灰色(2.5Y4/3)粘質土であった。以下、現地表下32～54cmで地山と考えられるオリブ灰色(2.5GY4/1)シルト、54～70cmでオリブ灰色(2.5GY4/1)粗砂、底面の一部で黄褐色(2.5Y5/4)礫を検出した。また、オリブ灰色シルトを検出面とする河川もしくは溝と考えられる遺構の一部を検出した。埋土は黒褐色(2.5Y3/2)粘質土の単一層で、層厚は最大で約25cmである。遺物は出土しなかった。

調査地の西側に位置する5号田では、平成9年度に実施されたバイオ環境制御施設新営に伴う試掘調査で古代の河川が検出されている^{註1)}。また、1～5号田では多数の土器が採集されていることから^{註2)}、今後とも調査地周辺では埋蔵文化財の保護に十分な注意を払う必要がある。

[註]

- 1) 田畑直彦(2004)「第6章第1節2 農学部バイオ環境制御施設新営に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』, 山口
- 2) 田畑直彦(2004)「付録II 吉田構内農学部附属農場の分布調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』, 山口

4. 基幹環境整備(外灯取設)に伴う立会調査

調査地区 吉田構内H-17区、H-22・23区

調査面積 7.7㎡

調査期間 平成17年12月5・8日

調査担当 横山成己

調査結果 吉田構内において外灯の新設工事が計画されたことを受け、立会調査を実施した。外灯取設計画地点は、構内南端部に位置する野球場とサークル棟の間の2ヶ所(A・B地点)と音楽練習棟西側の1ヶ所(C地点)であり、外灯基礎設置のためにはそれぞれ1.6m四方の範囲で深度1.4mの掘削が必要とされた。計画地の内A・B地点は、近接地において弥生時代を中心とした遺構・遺物が顕著に確認されていることから、工事による埋蔵文化財の破壊が危惧されたため、工事担当者の協力の下慎重に掘削を行った。

調査により確認した層序は、A地点では現地表面より①表土～45cm、②造成土～53cm、③旧耕土(灰色粘質土)～5cm、④旧床土(黄褐色粘質土)～9cm、⑤灰褐色粘質土～5cm、⑥黄褐色強粘土～26cm、⑦明黄褐色粘質土(地山)である。B地点の層序は①表土～30cm、②造成土～28cm、③旧耕土～6cm、④旧床土～6cm、⑤灰色粘性砂質土～11cm、⑥明黄褐色粘質土(地山)である。調査範囲が限定されているため、本調査では埋蔵文化財の遺存は確認されなかったが、両調査地点の現地表下に安定した地山面が確認されたことは大きな成果と言える。当館の過去の調査により、調査地点の北に近接するサッカー場周辺では遺物を密に含む旧河川跡が検出されており、低湿地帯であったことが明らかとなっている。そのため、調査地周辺が微高地であれば集落が形成されている可能性が極めて高いと考えられる。一方C地点は、現地表面より①表土～60cm、②造成土～90cm以上であり、埋蔵文化財に支障のある工事とはならなかった。

[註]

- 1) 小野忠熙(1976)『山口大学構内吉田遺跡発掘調査概報』、小野忠熙(編)、山口



図18 調査区位置図



写真26 B地点土層断面(東から)

5. 教育総合研究センター改修Ⅱ期工事に伴う予備発掘調査

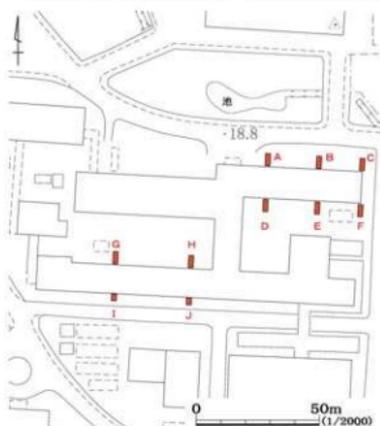


図19 調査区位置図

調査地区 吉田構内K・L-16、J-16、17、K-17区

調査面積 約92㎡

調査期間 平成18年3月27日～4月28日

調査担当 田畑直彦

調査結果

(1)調査の経過(図19、写真27・28)

前項で報告した教育総合研究センター改修Ⅰ期工事に引き続き、Ⅱ期改修工事が行われることが決定したことを受け(発掘調査を要する工事計画として、平成18年1月30日に埋蔵文化財資料館専門委員会にて承認)、工事予定地の予備発掘調査を実施することとなった。今回対象となるのは、Ⅰ期工事で改修が終了した共通教育本館西側部分を除く共通教育本館東側と南に連なる共通教育講義棟である。

工事はⅠ期工事と同様に、現状建物の南北に耐震補強用の外壁と設備配管を新設するものである。ただし、外壁は共通教育本館西側では、北壁の大半と南壁の中央部のみの新設であり、共通教育講義棟では東端部を除いた南壁にのみ新設されることとなった。なお、今回の工事予定地においても、Ⅰ期工事同様、これまでに調査が実施されていないため、工事予定地内にA～Iの10ヶ所の調査区を設けて予備発掘調査を行った。

(2)基本層序

基本層序は下記の通りである。A～F調査区では第3層は残存していない。またA～F調査区とG～J調査区は堆積状況がやや異なるため、各層の細分は両者で分けて記載した。

第1層 表土(層厚約4～60cm)

第2層 造成土(層厚約25～120cm)

第3層 旧水田耕土(層厚約4～12cm)

第4層 旧水田床土(層厚約2～15cm)

第5層 遺物包含層もしくは弥生時代以降の遺構面と考えられる層(層厚約8～40cm)

第6層 地山(層厚8～50cm以上)



写真27 A～C調査区調査前全景(東から)



写真28 D～F調査区調査前全景(東から)

(3) 層序・遺構

A調査区

A～C調査区の北半部は共同溝による掘削で攪乱されており、南半部は污水管と建物建設時による掘削によって攪乱されていた。このため攪乱されていなかったのは、両者の攪乱の間、南北幅約60cmであった。

A調査区の層序は、層厚約60cmの第1・2層、層厚約12cmの第4～1層：オリーブ灰色(5Y6/3)シルト、層厚88cm以上の河川埋土の順である。河川埋土からは、下層の灰色・灰黄褐色・黄灰色粗砂を中心に弥生土器・土師器片が多数と縄文時代の打製石斧が1点出土した。

B調査区

層序は、層厚約95cmの第1層・共同溝埋土、層厚50cm以上の河川埋土の順である。河川埋土からは弥生土器・土師器片が多数出土し、特に黒色(N2/0)粘土からは、底部を欠く1個体の土師器甕が出土した。

C調査区

層序は、層厚約90cmの第1層・共同溝埋土、層厚60cm以上の河川埋土の順である。この調査区では、排水管が深く埋設されていたため、土層が観察できたのは、東壁・西壁のみであった。

河川埋土からは、黄灰色(2.5Y5/1)粗砂から弥生土器甕底部片が1点出土するにとどまったが、調査区南部では河川埋土を含むと見られる第2～1層から、弥生土器・土師器片が多数出土した。

D調査区

D～F調査区の北半部は污水管と建物建設時による掘削で攪乱されていた。

D調査区の層序は、層厚約70cmの第1・2層、層厚約15cmの第4～2層：ぶい黄色(2.5Y6/3)シルト、層厚約10cmの第5～1層：黒褐色(10YR3/1)シルト、層厚50cm以上の第6～1層緑灰色(7.5GY6/1)シルトの順である。この調査区では、第4～2層上面で旧水田暗渠1条、第5～1層上面で河川1条、第6～1層上面で落ち込み1基(SX1)と杭跡を検出した。

河川は南側の肩帯を検出したが、北側は攪乱されているため幅は不明である。南東から北西方向に流れていたと推測され、深さは65cmである。下層には灰色(7.5Y4/1)粗砂が多く堆積する。埋土からは下層を中心に弥生土器～土師器片多数と須恵器坏蓋片が1点出土した。また、河床からは自然木が出土した。

SX1は掘削を行っていないが埋土が第5～1層と同一であり、同層は北から南、東から西へ緩やかに傾斜して堆積していることから、第5～1層が旧地形の落ち込み部分に堆積したもので遺構ではない可能性がある。遺物が出土していないため時期は不明である。杭跡は4基検出した。埋土は第5～1層と同一であるが、どの層から打ち込まれたものか確認できなかった。

E調査区

この調査区では南半部にも排水管があり、攪乱が著しかった。層序は、層厚約80cmの第1・2層と層厚約4cmで調査区北部の一部にのみ残存する第4～3層：オリーブ黄色(2.5Y6/4)シルト、層厚約12cmの第5～2層：黄灰色(2.5Y4/1)シルト、層厚約15cmの第6～2層：黄褐色(2.5Y5/3)シルト、層厚10cm以上の第6～3層：灰オリーブ色(7.5Y6/2)シルトの順である。第5～1層からは弥生土器・土師器片が少量出土した。また、調査区南西隅では第6～2層上面で、落ち込み1基(SX1)を検出した。埋土は黒褐色(2.5Y3/1)シルトで、周囲の大半が攪乱されている。掘削を行っていないため、詳細は不明である。

- 1 表土(マサ土)
 2-1 造成土
 灰オリーブ色
 (7.5Y4/2)粘質土
 マサ土、4-1、河川
 埋土を含む
 4-1 旧水田床土
 オリーブ灰色(5Y6/3)
 シルト
 河川埋土
 a 灰黄褐色(10YR6/2)シルト
 b 褐灰色(10YR4/1)シルト
 c 黒褐色(10YR3/1)シルト
 d 黄灰色(2.5Y4/1)シルト
 e 灰色(7.5Y4/1)粗砂
 0.5~1cm大の礫含む
 f 灰黄褐色(2.5Y6/2)粗砂
 0.5~3cm大の礫含む
 g 黄灰色(2.5Y4/1)シルト
 h dと緑灰色(7.5GY4/1)シルト
 のブロック土
 i 暗灰黄色(2.5Y5/2)粗砂
 j 黒色(N2/0)粘土
 にjをブロック状に含む
 k 緑灰色(7.5GY7/1)シルト
 にjをブロック状に含む
 l 緑灰色(10G6/1)シルト
 m 暗灰色(8.5/0)シルト
 n 黄灰色(2.5Y5/1)粗砂
 0.5~2cm大の礫を含む

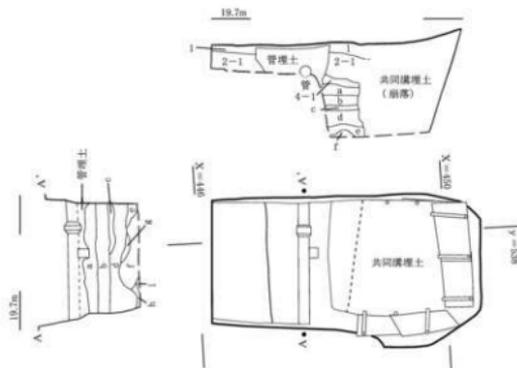


図20 A調査区平面図・断面図

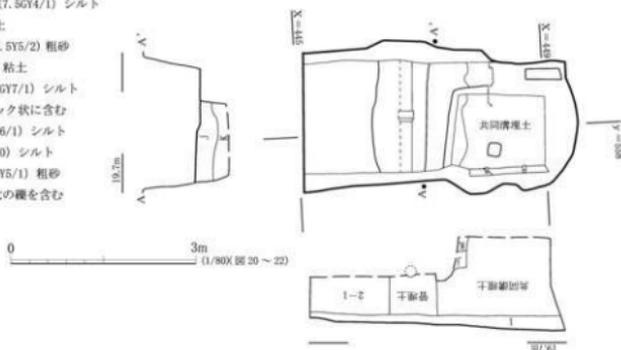


図21 B調査区平面図・断面図

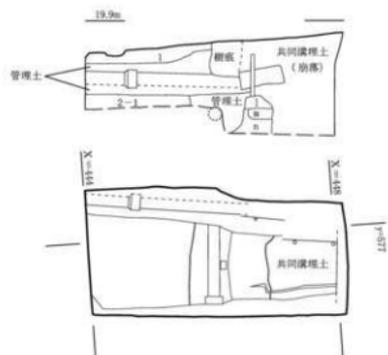


図22 C調査区平面図・断面図

F調査区

層序は、層厚約25cmの第1層、層厚約15cmの第5-1層:黒褐色(10YR3/1)シルト、層厚40cm以上の第6-4層:オリーブ黄色(5Y6/3)シルトの順である。調査区南端では現地地表わずか25cmで第6-4層が検出され、同層上面でピット2基(Pit1、2)、落ち込み1基(SX1)を検出した。Pit1は直径32cm、深さ45cm、Pit2は直径15cm、深さ6cm、埋土は第5-1層と同一である。SX1は攪乱のため規模は不明。深さは8cmである。上層は黒褐色(10YR3/1)シルトで部分的に堆積し、下層は上層と第6-4層とのブロック土である。いずれも埋土の色調から古代以前の遺構と推測されるが、遺物は出土しなかった。

G調査区

G、H調査区は南半部が污水管と建物建設時による掘削によって攪乱されていた。

G調査区の層序は、層厚約160cmの第1・2層、層厚約12cmの第3-1層:灰色(7.5Y4/1)シルト、層厚約20cmの第4-2層:灰オリーブ色(7.5Y5/2)シルト、層厚45cm以上の第6-1層:明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土の順である。この調査区では、第6-1層上面で落ち込み2基(SX1・2)、溝1条(SD1)を検出した。SX1は統合移転直前まで機能していた水田に関わる遺構と考えられる。SX2はSX1と排水管により攪乱を受けているため、ごく一部の検出にとどまった。埋土は暗灰色(N3/0)シルトと第6-1層とのブロック土で、深さは約2cmである。埋土がSD1と近似すること位置関係からSD1の延長部分の可能性はある。

SD1は北肩部分を検出したが、南半分は建物建設時により攪乱されているため、幅は不明である。検出面からの深さは45cmで、埋土は粘土・粗砂・シルトの互層であり、流水状況にあったことがうかがえる。埋土からは中層～下層を中心に弥生土器片が多数出土した。器形が判別できるものはすべて弥生時代中期後半の土器であり、当該期の遺構と考えられる。

H調査区

層序は、層厚約120cmの第1・2層、層厚約12cmの第5-2層:黒褐色(10YR3/1)シルト、層厚8cm以上の第6-2層:浅黄色(2.5Y7/4)粘質土の順である。この調査区では、第6-2層上面で、旧水田暗渠1条と落ち込み1基(SX1)を検出した。SX1の埋土は第5-2層と同一であり、深さ4cmにとどまることから、同層が旧地形の落ち込み部分に堆積したもので、遺構ではない可能性がある。この調査区から遺物は出土しなかった。

I調査区

I、J調査区は北半部が污水管と建物建設時による掘削によって攪乱されていた。

I調査区の層序は、層厚約90cmの第1・2層、層厚約4cmの第4-1層:オリーブ黄色(7.5Y6/3)シルト、層厚約30cmの第5-1～4層、層厚8cm以上の第6-3層:明黄褐色(10YR7/6)シルトの順である。第5-1～4層は色調から遺物包含層の可能性があり、慎重に精査したが遺物は出土しなかった。また、第6-3層上面でピット2基(Pit1・2)を検出した。Pit1は幅10cm、長さ20cm、深さ3cm、埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトである。Pit2は幅36cm以上、長さ60cm以上で、深さ9cm、埋土は黒褐色(10YR3/1)シルトと第5-4層:明黄褐色(10YR6/6)シルトとのブロック土である。いずれも遺物は出土しなかった。なお、Pit1・2とも深さが浅いこと、検出面に起伏があり、埋土が第5-4層に近似することから、同層が旧地形の落ち込み部分に堆積したもので、遺構ではない可能性がある。

- 1 表土(マサ土)
- 2-1 造成土
- 灰オリーブ色
(7.5Y4/2) 粘質土
マサ土、4-1、河川
埋土を含む
- 4-2 旧水田床土
にぶい黄色(2.5Y6/3)シルト
- 4-3 旧水田床土
オリーブ黄色(2.5Y6/4)シルト
- 5-1 黒褐色(10YR3/1)シルト
- 5-2 黄灰色(2.5Y4/1)シルト
0.5~2cm大の礫含む
- 6-1 地山
緑灰色(7.5GY6/1)シルト
- 6-2 地山
黄褐色(2.5Y5/3)シルト
- 6-3 地山
灰オリーブ(7.5Y6/2)シルト
- 6-4 地山
オリーブ黄色(5Y6/3)シルト

- ア 旧水田暗渠埋土
5-1と6-1をブロック状に含む
- イ~ケ D調査区河川埋土
- イ 5-1に0.5~1cm大の礫を多く含む
- ウ 黄灰色(2.5Y4/1)シルト
- エ 暗灰色(N3/0)シルト
- オ 灰色(7.5Y4/1)粗砂
0.5~3cm大の礫を含む
- カ オにエをブロック状に含む
- キ 灰色(7.5Y5/1)シルト
- ク 灰色(7.5Y4/1)シルト
0.5~1cm大の礫を含む
- ケ 灰色(7.5Y6/1)礫
0.5~3cm大の礫主体
- コ E調査区SX1埋土
黒褐色(2.5Y3/1)シルト
- フ F調査区Pi11・2、SX1埋土
黒褐色(10YR3/1)シルト
- セ F調査区SX1埋土
6-4にシをブロック状に含む

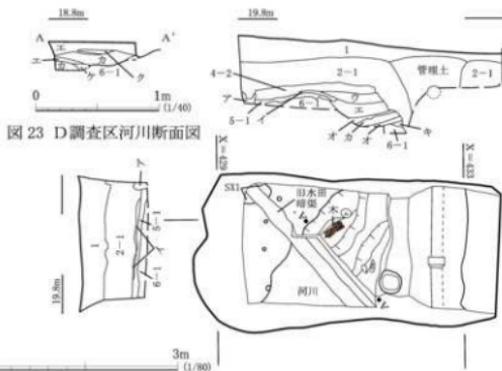


図23 D調査区河川断面図

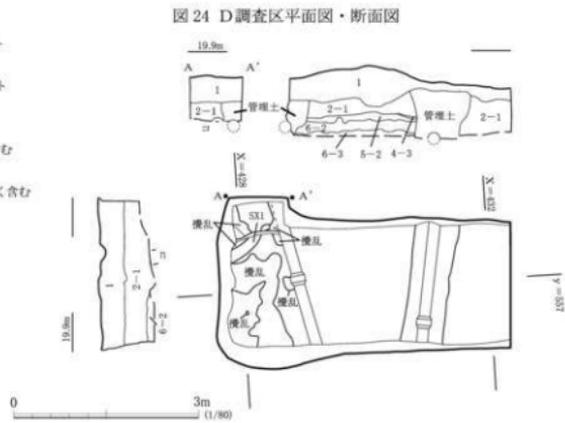


図24 D調査区平面図・断面図

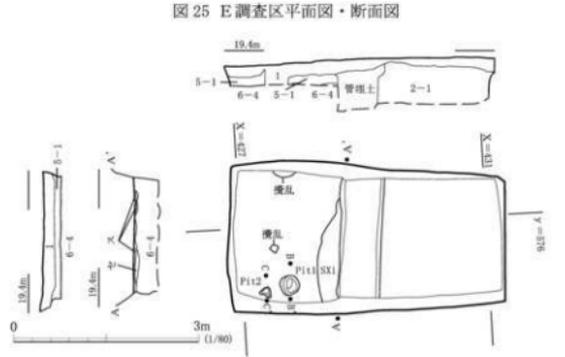


図25 E調査区平面図・断面図

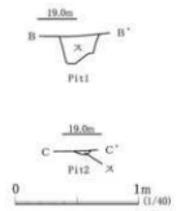


図26 F調査区遺構断面図

図27 F調査区平面図・断面図

- 1 表土 (マサ土)
- 2-2 造成土 バラス
- 2-3 造成土 マサ土
- 2-4 造成土 砂
- 2-5 造成土 6-1に3-1、4-2を
ブロック状に含む
- 2-6 造成土
4-3、5-2、6-2のブロック土
- 2-7 造成土 4-3に青灰色 (5B6/1)
粘質土を少量含む
- 2-8 造成土 灰色 (7.5Y4/1) 土
バラス含む
- 2-9 造成土 灰色 (7.5Y4/1) 土
旧水田耕土主体
- 3-1 旧水田耕土
灰色 (7.5Y4/1) シルト
- 4-1 旧水田床土
オリーブ黄色 (7.5Y6/3) シルト
- 4-2 旧水田床土
灰オリーブ色 (7.5Y5/2) シルト
- 4-3 旧水田床土
浅黄色 (5Y7/4) シルト
- 5-1 灰色 (7.5Y5/1) シルト
- 5-2 黒褐色 (10YR3/1) シルト
- 5-3 明黄褐色 (10YR6/6) シルト
- 5-4 黒褐色 (10YR3/1) 粘質土と
5-3のブロック土
- 6-1 地山
明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘質土
- 6-2 地山
浅黄色 (2.5Y7/4) 粘質土
- 6-3 地山
明黄褐色 (10YR7/6) シルト

遺構埋土

- A 暗灰色 (N3/0) 粗砂
同色シルトを含む
- B 灰色 (5Y5/1) 粗砂
0.5~1cm次の礫を含む
- C 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質土
- D 灰色 (5Y5/1) 粗砂
0.5~3cm次の礫を含む
- E 灰色 (5Y5/1) シルト
- F Cと6-1のブロック土
- G 4-2に6-1をブロック状に含む
- H 淡黄色 (2.5Y8/4) 粘質土
- I 黒褐色 (10YR3/1) 粘質土
- J HとIのブロック土
- K 黒褐色 (10YR3/1) シルト
- L Iと5-3のブロック土



図28 G調査区SD1断面図

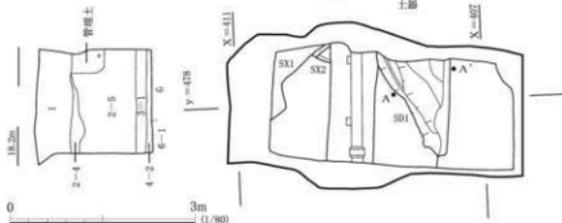


図29 G調査区平面図・断面図

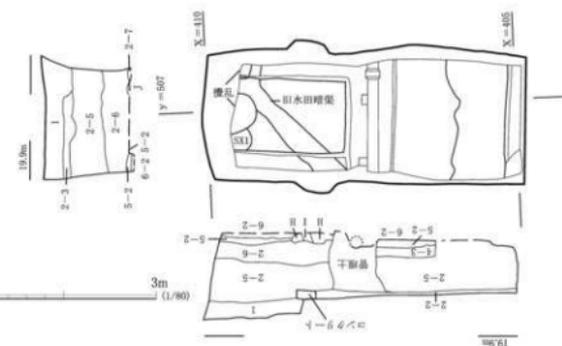


図30 H調査区平面図・断面図

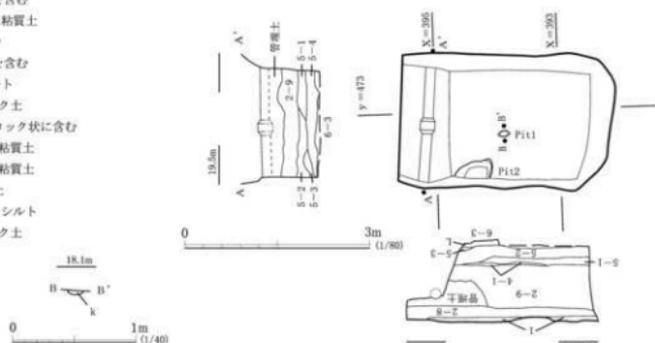


図31 I調査区Pit1断面図

図32 I調査区平面図・断面図

J調査区

調査区の大半が共同溝の設置に伴う掘削により攪乱されていた。層序は、層厚約60cmの第1・2層、層厚約10cmの第3-2層:暗オリーブ灰色(5GY4/1)シルト、層厚約8cmの第4-1層:オリーブ黄色(7.5Y6/3)シルト、層厚約8cmの第4-2層:灰オリーブ色(7.5Y5/2)シルト、層厚約24cmの第5-1層:灰色(7.5Y5/1)、層厚約20cmの第5-2層:黒褐色(10YR3/1)シルト、層厚35cm以上の第6-4層:にぶい黄色(2.5Y6/4)シルトの順である。この調査区の南西約30mの地点では、昭和62年度に教養部複合棟(現:メディア基盤センター)新営工事に伴う発掘調査で、黒褐色粘質土の遺物包含層が検出されている。このことから第5-1・2層は遺物包含層の可能性が高いと考え、慎重に精査したが遺物は出土しなかった。

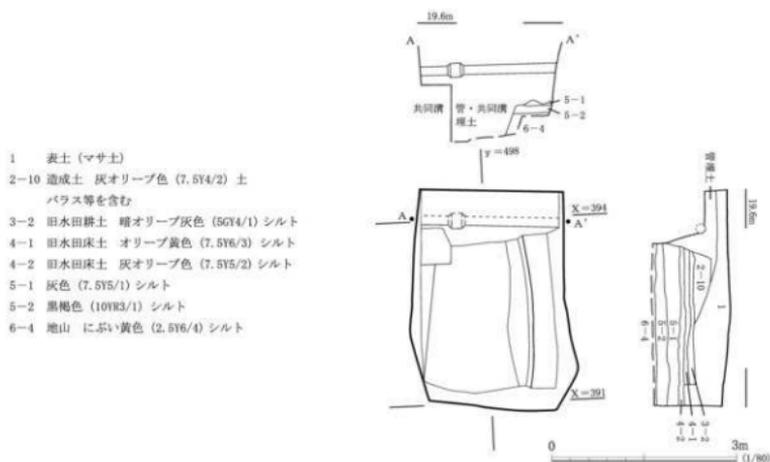


図33 J調査区平面図・断面図



写真29 A調査区南壁土層断面(北から)



写真30 B調査区南壁土層断面(北から)



写真31 C調査区西壁土層断面(東から)



写真32 D調査区河川土師器出土状況(北から)



写真33 D調査区南壁・河川土層断面(北から)



写真34 D調査区西壁土層断面(東から)



写真35 E調査区西壁土層断面(東から)



写真36 F調査区全景(南から)



写真37 F調査区Pit1・2半截状況(南から)



写真38 F調査区南壁・西壁土層断面(北東から)



写真39 G調査区S D1検出状況(北から)



写真40 G調査区S D1土層断面(南西から)



写真41 G調査区S D1弥生土器出土状況(西から)



写真42 G調査区S D1完掘状況(北から)



写真43 G調査区東壁土層断面(西から)



写真44 H調査区北部遺構検出状況(南から)



写真45 I調査区西壁土層断面(東から)



写真46 J調査区北壁・東壁土層断面(南西から)

(4) 遺物

今回の調査では、A～D調査区では河川、G調査区ではSD1から多数の遺物が出土した。出土遺物の総数は619点であるが、大半が図化不能の小片である。以下では図化できた代表的な遺物について述べる。

A調査区出土遺物

1～3、18は河川出土。1は土師器甕口縁部。2は土師器甕胴部。外面に横方向のタタキを施し、ススが付着する。3は土師器高坏脚部。18は打製石斧。頭部を欠損しており、正面・裏面中央部は素材面をそのまま残している。石質は結晶片岩である。

B調査区出土遺物

4、5は河川出土。4は弥生時代中期の跳ね上げ口縁の甕。5は土師器甕で古墳時代中期に属する。口縁部は直線的に外反し、口唇部はヨコナデによりやや内傾する。外面にタテハケ、内面にナデを施す。口縁部の一部が歪んでおり、注口状を呈していた可能性があるが、欠損のため定かではない。6は白磁で玉縁の口縁部を持つ。第2層から出土。

C調査区出土遺物

7は弥生時代中期の壺口縁部で垂下部に山形文を施す。第2層出土であるが、本来は河川埋土に含まれていた可能性が高い。8は弥生土器の壺もしくは鉢底部。内外面にミガキを施す。河川出土。

D調査区出土遺物

河川から弥生土器・土師器片が多数出土した。9・11～17は河川出土。9は弥生時代前期の甕口縁部。口唇部に刻目、胴部に浅い段を持つ。10は古墳時代前～中期の土師器甕口縁部。河川を掘りこんだ管理土出土で、本来は河川埋土に含まれていた可能性が高い。口唇部をヨコナデによりつまみ上げ、胴部外面には右上がりのタタキが残る。11、12は古墳時代中期の土師器高坏坏部。11はヨコナデにより口縁部先端をわずかに外反させる。坏部中位に浅い段を持ち、坏部下半の脚部との接合面で欠損している。12は口縁部上半をヨコナデにより外反させ、坏部中位には浅い段を持つ。13～15は古墳時代前～中期の土師器高坏脚部。13は坏部との接合面で欠損している。外面にタテミガキを施し、下半に1個単位の円形透かし穴を3方向から施す。内面にはシボリ痕を残す。16は小型の土師器壺もしくは鉢底部。不安定な平底で外面は風化が激しく調整不明。内面はタテ、ヨコハケ後ナデを施す。17は須恵器坏蓋片。古墳時代後期前半～中頃に属するものと考えられる。

G調査区出土遺物

SD1から弥生時代中期後半の土器がまとめて出土した。19は広口壺の口縁部。口唇部をやや肥厚させてつまみあげる。外面にはナデを施す。内面は風化により調整不明。20は壺の頸部で1条の貼付突帯を施し、突帯上に布による刻目を持つ。内外面にはタテハケを施す。21、22は同一個体と考えられる壺の頸～胴部。器面の残存状況は極めて良好で、断面もほとんど風化していない。図示していないが、他にも接合しない同一個体片があり、調査区外にも同一個体片が存在する可能性が高い。21は頸部に1条の貼付突帯を施し、突帯上に布による刻目を持つ。外面はタテハケ後に右上がりのミガキ、内面にはナデを施す。22は胴部最大径の位置に2条1組の貼付突帯を施す。外面はタテハケ後左上がりのミガキ、内面にはナデを施す。23は甕口縁～胴部。口唇部をやや肥厚させてつまみあげる。外面にタテハケ、内面にナデを施す。24は甕底部。内外面とも風化が激しい。

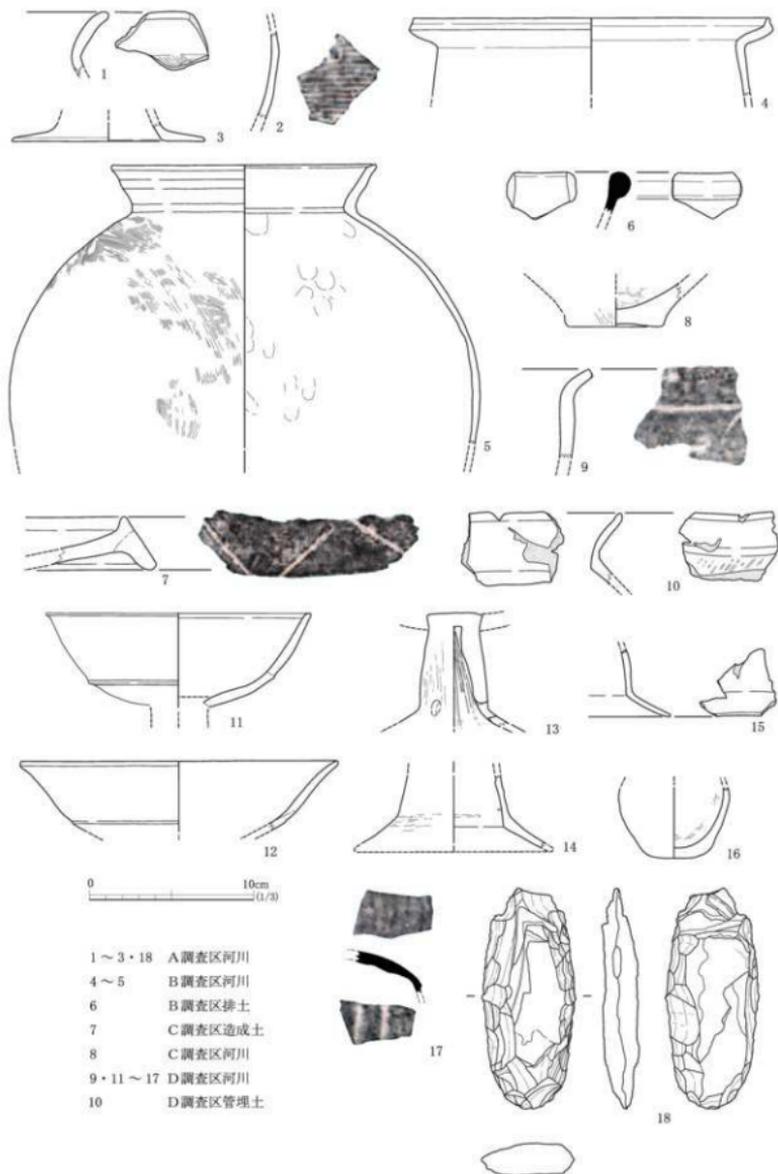
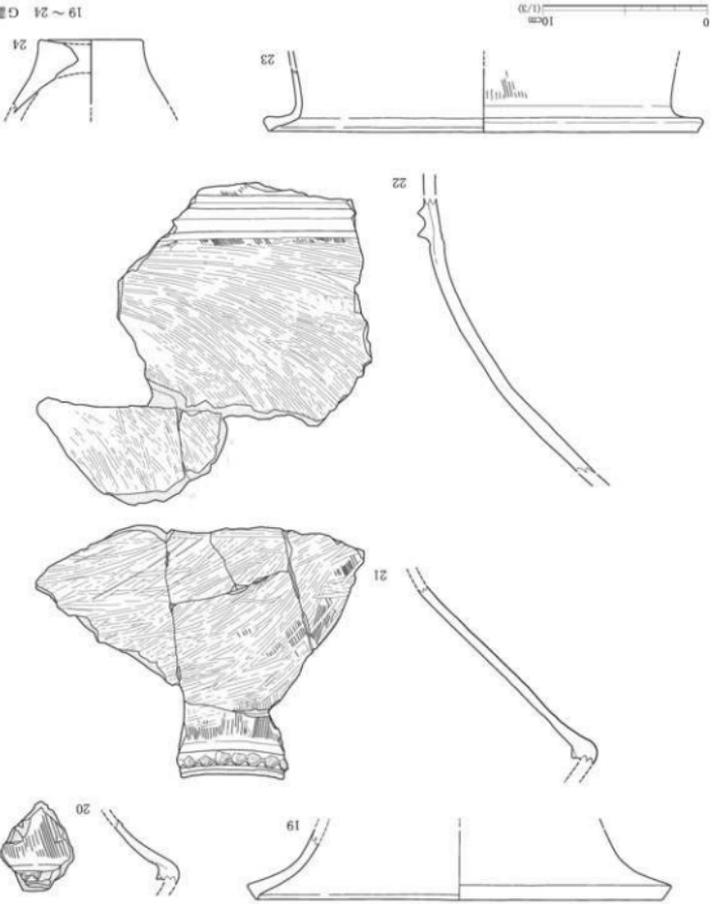


図34 出土遺物実測図①

图 35 出土遺物実測図②
19～24 G調査区SD1



原目録内(古田遺跡)の調査



写真 47 出土遺物①



写真 48 出土遺物②

表3 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物 番号	地区	層位	器種	部位	法量(cm)		胎土	備考	
					①口径	②底径			③器高
1	A	河川 f	土師器 甕	口縁部			①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	
2	A	河川 f	土師器 甕	胴部			①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	外面 スス付着
3	A	河川 f	土師器 高坏	脚部	②(11.7)		①②にぶい黄褐色 (10YR6/4)	0.1~1mmの砂粒を少量含む	
4	B	河川 j	弥生土器 甕	口縁部 ~胴部	①(10.8)		①②灰黄色(2.5Y6/2)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	
5	B	河川 j	土師器 甕	口縁部 ~胴部	①16.2		①②2.5Y7/2灰黄色	0.1~3mmの砂粒を多く含む	注口状を呈 する可能性
6	B	排土	磁器 碗	口縁部			素地 灰白色(5Y7/2) 釉 オリーブ黄色(5Y6/3)	精緻	
7	C	2	弥生土器 壺	口縁部			①にぶい黄褐色(10YR6/4) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	
8	C	河川	弥生土器 壺または鉢	底部	②(5.6)		①浅黄色(2.5Y6/3) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	
9	D	河川	弥生土器 甕	口縁部 ~胴部			暗灰黄色(2.5Y5/2) 黄褐色(2.5Y5/3)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	
10	D	管 埋土	土師器 甕	口縁部			①②灰黄色(2.5Y6/2)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	
11	D	河川	土師器 高坏	坏部	①16.1		①橙色(5YR7/6) ②にぶい橙色(5YR7/4)	0.1~1mmの砂粒を少量含む	
12	D	河川	土師器 高坏	坏部	①(19.4)		①灰黄褐色(10YR4/2) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	
13	D	河川	土師器 高坏	脚部			①②浅黄色(2.5Y7/4)	0.1~3mmの砂粒を少量含む	
14	D	河川	土師器 高坏	脚部			①②にぶい黄褐色 (10YR6/4)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	
15	D	河川	土師器 高坏	脚部			①②にぶい黄褐色 (10YR6/4)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	
16	D	河川	土師器 壺または鉢	胴部 ~底部	②3.5		①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(2.5Y8/2)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	
17	D	河川	須恵系 坏蓋	天井部			①灰色(N5/0) ②灰色(N6/0)	0.1~1mmの砂粒を少量含む	
19	G	SD1	弥生土器 壺	口縁部	①(24.6)		①淡褐色(5YR8/3) ②黄灰色(2.5Y6/1)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	
20	G	SD1	弥生土器 壺	頸部			①②灰黄色(2.5YR7/3)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	
21	G	SD1	弥生土器 壺	頸部 ~胴部			①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②浅黄色(2.5Y7/3)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	
22	G	SD1	弥生土器 壺	胴部			①にぶい黄褐色(10YR7/3) ②浅黄色(2.5Y7/4)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	
23	G	SD1	弥生土器 甕	口縁 ~胴部	①(26.1)		①淡褐色(5YR8/3) ②黄灰色(2.5Y6/1)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	
24	G	SD1	弥生土器 甕	底部	②(6.4)		①にぶい黄色(2.5Y6/4) ②浅黄色(2.5Y7/4)	0.1~3mmの砂粒を多く含む	

表4 出土遺物(石器)観察表

法量()は復元値

遺物 番号	地区	層位	器種	法量(cm)	重量(g)	材質	備考
18	A	河川 f	打製石斧	全長13.5 最大幅1.05 最大厚2.1	200.1	結晶片岩	

(5) 小結

今回の予備発掘調査は、共通教育棟本館東側と共通教育講義棟西側周囲に合計10ヶ所の調査区を設けて実施した。共通教育本館東側ではA～D調査区で河川、E調査区で遺物包含層と落ち込み、F調査区でピットと落ち込みを検出した。

A～D調査区で検出された河川は、その位置関係から一連の河川と推測される。河床を検出したのはD調査区のみであるが、現地地形から流路方向は東から西と考えられる。また、調査面積が狭小にもかかわらず、埋土からは多数の遺物が出土した。出土土器は弥生土器・古墳時代前～中期の土師器が主体で古代以降の遺物を含んでいないことから、古墳時代後期頃に埋没したと推測される。このほか、D調査区では自然木も出土したことから、未調査部分には木製品等も遺存している可能性がある。出土土器は風化したものが多いことから、調査区周辺及び弥生～古墳時代の集落が存在したと推測される調査区北側の丘陵部から流れこんだものであろう。また、共通教育本館東側に隣接する総合図書館敷地でも埋土に弥生土器、須恵器、磁器、瓦質土器を含む河川が検出されており、関連が注目される。

E・F調査区で検出された落ち込み、ピットは出土遺物がないため詳細は不明であるが、埋土の色調から古代以前の可能性が高い。特にF調査区では現地表下わずか25cmで遺構面が検出されたため、調査区周辺では、今後の掘削工事にあたって埋蔵文化財の保護に十分な注意が必要である。

共通教育講義棟西側ではG調査区で弥生時代中期後半の溝を検出した。吉田構内中心部における明確な弥生時代の遺構がこれが初めてである。ごく一部の検出であるため詳細は不明であるが、出土土器は器面の残存状況が極めて良好であり、周囲に集落が存在した可能性が高い。

H・I・J調査区ではH調査区で旧水田暗渠を検出した以外に明確な遺構を検出できなかった。また、遺物包含層の可能性のある土層を検出したが、遺物は皆無であった。上記の調査区周辺では、旧水田の造成及び統合移転時の造成により、遺構や遺物包含層が削平されている可能性も考えられるが、未調査地域が多いため今後も慎重な調査が必要である。

上記の調査結果を受けた埋蔵文化財資料館専門委員会の審議・判断に基づき、共通教育本館北側(A～C調査区)については、河川が検出されたものの攪乱が著しいことから、工事施工時に立会調査を実施し、本館南側(D～F調査区)については、遺構と遺物包含層が確認されたため、本発掘調査を実施することになった。また、共通教育講義棟北側(G・H調査区)については、掘削工事が概設の排水管を撤去し、同じ場所に排水管を新設する工事のみにとどまったことから、立会調査を実施することになった。共通教育講義棟南側(I・J調査区)では、遺物包含層の可能性のある土層を確認したものの、明確な遺構が検出されず遺物も皆無であったことから、工事掘削幅を極力狭くした上で立会調査を実施することになった。

〔註〕

- 1) 河村吉行(1988)「第3章 吉田構内教養部複合棟新営に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅶ』, 山口
- 2) 森田孝一・河村吉行・杉原和恵(1986)「第3章 吉田構内大学会館環境整備に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅵ』, 山口
- 3) 河村吉行(1985)「第2章 中央図書館増築予定地M-16区の発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅴ』, 山口

第3節 白石構内(白石遺跡)の調査

1. 教育学部附属山口幼稚園・小学校給水管改修工事に伴う立会調査

調査地区 白石構内

調査期間 平成17年8月2・18・25日

調査面積 約10㎡

調査担当 横山成己・田畑直彦

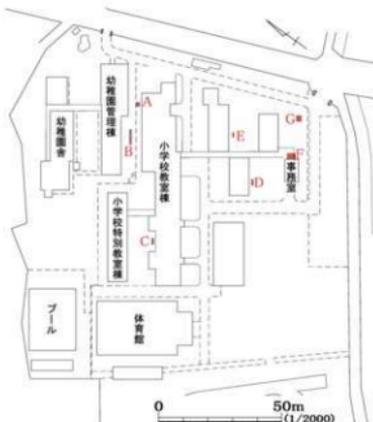


図 36 調査区位置図



写真 49 C地区土層断面(北西から)



写真 50 B地区土層断面(北西から)

調査結果 教育学部附属山口幼稚園・小学校敷地において、老朽化した給水管の改修工事が計画された。工事計画では、既設給水管の改修の他に、新たに給水管を布設する地点が存在した。そのため、新たに地下の掘削を実施する地点(A～G地区)について、立会調査を行った。

A・C・D・E地区は、掘削深度が0.35mであり、いずれも表土および造成土内に止まった。B地区では約0.8mの掘削が行われ、現地地表下0.6mまでは表土及び造成土、下位に灰色砂質土層を確認した。遺物等は出土していないが、土質から河川堆積層である可能性を残す。F地区では現地地表下約1.0mの掘削を行った。現地地表下約0.8mまでが表土及び造成土であり、下位に地山(黄褐色粘質土)を確認しが、地山面に遺構は認められなかった。G地区はメーターボックス(量水器)の改修工事であり、既存ボックス周辺を約0.5m掘削したが、攪乱土内に止まった。

今回の工事では遺構、遺物等顕著な埋蔵文化財は確認されなかったが、F地区周辺では過去に埋蔵文化財が確認されており、また東に近接する地点では平成元年度の調査において弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居跡や土壌が確認されている^{註1)}。今後とも、当該地区周辺においては埋蔵文化財保護のため慎重な対応が必要である。

【註】

- 1) 田畑直彦(2006)「第1章第2節2 教育学部附属山口小学校事務室棟新営工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成16年度—』, 山口
- 2) 河村吉行(1991)「第3章 亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水管布設に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報IX』, 山口

第4節 小串構内(山口大学医学部構内遺跡)の調査

1. 医学部基幹整備(冷熱源設備他改修)工事に伴う立会調査

調査地区 小串構内エネルギーセンター西側空地

調査面積 約37㎡

調査期間 平成18年1月6日

調査担当 横山成己

調査結果 小串構内西部に位置するエネルギーセンターにおいて、冷熱源設備等の改修工事が計画された。工事計画の内、地下の掘削を伴う工事は氷畜熱槽設置のための基礎工事であり、最深部で約0.78mの掘削を必要とするものであった。そのため、埋蔵文化財保護の見地から工事中の立会調査を実施した。調査の結果、掘削は造成土内に収まること^{註1}が判明し、埋蔵文化財に支障は生じなかった。

調査地点周辺における埋蔵文化財の遺存状況を見ると、北方に近接する地点の調査において古代から近世にかけての遺物を包含する堆積層が確認されている一方、南方に近接する地点の調査においては埋蔵文化財は確認されていない^{註2}。平成15年度に今回の調査地点の西側隣接地で実施した試掘調査では、海成砂層から極少数ではあるが土師器片が出土している^{註3}。

これらの遺物の分布域を見ると、小串構内の北方に展開する丘陵部からの流入が想定され、本調査地点周辺がその広がり^{註4}の末端部にあたる^{註5}ことが推測される。小串構内は、現在こそ南方の海岸線から乖離しているものの、標高3mの低地部に立地している。なおかつ、北方背後には丘陵部が迫っていることもあり、地下の状況は複雑な様相を示す。掘削を伴う工事計画等に対しては、今後とも慎重な対応が必要不可欠である。

[註]

- 1) 森田孝一(1986)「第4章 宇部(小串構内)医学部基幹整備に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅳ』, 山口
- 2) 森田孝一(1986)「第5章 宇部(小串構内)医学部臨床講義棟・病理解剖棟新宮に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅳ』, 山口
- 3) 横山成己(2005)「第1章第4節 基幹・環境整備(煙突)新宮に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成15年度—』, 山口



図37 調査区位置図



写真51 調査区土層断面(南から)

2. 医学部南側通用門塀取設工事に伴う立会調査



図 38 調査区位置図

調査地区 小串構内南側通用門

調査面積 約30㎡

調査期間 平成18年4月21日

調査担当 横山成己

調査結果 小串構内の南側通用門の整備計画が立案されたことを受け、開発担当部局と工事計画において綿密な協議を行った。開発計画の内、新たに門塀を設置する箇所は現地表から約0.65mの掘削が必要であることが判明したため、当該箇所について立会調査を実施することとなった。

立会調査の結果、掘削は大学建設時の造成土内に止まることが確認され、埋蔵文化財に支障は生じなかった。

調査地周辺は当館による埋蔵文化財調査が密に行われている地点とは言い難く、遺構及び遺物の埋存を推定する状況にない。ただし、本調査地の西方向約100m地点で昭和58年に実施した医学部図書館新築に伴う立会調査及び本調査地の北東方向約100m地点で平成2年に実施した医学部附属病院動物・RI実験棟新営に伴う試掘調査、隣接する地点において平成5年に実施した医学部臨床実験施設新営その他工事に伴う立会調査では、造成土下に遺存する堆積層を確認しているものの、遺構、遺物伴に顕著な埋蔵文化財は確認されていない。現状では本調査地を含む小串構内南部に埋蔵文化財が存在する可能性は低いものと想像される。

[注]

- 1) 森田孝一(1985)「第9章第2節 医学部図書館新築に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』, 山口
- 2) 河村吉行(1992)「第4章 小串構内医学部附属病院・RI実験棟新営に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅹ』, 山口
- 3) 豆谷和之(1995)「第4章第2節 医学部臨床実験施設新営その他工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅢ』



写真 52 西側調査区土層断面 (南西から)



写真 53 東側調査区土層断面 (南西から)

第5節 常盤構内(山口大学工学部構内遺跡)の調査

1. 工学部職員宿舍揚水施設改修工事に伴う立会調査

調査地区 常盤構内

調査面積 約65㎡

調査期間 平成17年10月21、24、26日

調査担当 田畑直彦

調査結果 常盤構内の西南部に位置する工学部職員宿舍で揚水施設改修工事が計画されたことを受けて、立会調査を実施することになった。

工事は宿舍周囲に給水管埋設のため掘削を行うものであった。調査の結果、A地点では現地地表下30cmまでが造成土で、30～70cmで橙色(2.5YR6/8)粘土の地山を検出した。また、B～C地点間では、現地地表下10～12cmまでが造成土で、10～68cmで明赤褐色(2.5YR5/8)粘土の地山を検出した。D地点では現地地表下78cmまでが造成土で、78～90cmで明赤褐色(2.5YR5/8)粘土の地山を検出した。その他の場所については、掘削深度が50～60cmにとどまったこともあり、大半が造成土の範囲内であった。

以上の調査の結果、宿舍敷地は大規模な削平を受けたものと考えられ、遺構・遺物は皆無であった。

なお、工学部職員宿舍と道を隔てた北東側では、平成4年度に工学部プレハブ・実験棟新営工事に伴う試掘調査が実施されているが、表土直下で地山が検出されるなど、今回調査地と同様に過去に造成による削平を受けていることが判明している。従って、調査地付近一帯では過去に埋蔵文化財が存在したとしてもすでに消失したと考えられる。

【註】

- 1) 豆谷和之(1994)「第4章第1節 工学部プレハブ・実験棟新営に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅱ』

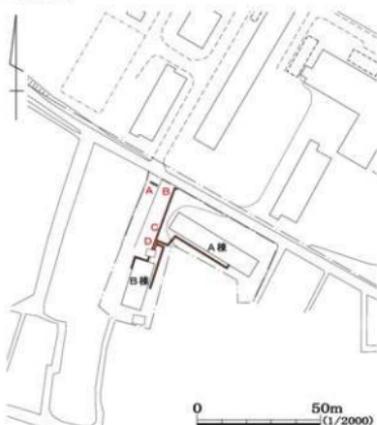


図39 調査区位置図



写真54 A地点土層断面 (南西から)



写真55 B地点土層断面 (北西から)

2. 工学部会議棟身障者スロープ取設工事に伴う立会調査



図 40 調査区位置図

調査地区 常盤構内本館北東隅空地

調査面積 約38㎡

調査期間 平成18年2月17日

調査担当 横山成己

調査結果 常盤構内本館東側の南北道路から、本館及び会議棟へスロープを取設する工事が計画された。

本館周辺では、平成15年度に本館改修工事に伴う立会調査を実施している。本館東部周辺では現地表下約1.2mで地山(黄褐色粘質土)が確認されるものの、遺構等は全く検出されておらず、大学造成時に旧地形が大幅に削平されているものと推測される。

工事においては平面積38㎡の範囲で最深約0.75mの掘削が行われたが、いずれも現表土および造成土内に止まり、埋蔵文化財に何ら影響を及ぼすものではなかった。

[註]

- 1) 田畑直彦(2005)「第2章第5節 工学部本館改修工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成15年度—』, 山口



写真 56 調査区土層断面 (北東から)



写真 57 調査区近景 (北から)

第6節 光構内(月待山遺跡・御手洗遺跡)の調査

1. 教育学部附属光小学校体育器具庫新営工事に伴う予備発掘調査

調査地区 教育学部附属光小学校体育館東側

調査面積 約53㎡

調査期間 平成17年5月19日～5月31日

調査担当 田畑直彦

調査結果

(1) 調査の経過(図41、写真58)

教育学部附属光小学校体育館器具庫新営工事が計画された。前身建物は木造で老朽化が著しいために取り壊され、器具類は体育館等に仮置きの状態であったためである。

工事予定地は構内においても丘陵部に近く、予定地から東へ約40mの地点では、平成2年度に行われた附属小学校運動場改修工事に伴う発掘調査で6～7世紀代にかけての遺構面が2面検出されている。また、平成15年度に実施された附属小学校エレベ

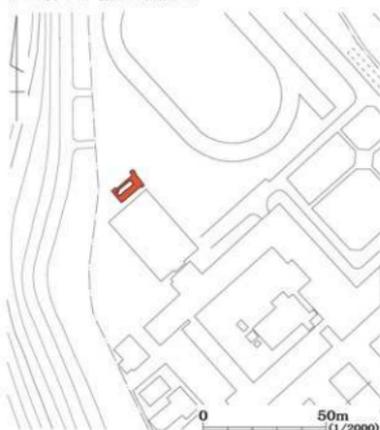


図41 調査区位置図

ータ昇降路等新設に伴う試掘調査・立会調査では江戸時代後半を上限とし、多くは附属小・中学校の前身施設に関連すると考えられる遺構面と古墳時代の遺構面が2面検出されている。

以上の状況から、前身の木造建物が存在したとはいえ、工事予定地内には埋蔵文化財が遺存していることが十分に考えられた。このため、埋蔵文化財資料館専門委員会の判断に基づき、埋蔵文化財の予備発掘調査を行うこととなった。なお、調査区では運動場整備に用いるマサ土が大量に集積されていたため、これらを除去した後掘削を行った。

(2) 基本層序

調査区の基本層序は下記の通りである。調査区の西側は樹木による攪乱が目立ち、一部では分層が困難ほど顕著であった。

第1層…表土 浅黄色(2.5Y7/4)マサ土(層厚約2～45cm)

第2層…造成土(2-1～5)に細分、層厚約10～20cm)

第3層…造成土 黒褐色(2.5Y3/1)砂質土(層厚約20～50cm 樹根による攪乱が多い)

第4層…近～現代遺構検出層 暗灰黄色(2.5Y3/1)・明黄褐色(2.5Y7/6)砂質土(4-1～2)に細分、層厚約40cm)

第5層…明黄褐色(2.5Y6/6)粗砂・礫(5-1～3)に細分、層厚約80cm以上)

第2、3層は造成土である。第3層は前身の木造建物に伴う整地土と見られ、部分的にコンクリート舗装が残存していた。また、第2、3層からは近～現代の瓦、陶磁器等が大量に出土し、古墳時代、江戸時代の遺物も少量出土した。第4層は近～現代の遺構検出層であるが、同層は古墳時代の遺構検出層である平成2年度調査の第3層^{別表1}:明黄褐色(2.5Y6/6)細砂、平成15年度調査の第3層^{別表1}:黄褐色(10YR5/6)砂礫に対応する可能性がある。第5層は平成2年度に実施された附属小学校運動場改修に伴う試掘調査Dト

レンチにおける第4層:明黄褐色(2.5Y6/6)細砂混じり礫、Eトレンチにおける第4層:明黄褐色(2.5Y7/6)細砂混じり礫以下の土層に対応する可能性が考えられる。この層からは摩滅した土師器片が1点出土した。

(3) 遺構

今回、第4層上面を検出面として近～現代のピット3基(Pit1～3)、落ち込み1基(SX1)、石垣を検出した。これらの遺構は附属光小・中学校の前身施設である山口県立工業学校(明治36年創立)、山口県室積師範学校(大正3年設立)等に関連する遺構と考えられる。

ピットの平面形はいずれも楕円形で、Pit1の平面規模が30×36cm、深さ24.3cm、Pit2の平面規模が15×19cm、深さ2cm、Pit3の平面規模が45×45cm、深さ11cmである。いずれも底面に礎石等は認められなかった。また、Pit3の埋土からコンクリート片が出土したほかは、遺物も出土しなかった。調査区の東部で検出したSX1は調査区外に広がるため形状は不明であるが、少なくとも直径4m以上の規模を持つ。第5層から掘りこまれており、埋土からは近～現代の遺物が出土した。形状が不明なため落ち込みとしたが、廃棄土坑の可能性が高いと考えられる。

このほか、調査区北部で石垣を検出した。第4-1・2層上面で構築されており、花崗岩の切石が4個、1段積みで北東-南西方向に直線上に並んだ状態で検出した。検出した幅は約234cm、高さは40cmである。裏込め土からは近～現代の遺物と古墳時代～江戸時代の遺物が少量出土した。ごく一部を検出したにすぎないため性格は不明であるが、調査区付近の附属小学校前身施設の建物も石垣と同方向の長軸を持つことから、これらの建物に関連する遺構であろう。

(4) 遺物

第2、3層、石垣裏込め土から棧瓦片を主体とする近～現代の遺物が大量に出土した。また、これらに伴い少量ではあるが、古墳時代～江戸時代の遺物も出土した。ただし、造成土という性格上、これらは学外から持ち込まれた客土等に含まれていた可能性がある。

1は土師器甕で復元口径11.6cm。調整は内外面ナデで外面にタテハケがわずかに残る。古墳時代中～後期に属するものと推測される。2は須恵器甕口縁部で端部を肥厚させる。調整は内外面ヨコナデである。古墳時代中～後期か。3は平瓦片。凸面に格子目タタキ、凹面に布目痕が残る。4は高台が高い広底碗で胴部外面には染付で草花文と圏線1条、内面には圏線を2条施す。

(5) 小結

今回の予備発掘調査では、平成2・15年度の調査で確認された古墳時代の遺構面に対応する可能性がある土層(第4層)を確認した。ただし、同層を検出面として近～現代の遺構が確認されたのみであり、顕著な埋蔵文化財は認められなかった。表土下には層厚が平均30～40cmの造成土である第2、3層が確認されたことから、古墳時代～江戸時代の遺構面が存在したとしても造成により削平された可能性が考えられる。しかし、調査地の北西側に連なる附属小学校運動場においては、昭和63年度の遊器具移設に伴う立会調査^{註1}、平成3年度の屋外施設設置に伴う立会調査^{註2}で遺物包含層が確認されている。いずれも小規模な立会調査であるため詳細は定かでないが、調査地周辺では埋蔵文化財が存在する可能性が高く、今後の掘削工事においても十分な注意を払う必要がある。

光橋内(御手色遺跡・月神山遺跡)の調査

- 1 表土 浅黄色 (2.SY7/4) マナ土
- 2-1 造成土 灰色 (5Y1/4) 砂質土
- 2-2 造成土 灰白色 (2.SY1/6) マナ土
- 2-3 造成土 マナ土と黒褐色 (2.SY3/1) 砂質土のブロック土
- 2-4 造成土 マナ土と黒色 (2.SY3/1) 砂質土のブロック土 (JKUを多く含む)
- 2-5 造成土 明黄褐色 (2.SY7/6) 砂質土と黒褐色 (2.SY3/1) 砂質土のブロック土
- 3 造成土 黒褐色 (2.SY3/1) 砂質土 (断面による擾乱が多い)
- 4-1 暗灰黄色 (2.SY3/1) 砂質土
- 4-2 明黄褐色 (2.SY7/6) 砂質土
- 5-1 明黄褐色 (2.SY6/6) 粗砂
- 5-2 明黄褐色 (2.SY7/6) 礫 (2~3 cm大の礫主体)
- 5-3 明黄褐色 (2.SY7/6) 粗砂
- 5-1と同一の可能性あり
- Ph3 埋土
- a 黒褐色 (2.SY3/1) 粗砂
- SX1 埋土
- b 暗灰黄色 (2.SY4/2) 砂質土
- c 暗灰黄色 (2.SY4/2) 砂質土と黒褐色 (2.SY3/1) のブロック土

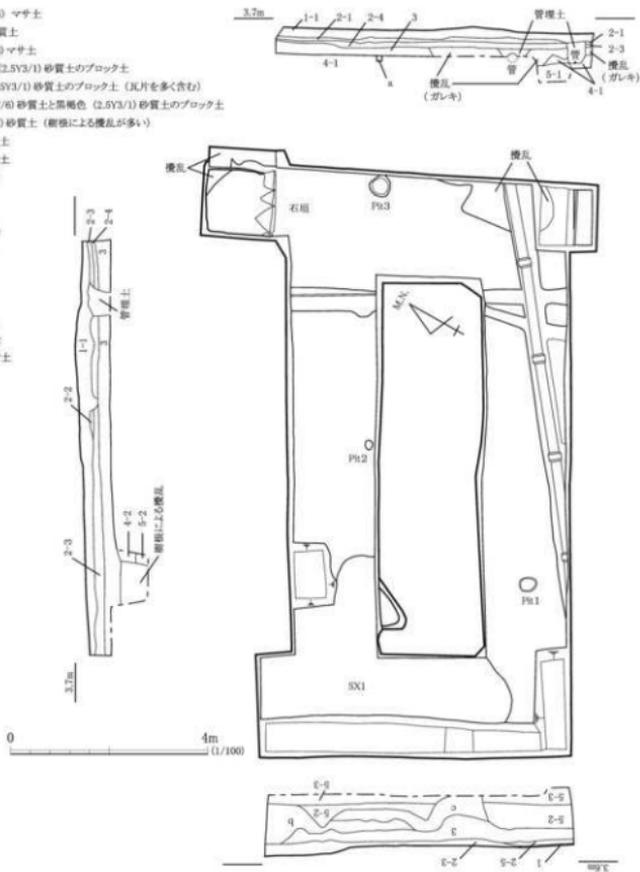


図 42 調査区平面図・断面図



写真 58 調査区全景 (北東から)



写真 59 調査区全景 (北東から)



写真60 調査区北東壁土層断面 (北西から)



写真61 調査区北西壁土層断面 (南東から)



写真62 調査区南西壁土層断面 (北から)



写真63 近～現代石垣 (東から)

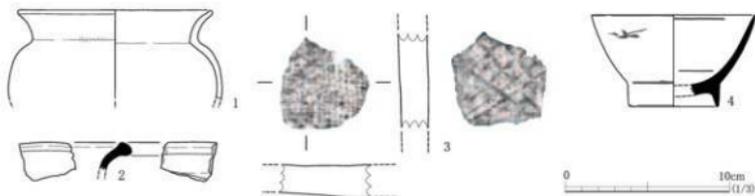


図43 出土遺物実測図



写真64 出土遺物

表5 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物 番号	層位	器種	部位	法量(cm)		色調		胎土	備考
				①口径②底径③器高	①外面 ②内面				
1	第2～3層	土師器 甕	口縁部 ～胴部	①(11.8)	①黒褐色(10YR3/1) ②にぶい・橙色(5YR6/3)	1mm以下の砂粒を多く含む			
2	石垣裏込 め土	須恵器 甕	口縁部		①②灰色(5Y6/1)	1mm以下の砂粒を多く含む			
3	第2～3層	瓦			①②灰色(N6/0)	0.1～2mmの砂粒を多く含む			
4	石垣裏込 め土	磁器 碗	口縁部 ～底部	①(10.0)	素地 灰白色(7.5Y8/1) 釉 灰白色(7.5Y7/1)	精緻		染付	

[註]

- 1) 河村吉行(1992)「第3章 光構内教育学部附属光小学校運動場改修に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X』, 山口
- 2) 横山成己(2005)「第1章第6節 教育学部附属光小学校エレベータ昇降路等新設に伴う試掘調査・立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成15年度-』, 山口
- 3) 前掲註1
- 4) 前掲註2
- 5) 河村吉行(1990)「第2章第5節1 教育学部附属光小学校遊遊具移設に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅷ』, 山口
- 6) 河村吉行(1993)「第4章第4節1 教育学部附属光小学校屋外施設設置に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XI』, 山口

2. 教育学部附属光小・中学校護岸改修工事に伴う立会調査

調査地区 教育学部附属光中学校運動場東側

調査面積 約40㎡

調査期間 平成18年2月3日・17日

調査担当 田畑直彦

調査結果 平成17年9月6日に山口県を襲った台風14号により、附属光中学校運動場北側の石積護岸の一部が崩落した。この被害による護岸改修工事が計画されたことを受け、工事掘削時に立会調査を実施することになった。掘削範囲は海岸に沿った幅1.8m×26.7mの範囲である。

調査区東半部は被害が少なかったため、石垣基礎部分についてのみ掘削が行われた。現地地表下74cmまでが石垣で、74～130cmが造成土である黒褐色(2.5Y3/1)砂質土、115～160cmが黄褐色(2.5Y5/3)砂質土であった。黄褐色砂質土から摩滅した土器片が少量出土した。この層は礫を含む互層になっており、石垣構築以前の波浪による2次堆積層と考えられる。

調査区西部は石垣を含めた全面的な掘削が行われた結果、現地地表下90～120cmで積石が検出され、積石間から近～現代の瓦片が出土した。これらは自然石や割石を乱雑に積み上げた形態から、現在の石垣以前に存在した近～現代の石垣の裏込めである可能性が考えられる。

なお、今回調査地から北西へ約50mの地点では昭和58年度に実施された附属光小学校自転車置場設置に伴う試掘調査で、近世～近代の石垣状遺構が検出されている。また、平成12年度に広範囲で実施された護岸改修工事に伴う立会調査でも近世～近代の石垣が検出され、近世～現代の陶磁器が出土している。上記の調査からも、調査地周辺においては今後とも埋蔵文化財の保護に注意する必要がある。

[註]

- 1) 河村吉行(1985)「第4章 教育学部附属光小学校自転車置場設置に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』, 山口

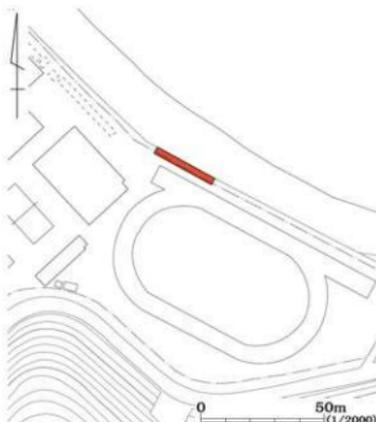


図44 調査区位置図



写真65 調査区東部土層断面



写真66 調査区西部土層断面

第7節 その他構内の調査

1. 経済学部職員2号宿舍フェンス取替工事に伴う確認調査

調査地区 経済学部職員宿舍2号
(山口市水の上町6-9)

調査面積 約1㎡

調査期間 平成17年8月23日

調査担当 田畑直彦

調査結果 山口市水の上町所在の経済学部職員2号宿舍において既設のタン塀の腐食が著しいことから、新たに編目状フェンスに取り替える工事が計画されたことを受けて、確認調査を実施することになった。

工事はA～Fの6ヶ所について約40cm×40cmの範囲を現地表下から最大で45cmまで掘削を行うものであった。

調査の結果、A～D地点では、現地表下約20～32cmまでが表土・造成土、約20～40cmまでが水田耕土、約32～45cmまでが水田床土であった。E地点では、現地表下約20cmまでが表土、約40cmまでが造成土であったが、底面で明黄褐色(10YR6/6)粘質土を検出した。小面積のため断定はできないが、地山の可能性がある。F地点は全て造成土の範囲内であった。

以上の調査の結果、掘削深度が浅かったこともあり、埋蔵文化財は確認されなかった。

しかし、昭和62年度に実施された下水管改修工事に伴う立会調査では、造成土内から丸瓦片が出土していることから、埋蔵文化財が存在する可能性がある。今後とも掘削を伴う工事にあたっては慎重な対応が必要であろう。

〔註〕

- 1) 河村吉行(1987)「第4章第6節2 経済学部職員宿舍下水管改修に伴う立会調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報VI』、山口

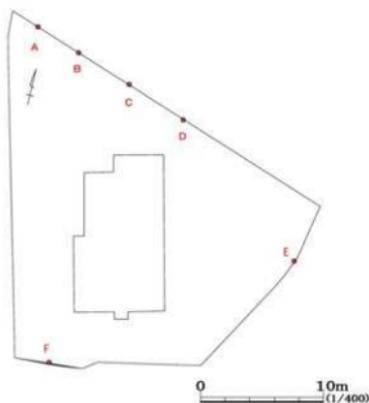


図45 調査区位置図



写真 67 経済学部職員2号宿舍全景(西から)



写真 55 E地点土層断面(南から)

2. 工学部職員宿舎(尾山)揚水施設改修工事に伴う確認調査

調査地区 工学部職員宿舎(尾山)北西隅空地(宇部市上野中町1-33・34)

調査面積 約15㎡ **調査期間** 平成17年11月14日 **調査担当** 横山成己

調査結果 工学部職員宿舎(尾山宿舎)敷地において、揚水施設の改修工事が計画された。尾山宿舎は、常盤構内の南東方向に近接して位置するが、周知の埋蔵文化財包蔵地としては指定されていない地区である。しかしながら、埋蔵文化財の新規発見も否定できないため、工事掘削時に確認調査を実施することとなった。

配管埋設工事は、宿舎敷地北西部を対象とし、現地表下を約0.85m掘削するものであった。調査の結果、現地表下約0.15mはアスファルトおよび鉱滓が敷設されており、その下位は造成土であった。総延長にして20m以上の管路を調査したが、自然堆積層等は全く確認できなかった。

今回の調査では、尾山宿舎敷地の地下の様相を把握するに至らなかったが、敷地内において今後さらに大規模な地下掘削が計画された場合には、今回と同様調査を実施し、埋蔵文化財の存否を確認する必要がある。



図46 調査地点広域図



図47 調査区位置図



写真69 調査区全景(北東から)

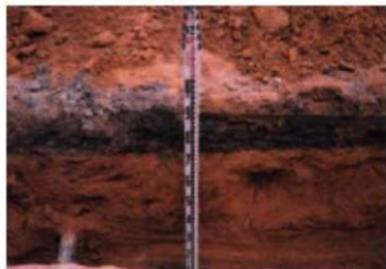


写真70 調査区土層断面(北西から)

付節1 平成17年度 山口大学構内遺跡調査要項

山口大学埋蔵文化財資料館規則

平成16年4月1日規則第148号	3 特別調査員は、専門委員会の議に基づき、館長が委嘱する。
改正 平成17年3月24日規則第52号	(館長)
(趣旨)	第5条 館長は、学術情報機構長をもって充てる。
第1条 この規則は、山口大学学術情報機構規則(平成16年規則第139号)第2条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館(以下「資料館」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。	2 館長は、資料館の業務を掌理する。
(目的)	(副館長)
第2条 資料館は、文化財保護法(昭和25年法律第214号)に基づき、国立大学法人山口大学(以下「本法人」という。)に所在する遺跡の埋蔵文化財の発掘調査及び研究を行い、出土品を収蔵・公開することを目的とする。	第6条 副館長の選考は、国立大学法人山口大学の専任教授のうちから山口大学学術情報機構運営委員会の議に基づき、学長が行う。
(業務)	2 副館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、副館長に欠員が生じた場合の後任の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。
第3条 資料館は、次の業務を行う。	3 副館長は、館長を輔佐し、日常的な業務の執行及びこれに必要な意思決定に関し、館長を助けるものとする。
(1)本法人構内等から出土した埋蔵文化財の収蔵・展示及び調査研究	(事務)
(2)本法人構内等における埋蔵文化財の発掘調査及び報告書の刊行	第7条 資料館に関する事務は、学術情報部において処理する。
(3)その他埋蔵文化財に関する必要な業務	(雑則)
(職員)	第8条 この規則に定めるもののほか、資料館に関し必要な事項は、別に定める。
第4条 資料館に、次の職員を置く。	附 則
(1)館長	1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
(2)副館長	2 第5条第1項の規定にかかわらず、当分の間、館長は、学術情報機構副機構長のうちから学術情報機構長が指名した者をもって充てる。
(3)資料館所属の専任大学教育職員	附 則
(4)その他必要な職員	この規則は、平成17年4月1日から施行する。
2 埋蔵文化財に関する特別な分野の調査研究を行うため、資料館に特別調査員若干名を置くことができる。	

山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会内規

(趣旨)	(3)予算に関する事項
第1条 この規則は、山口大学学術情報機構運営委員会(平成16年規則第140号)第8条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会(以下「専門委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。	(4)その他資料館に関し必要な事項
(審議事項)	(組織)
第2条 専門委員会は、山口大学埋蔵文化財資料館(以下「資料館」という。)に関し、次の事項について審議する。	第3条 専門委員会は、次の委員をもって組織する。
(1)管理及び運営に関する事項	(1)館長
(2)整備充実に関する事項	(2)副館長
	(3)資料館所属の専任大学教育職員
	(4)考古学担当の国立大学法人山口大学専任の大学教育職員
	(5)メディア基盤センター所属の専任大学教育職員のうち館長が指名した者1名

(6) 施設部長	委員会に出席させることができる。
(7) 学術情報部学術情報課長	(部会等)
(8) 築館調査棟に関連のある部局の事務部の長 (任期)	第7条 専門委員会は、必要に応じて部会等を置くことができる。 2 部会等に関し必要な事項は、専門委員会が別に定める、 (事務)
第4条 前条第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、 委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期 間とする。 (委員長)	第8条 専門委員会の事務は、学術情報部学術情報課において処理 する。 (報酬)
第5条 専門委員会に委員長を置き、館長をもって充てる。 2 委員長は、専門委員会を招集し、その議長となる。 3 委員長に事故あるときには、副館長がその職務を代行する。 (委員以外の者の出席)	第9条 この内規に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要 な事項は、専門委員会が定める 附 則 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
第6条 専門委員会が必要と認めたとときは、専門委員以外の者を専門	

平成17年度 山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会

委員長 糸長 雅弘(埋蔵文化財資料館長・学術情報機構副機構長・教育学部教授)	
委員 中村 友博(副館長 人文学部教授)	王 躍(メディア基盤センター助教授)
村田 裕一(人文学部講師)	古賀 幸成(学術情報課長)
郡田 等(施設環境部部長)	田畑 直彦(埋蔵文化財資料館助手)
横山 成己(埋蔵文化財資料館助手)	

付節2 山口大学構内の主な調査

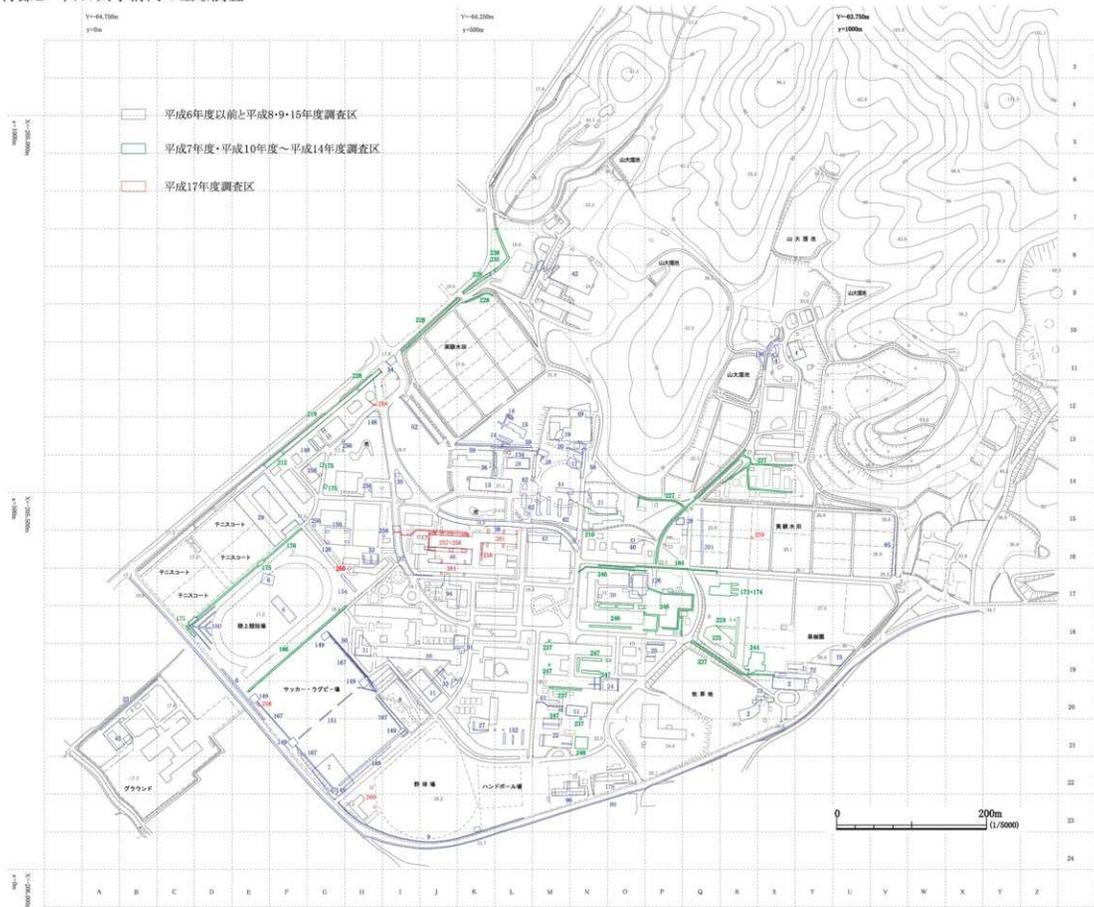


図 48 山口大学吉田構内地区割および主な調査区位置図

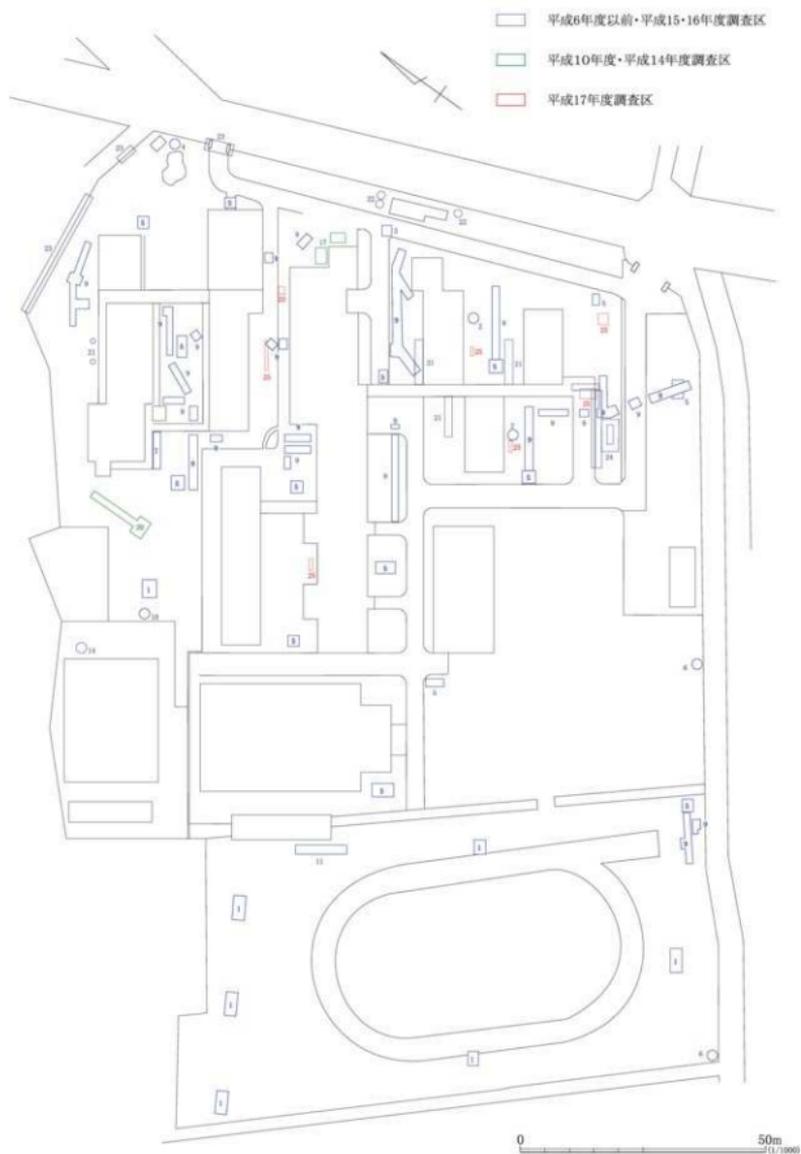


图 49 山口大学白石構内（幼稚園・小学校）調査区位置図

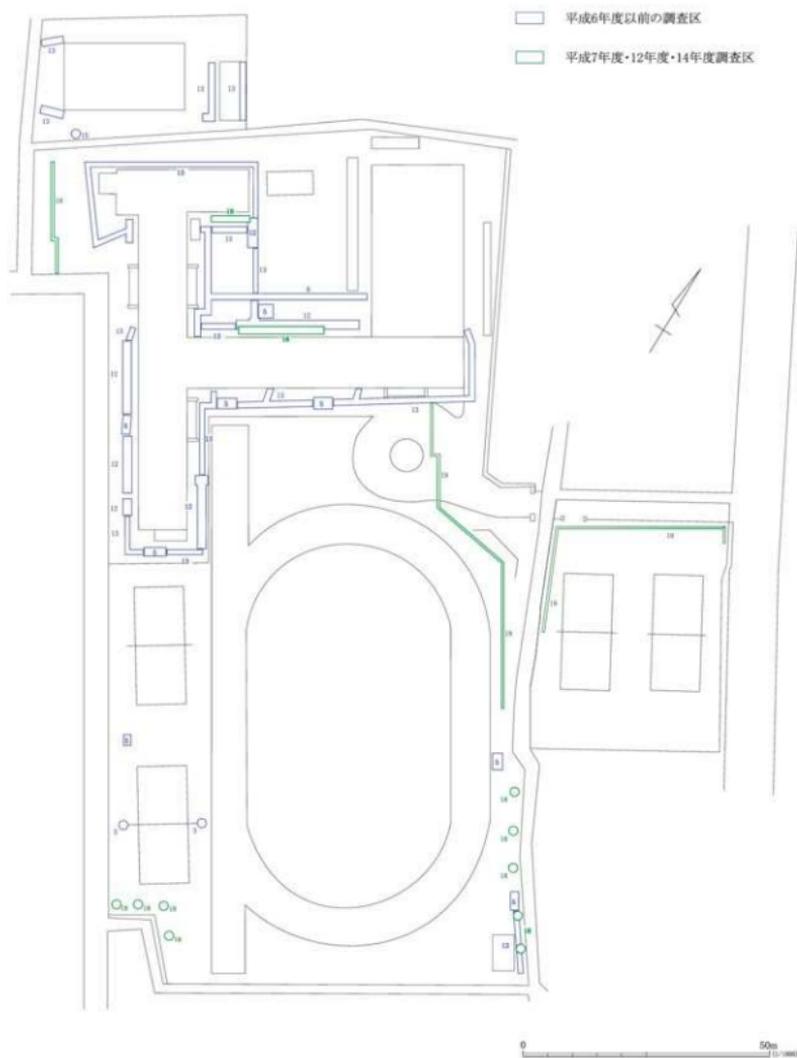


图50 山口大学白石構内（中学校）調査区位置图

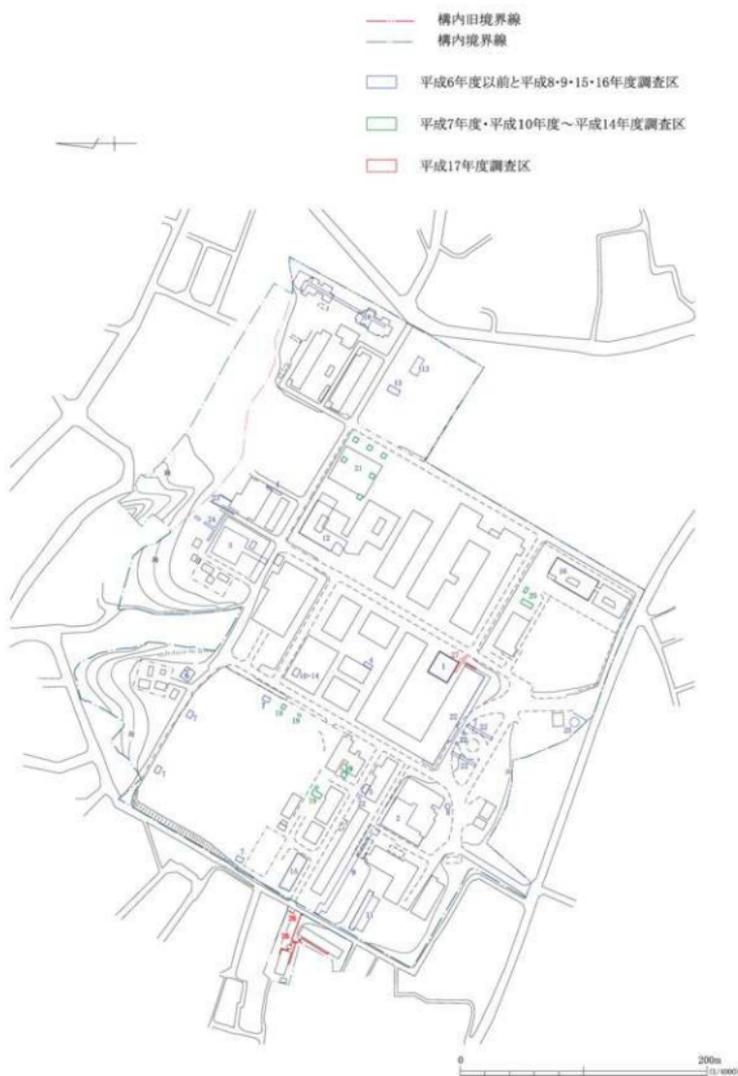


图52 山口大学常盤構内調査区位置图

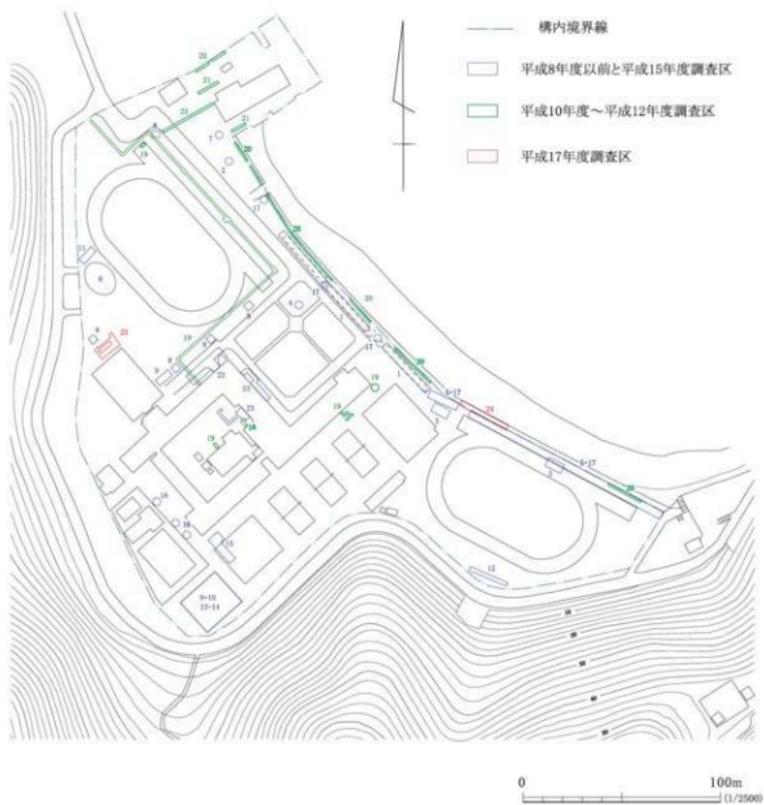


图 53 山口大学光構内調査区位置图

第2章 平成17年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告

当館は、昭和53年(1978)設置以降、山口大学構内が所在する山口県内の各遺跡の調査・研究を行うとともに、収蔵資料の展示・公開、また埋蔵文化財・考古学にかかわる教育活動を行ってきた。より具体的に述べると、展示・公開活動としては当館展示室における常設展示の他に年に1～2回の企画展示を行うこと、教育活動としては年に1回の市民対象の公開授業を開催すること、また学内の希望者に対して考古資料の取り扱い等の技術指導を行うことなどである。その他にも、学内外のニーズに応じ、随時展解説会や出前授業などを行っている。

平成17年度は、展示・公開活動として、常設展示の他に第21回企画展『古墳の世界～山口県のお宝を探る～』を開催した。さらに当館収蔵資料の新たな展示活動として、吉田構内総合図書館入退館ゲート前にて「学術情報機構埋蔵文化財特別展」を開始した。この他に、平成5年度より途絶えていた資料館広報誌『山口大学埋蔵文化財資料館だより』（※1988年から1993年まで刊行）を、『埋蔵文化財資料館通信 たらこや埋文』と名称変更し、季刊での刊行を開始した。

社会教育活動としては、第5回公開授業『古代人の知恵に挑戦！－弥生土器をつくってみよう2－』を開催した。この他に、山口市立平川小学校の依頼により、6年生児童を対象に地域の遺跡を紹介する出前授業を行った。

また、平成17年度より地域および他大学との連携をより強化するため、山口県博物館協会と国立大学博物館等協議会へ加入することとなった。国立大学法人化後、大学に蓄積されている学術知識・資料を広く社会に還元することがより強く求められている。当館も、学内での埋蔵文化財調査を基本業務とすることに変わりはなく、社会の要求を適切に判断し、内容ある活動を行ってきたい。

表6 埋蔵文化財資料館利用者の推移

年度	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17
利用者総数	355	267	191	200	516	142	555	573	913	669	808

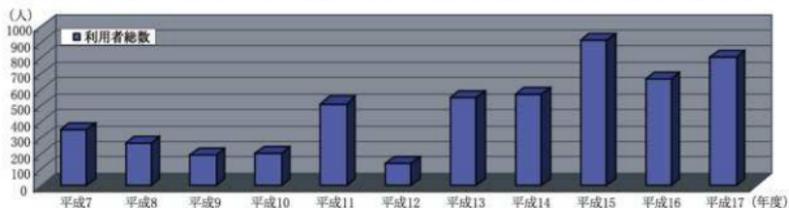
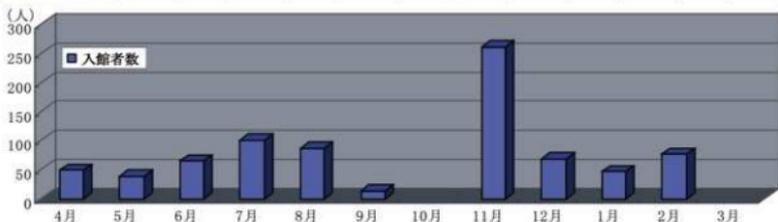


表7 平成17年度月別入館者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入館者数	49	39	65	101	87	13	閉館	261	69	47	77	閉館



第1節 資料館における展示公開活動

第21回企画展『古墳の世界～山口県の古墳を探る～』を開催

昭和63年度より開始し、第21回目を迎えた平成17年度の企画展では、「古墳」をテーマとして取り上げることとなり、平成17年11月5日から平成18年2月24日まで資料館展示室にて『古墳の世界～山口県の古墳を探る～』展を開催した。

古墳は、数多ある埋蔵文化財の中でも、最も親しみのある遺跡の種類ではないだろうか。大多数の人は、「古墳」と聞くと、歴史教科書に掲載されている鍵穴形をした巨大な前方後円墳を簡単に思い浮かべることができるだろう。しかし、古墳から出土する様々な遺物を実際に見学・観察したことがある人は果たしてどの程度いるのだろうか。

実は、古墳とはそれほど特殊な遺跡ではなく、しばしば我々の身近にひっそりと埋もれているものである。現在、山口県内で確認されている古墳の総数は、推定地を含めると約400基を数える。これに未発見の物を加えると、おそらく1000基近い古墳が存在するものと推測される。

今回の企画展では、古墳をより身近な文化財として感じていただくため、「どのような墓を古墳と呼ぶのか」「古墳にはどのような形のものがあるのか」「古墳には何が副葬されているのか」「墳輪にはどのような種類があるのか」などの問題に対し、山口大学吉田構内が所在する吉田遺跡から出土した古墳時代関連の出土遺物と共に、県内の著名な古墳から出土した実物資料を用いて、より具体的に古墳に関して学習できる展示を心がけた。

出展協力いただいたのは、茨木市教育委員会、宇部市教育委員会、下松市教育委員会、山陽小野田市教育委員会、藤井寺市教育委員会、柳井市教育委員会、(財)山口県ひとつり財団山口県埋蔵文化財センターの7機関である。各位の協力により、山口県内の古墳関連資料の展示にとどまらず、日本列島に広く展開した古墳文化を視覚的に把握することが可能な展示を実現することができた。記して感謝の意を表する。

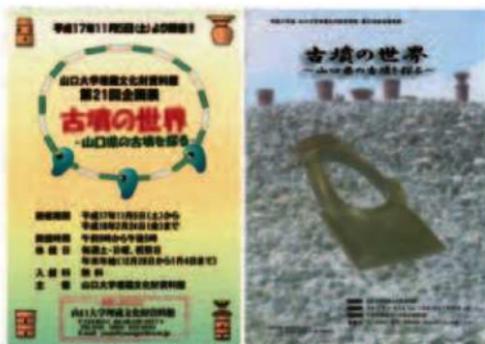


写真71 第21回企画展ポスター・展示図録



写真72 第21回企画展展示模様①



写真73 第21回企画展展示模様②

開催期間中454名の入館者を迎えたが、以下に当展示アンケート回答結果の概略を報告する。アンケート回収数は148枚であり、回収率は32.6パーセントであった。

(問) 当館の展示をご覧になったのは初めてですか? …回答数141

はい…121名 いいえ…20名

(問) 今回の企画展にいらしゃったきっかけは何ですか? …回答数139

大学授業での見学…94名 館の前を通りかかった…17名 ポスター・ビラ…15名

知人から聞いた…11名 新聞・雑誌…4名

(問) 一番印象に残った展示物は何ですか? …回答数155(複数回答含む)

埴輪類…61名 玉類…38名 土器類…15名 銅鏡レプリカ…15名 鉄器類…7名

(問) 内容についてご感想・ご質問がありましたら、お聞かせ下さい …回答数88

- ・ほとんど山口のもので、身近にこういうものがあることがわかり、意外だった。
- ・大きな埴輪の類は特に文様がしっかり見え、古の人が実際に作っていたということが感じられ、感動した。
- ・小規模だったけど展示物の数も多く、壁に貼られた説明文・紹介文がとてもわかりやすく、充実した内容だ。
- ・埋葬されている方についての紹介も知りたかった。どのような人がどのように埋葬されていたかとか。
- ・展示品は良いが、照明が暗い。
- ・もっと広い展示室だったら良かった。寒かった。

入館者から届けられた声は、そのいずれもが今後の展示に参考となるものであった。埋蔵文化財資料館では、今後とも学内外多方面からの要望を基に、多彩な展示を企画する所存である。

第1回学術情報機構埋蔵文化財特別展『あしもの遺跡シリーズ1 古代の吉田遺跡』を開催

平成17年度より、吉田構内総合図書館入退館ゲート前にて、当館所蔵の埋蔵文化財資料を常設展示することとなった。これは、当館展示室が狭小であることから、当館所蔵の埋蔵文化財資料を十分に公開することができないという問題に対し、解決策の一端として生じた企画である。展示体制は、当館と総合図書館の共催とし、展示シリーズ名には当館および図書館が所属する「学術情報機構」という名称を用いた。

第1回目となる今回は、吉田構内が存在する吉田遺跡の「古代」をテーマに、平成17年12月1日から平成18年3月24日の期間で資料展示を行った。当館設立以降、展示室以外で所蔵資料の常設展示を行うのは初の試みであり、展示・保管体制に様々な問題が生じることも予測されたが、開催期間中大きな問題も生じず、好評の内に終了し、次年度以降も継続して展示を行う運びとなった。



写真 74 『あしもの遺跡シリーズ1 古代の吉田遺跡』①



写真 75 『あしもの遺跡シリーズ1 古代の吉田遺跡』②

第2節 資料館における社会教育活動

第5回公開授業「古代人の知恵に挑戦！－弥生土器をつくってみよう2－」を開催

はじめに

当館では、平成13年度より、考古学や埋蔵文化財、山口大学構内遺跡の調査研究成果を地域の皆様へ身近に感じていただくことを目的として、公開授業を開催している。

第5回目となる今年度の公開授業は、昨年度に引き続き吉田キャンパスなどから出土した弥生土器を観察し、それらを参考にして実際に自分で土器をつくってみようという内容で、平成16年12月4日（総合図書館会議室）、12月17・18日（埋蔵文化財資料館横）の延べ3回にわたり行った。今回参加していただいたのは、小学生4人、保護者・一般9人、総勢13人の皆様であった。以下で授業内容を報告する。

平成16年12月4日（土）～粘土から土器をつくってみよう！

午前の部では、土器の歴史や弥生土器について、プリントやスライドにより学習した後、埋蔵文化財資料館の企画展「古墳の世界～山口県の古墳を探る～」を見学した。

午後の部では、館員から土器の製作方法について説明を受け、出土品や館員が製作した土器を見て学習した後、実際に土器の製作を行った。粘土は昨年と同じく市販の野焼き用粘土を使用した。昨年度からの継続参加者もおられることもあり、比較的手慣れた手つきで土器を製作される方が目立った。できあがった作品はいずれも個性あふれるすばらしいものであった。

平成16年12月17日（土）・18日（日）～土器を焼いてみよう！

当日は直前まで風雨が強く、気温も約4度と冷え込む中であつたが無事に授業を行うことができた。この日はまず、舞いざり式による火おこしを体験した。この作業は年齢を問わず、参加者が夢中になって取り組んでいたのが印象的であった。この後、土器焼成を行った。土器焼成は、昨年度同様、弥生時代の土器の焼成方法と推測されている「覆い焼き」で行い、窯A（全体を泥で覆う方法〔雲南式〕）、窯B（上半部のみを覆う方法）の2基の窯をつくった。

上記の作業は自由参加としていたが、ほとんどの受講者が積極的に参加し、昨年度と同じ工程で作業を行い、午後12時30分に点火した。なお、今回は窯Aに温度計を設置し、温度変化を計測した。点火後、天候が次第に悪化し、午後9時頃からは雪が降り始め、気温も-1℃まで下降した。このため、急遽窯の上部をトタン板等で覆い対処した。土器焼成が危ぶまれたが、窯内の温度は順調に上昇し、点火から約9時間後の午後9時22分に最高温度811℃に達した。この後、窯内の温度は緩やかに下降し、点火から12時間30分後の翌18日午前1時には237℃、17時間30分後の午前6時には25℃まで下降して焼成は終了した。なお午前6時の気温は氷点下5℃、積雪は約7cmであった。

12月18日（日）～土器の完成！

点火後、24時間30分後の18日午後1時から土器の取り出しを行った。挨拶と状況の説明の後、随時説明、記録を行いつつ参加者全員で窯の上部を壊して土器を取り上げた。悪天候のため、土器の状態が気かりであったが、幸いほとんどの土器は割れることなく焼成されていた。最後に参加者全員で記念撮影を行い、無事に公開授業を終了することができた。

公開授業を終えて

今年度は昨年度の授業を踏まえて、火おこしをメニューに加えたほか、窯も2種類つくり、分かりやすい説明を心がけた。公開授業終了後のアンケートでは、「とても楽しく、来てよかった」、「公開授業を継続して欲しい」などの声が聞かれ、大変好評であった。当館では今回の授業と参加者からの声を踏まえ、

さらに充実した授業を行いたいと考えている。なお、今回の公開授業にあたっては、陶芸作家でもある学務課事務補佐員(エクステンションセンター)渡邊陽子氏から多大なご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。



授業風景



土器の製作



泥で藁の上を覆う



火おこし



第5回公開授業ポスター



焼成開始

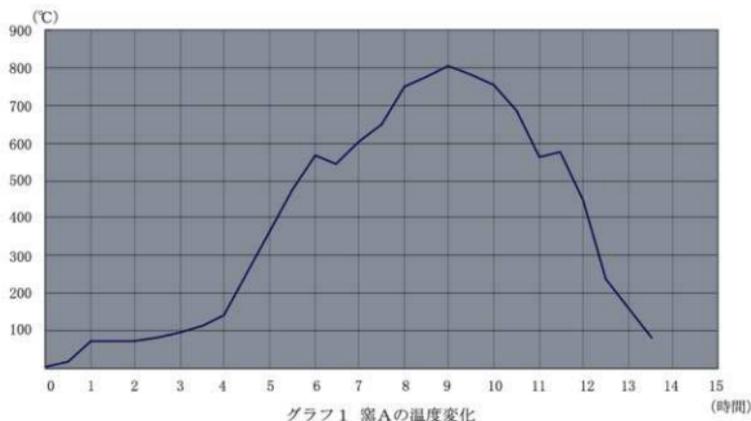


土器の取り上げ



できあがった土器と参加者

写真76 第5回公開授業の様様



山口市立平川小学校で出前授業を実施

平成17年度初頭、山口市立平川小学校より、6年生児童約150名を対象に地域の遺跡や発掘調査に関する授業を開催して欲しいとの依頼があった。当館が所在する山口大学吉田橋内は、山口市平川地区に位置するため、数年前より同様の依頼が継続的にもたらされている。小学生は、現在6学年の春から日本の歴史を学ぶカリキュラムとなっており、4月から5月にかけて弥生時代と古墳時代を学習するとのことであった。

授業は、平成17年5月17日に開催した。6年生児童全員が対象となるため、会場は小学校講堂が選択された。授業内容は、平川地区の遺跡を紹介するスライドショー『大昔の平川～平川には「遺跡」がいっぱい！～』を上映し、続いて遺跡の調査方法を学ぶスライドショー『遺跡の発掘調査ってなんだろう』を上映した。その後、持参した当館所蔵の土器資料の説明を行い、児童に直に土器に触れてもらった。

40分という短い時間の中に様々な内容を持たせた濃密な授業であったが、児童全員の興味が伝わり、熱気あふれる授業となった。授業の最後に児童からの質問を受け付けたが、中には「土器の形態変化と時代の変化とはどのように結びつくのか」といった専門的な知識を要する質問もあり、近い将来平川小学校から考古学者が誕生することを予感させられた。

埋蔵文化財資料館は、同様の依頼には今後とも可能な限り対応していく所存である。大学の地域連携が叫ばれる昨今ではあるが、地域の歴史を素材として自然発生的に学制を越えた連携が結ばれつつある、そのような印象を受けた1日であった。



写真 77 平川小学校6年生の児童



写真 78 発掘調査の方法を学ぶ



写真 79 本物の土器を観察



写真 80 熱中する児童たち

付篇

吉田遺跡第Ⅱ地区の調査

横山 成己

1. 調査の経緯

吉田遺跡は、山口市に所在する国立大学法人山口大学吉田構内敷地全域を覆う埋蔵文化財包蔵地である。遺跡地では昭和初期より土器や石器などが採取されており、遺物散布地としては知られていたが、学術的な発掘調査が行われたのは、山口大学がこの吉田の地へ統合移転を開始して間もなくの昭和41年を待つことになる。この年の6月、構内循環道の工事中、弥生時代の遺物を多量に含む遺物包含層に掘り当たり、当時本学の教育学部教授であった小野忠熙氏（現山口大学名誉教授）が調査の依頼を受けることとなった。この地点（吉田第Ⅰ地区A区）は現在の総合図書館北側の構内循環道とそれに沿う排水路に該当すると考えられるが、当時の状況は翌年7月に結成された吉田遺跡調査団によって作成された調査略報告『山口市山口大学構内吉田遺跡調査概報』に詳しい。報告によると、6月25日に予察調査が、7月7日から20日まで本発掘調査が実施されたようである。また同時に構内の分布調査やボーリング調査、遺構の確認調査が実施され、その結果吉田遺跡は調査の順序と遺跡の性格、立地状況から第Ⅰ地区から第Ⅴ地区までの5地区に分割されることとなった。今回報告する第Ⅱ地区は、農学部の東に広がる洪積台地の果樹園から山口大学動物医療センター、榎野寮（女子学生寮）に至る間の約30,000㎡の範囲に設定されている。

2. 調査の経過（図54、表8）

現在山口大学埋蔵文化財資料館には、第Ⅱ地区の調査に関する調査記録として77枚の現地調査図面が残されている（表8参照）。写真記録としては、35mm白黒フィルム36枚撮り2本分が発見されている。遺物としては、収納コンテナ（35cm×50cm×30cm）1箱分の資料が収蔵されている。

まず第Ⅱ地区の調査地点であるが、表8資料1「吉田遺跡第Ⅱ地区平板測量図」から考証を行う。この図には、山口大学の南側に隣接して走る市道神郷1号線が記入されており、図の北東部には現在の動物医療センター建設に伴う調査範囲と推定される区画が示されている。調査時以降市道は数次にわたる拡幅等の工事が行われており、動物医療センター調査区も現状建物とは平面積において大きく異なるが、資料1に現在の都市計画図を投影することで大まかな調査地点は推定可能である（図54）。この図により、南西側に図示された調査区を第Ⅱ地区第1調査区、北東に図示された調査区を第Ⅱ地区第2調査区と命名することにする。

表8 吉田遺跡第Ⅱ地区現存調査記録図一覧

資料番号	資料名	スケール	記録者名	記録作成年月日	筆者備考
1	吉田遺跡第Ⅱ地区平板測量図(1枚)	1/500	藤田・武居・添田・小西	昭和41年8月8日	第1・第2調査区的位置関係が図示
2	第Ⅱ地区第1調査区平板測量図(1枚)	1/50	不明	昭和41年8月	第1調査区試掘時の遺構検出図
3	第Ⅱ地区第1調査区平板測量図(1枚)	1/50	永富・添田・武居 斉藤・守友	昭和41年12月2日～7日	第1調査区本調査時の遺構平面図
4	第Ⅱ地区第1調査区溝状遺構平面図(1枚)	1/10	佐々木・田中・坂井	昭和41年12月11日	
5	第Ⅱ地区第1調査区遺構平面図・断面図(71枚)	不同	複数人で作成	不明	遺構別のスケッチの断面図に幅・深さ等の数値と出土遺物等が記載
6	第Ⅱ地区第1調査区断面図(1枚)	1/10	嶋崎・武居	12月25日	調査区の横断面図だが図の基点が不明
7	第Ⅱ地区第2調査区平板測量図(1枚)	1/50	不明	昭和41年8月9日～11日	第2調査区の包含層検出図

次に調査期間を確認しよう。調査日誌等の文字資料が全く残されていないため、現地調査図面に記された日付から推測するより他に方法はない。表8の各資料で記録作製年月日が記載されているものを見ると、昭和41年8月作製のものと同12月作製のものに大別される。8月作製ものは第1・第2調査区の平板測量図であり、資料2には第1調査区で検出された遺構が、資料7には第2調査区で検出された遺物包含層の分布域が図示されている。一方12月作製ものは全て第1調査区に関する記録であり、第2調査区のものには存在しない。資料3は調査区全域の平板測量図であるが、資料2に図示されていた「井」の字状に配されたトレンチが記されていない。資料4・5は個別遺構の記録図、資料6は測量地点が不明であるが第1調査区の横断面図である。その他、現存する写真記録は全て第1調査区の遺構完掘後に撮影されたものであるが、第1調査区が撮影されたフィルムのコマ間に吉田第Ⅰ地区B区の調査写真が混入している。第Ⅰ地区B区は、昭和41年10月15日から同月30日の期間に調査が実施されていることから、第Ⅱ地区第1調査区の大凡の遺構掘削終了月日が推定できる。

以上から調査の推移を復元すると、少なくとも昭和41年8月初頭には第Ⅱ地区の2ヶ所で調査が開始されたものと推測される。これは前述の第Ⅰ地区A区本発掘調査と同時に開始された、構内遺構確認調査の一環であったのだろう。ただし、第2調査区に関しては資料は平板測量図1枚しか残されておらず、出土遺物も現存しないことから、調査は包含層の分布域を確認するに止まったものと思われる。10月後半に撮影されたと思われる第1調査区撮影フィルム中に、外壁がほぼ完成した状態の動物医療センター建物が確認できる(写真91)ため、包含層確認直後に建設工事に着手したのであろう。

第1調査区に関しては、8月に行われた遺構確認調査後、遺構が密に分布していた地点を対象に本発掘調査が実施されたものと思われる。8月前半には検出されていた遺構を完掘するのに2ヶ月もの期間を要したのは、同時に本調査対象外としたトレンチなどを埋め戻す作業が必要であったからだろうか。10月後半には遺構の完掘状況写真が撮影され、11月以降に遺構の平面図・断面図(資料4・5)が作製されたようである。また遺物袋に11月2日から12月23日までの日付の記載が見られることから、図面作製と同時に遺物も回収されたのだろう。この記録から、調査の終了は12月23日以降であったことが分かる。



図54 吉田遺跡第Ⅱ地区調査区位置図

3. 第1調査区の成果

a. 立地

第1調査区は、吉田構内の南東にそびえる今山から北西に向かい舌状に派生する低丘陵上に立地する。現状地形から見ると、調査地は支脈丘陵の北東縁辺部に当たるものと思われる。大学移転前は一帯に棚田が形成されていたが、現在は農学部が飼料園として活用している。吉田構内では統合移転前の風景を比較的良好に保つ地点と言える。調査地点の標高は現況で約30mを測る。

b. 遺構(図55～60、表9、写真81～91)

はじめに、遺構に関する記述を行う上での資料上の問題点をまとめておこう。まず、現存する記録図資料には、標高に関する記載が全くなされていない。従って、遺構検出面の高低差を始め各遺構の底面高等は一切不明である。次に、調査区内における遺構配置図として、遺構検出時に作製された資料2と、遺構完掘後に作製された資料3の2種が存在する。両図は共に縮尺が1/50であり、平板によって測量されたものと推測される。両図にはそれぞれ遺構番号が付記されているが、この番号が全く一致していないため、まずは遺構番号の対応関係を明らかにする作業が必要であった。両図は測量の基準とするポイント(基準杭)を共有していないため、両図に共に記載されている特徴的な形状の遺構を基準として重ね合わせてみた。その結果、各々に記載された遺構群の相対的な位置関係だけで言うと大まかには一致しているが、各々の所在位置には大きな差異が生じてしまうことが判明した。この状況では一方の資料を正確なものとして選択する訳にもいかないため、暫定的に調査区中央に走る溝(SD1)を基準として図の合成を行ったのが図55である。この図は、SD1を基準に本発掘調査範囲内(黒実線)を資料3から、それ以外を資料2から投影して作製している。

以上の事実関係を考慮しつつ、遺構に関する概略を記す。第1調査区において検出された遺構総数は、溝1条とピット278基である。図にピットとして記載されているものの中には、土壌または落ち込みとすべきものも混在するが、ここでは現地調査者の認識に従う。

まず目につくのが本調査区の中央を北西-南東に方向に走る溝(SD1)である。この方向は遺跡が立地する丘陵の稜線と同一であることが注目される。この遺構に関しては唯一詳細な遺構平面図が作製されている(図56左)。SD1は全長約12mの規模を有しており、ほぼ均一幅(約1m)をもって直線的に構築されている。深さについての記録は存在しないが、完掘写真(写真84・85)を見る限り10cm～15cm程度であろう。平面図及び完掘写真(写真84・85)では一見溝は調査区内で完結しているようだが、溝北西端部を見ると調査区壁際に一段深まる円形の落ち込みが存在する。この落ち込みは溝に関連するものと見なされたようだが、遺構の重複とも考えられる。後者の場合、SD1は調査区を越えて更に北西方向に伸びる可能性を否定できない。

278基を数えるピット群は、個々の遺構のスケッチ的な平面・断面略図と、長さ・幅・深さの数値データ及び出土遺物が記載された資料(資料5)が残されている。略図に数値データを反映させて復元したものが図56～60である。ただし方位が示されていないため、遺構の主軸方向は不明である。遺構配置図の信頼性が低いため、掘立柱建物跡等の安易な復元は控えたいが、現状ではSD1に平行・直交して並ぶピット列も散見されるため、溝と同時に建物等が存在したものと推測される。これらのピット群の概略を述べると、SD1を中心に北東側の区画には溝から約10mの範囲に密に分布していることが分かる。また、南西部に関しては溝の縁辺にピット群が密集するが、その南西に幅4m程遺構が希薄な地点が見られる。この地点には、図示されていないものの近現代の田畑利用に伴う暗渠と推定される2条の溝が検出されており(写真81・84)、それに伴い遺構が削平されたとも考えられるが断定できる状況にはない。

- 試掘調査範囲 (調査記録図資料1・2より作成)
- 本発掘調査範囲 (調査記録図資料3・調査写真より作成)
- 未掘の遺構・包含層

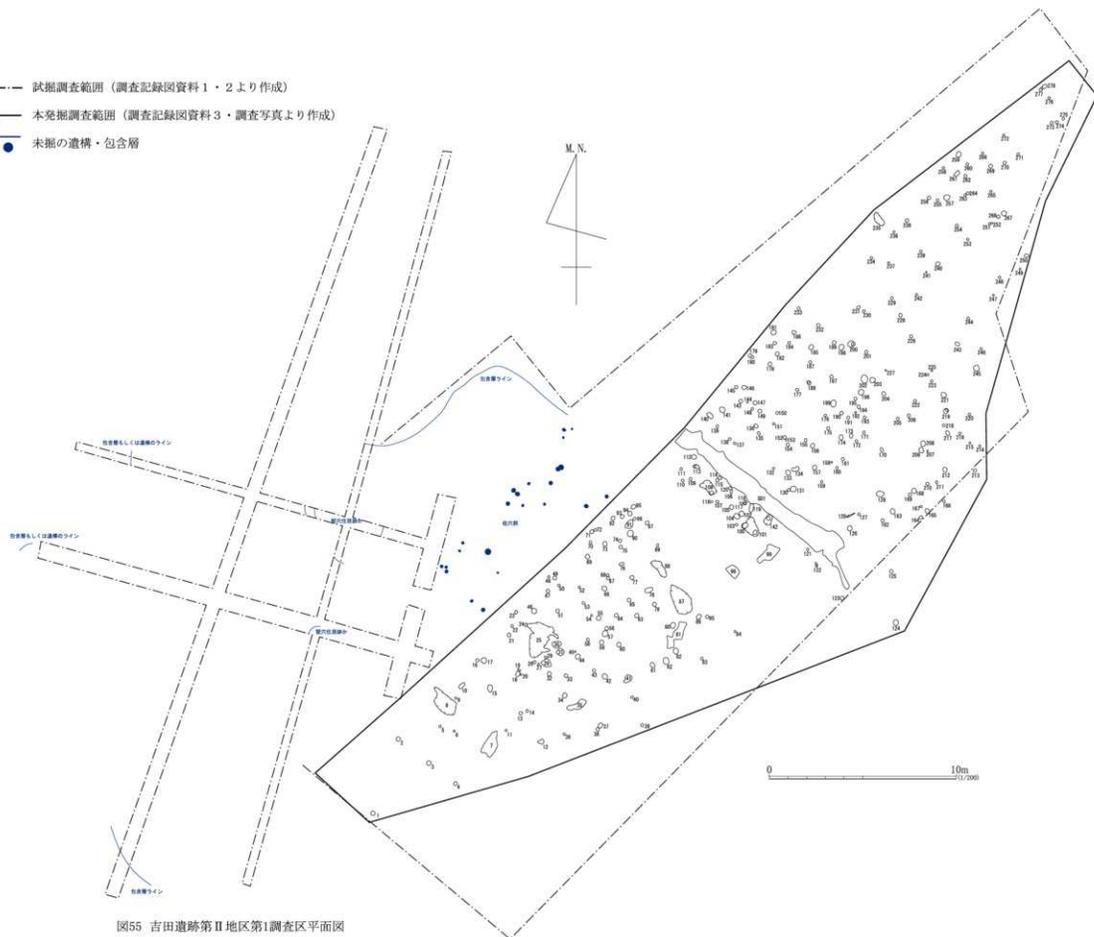


図55 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区平面図

吉田遺跡第Ⅱ地区の調査

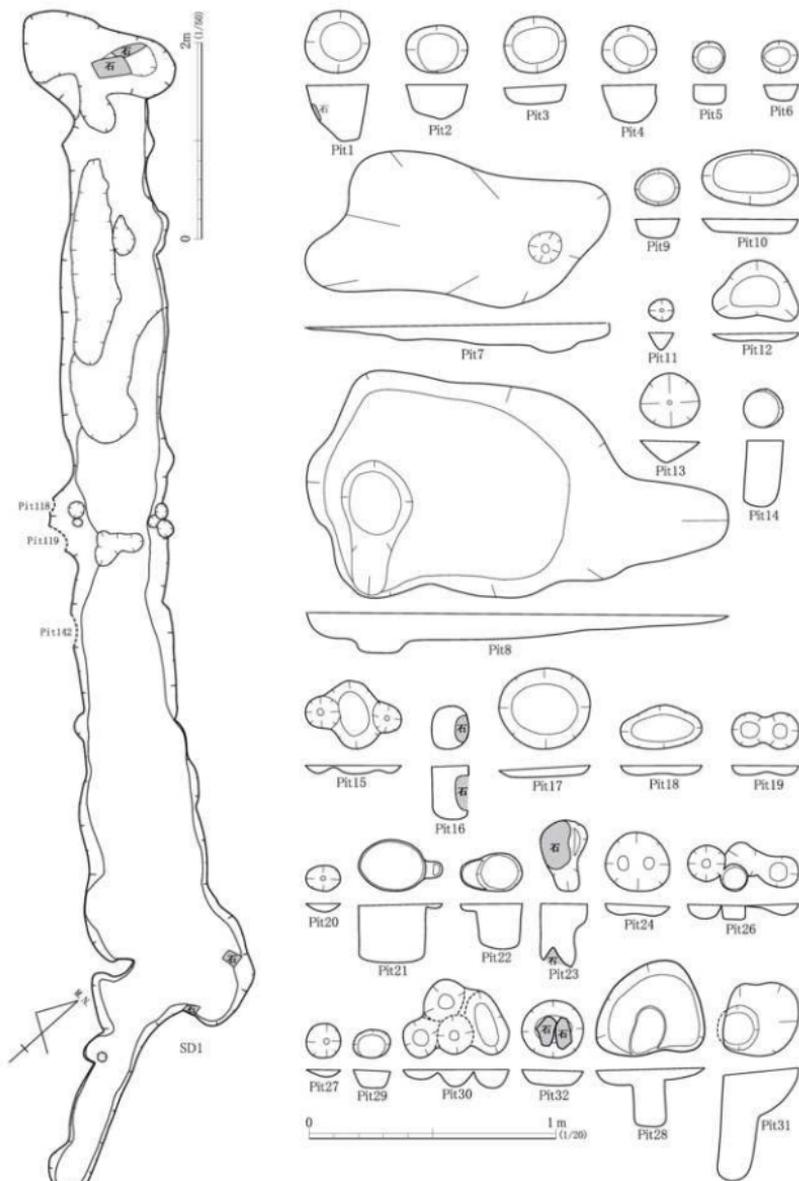


图 56 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区 遺構平面図・断面図①

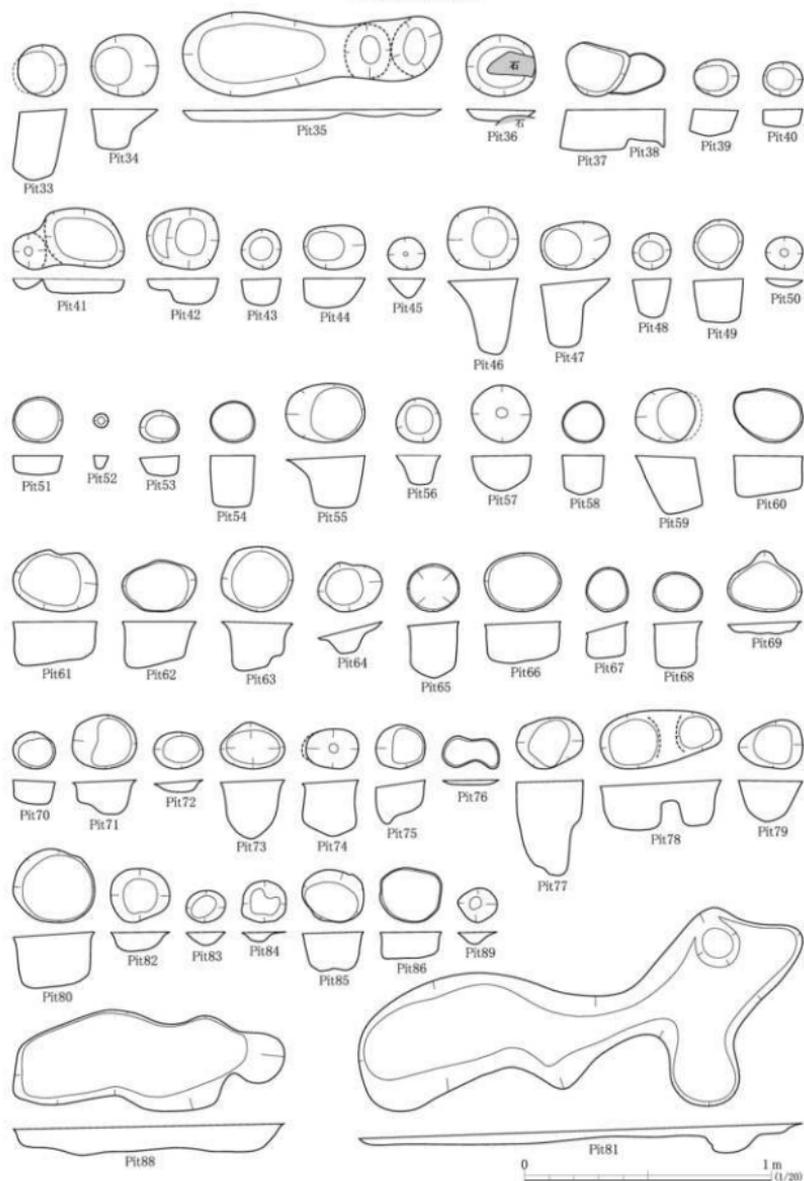


図 57 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区 遺構平面図・断面図②

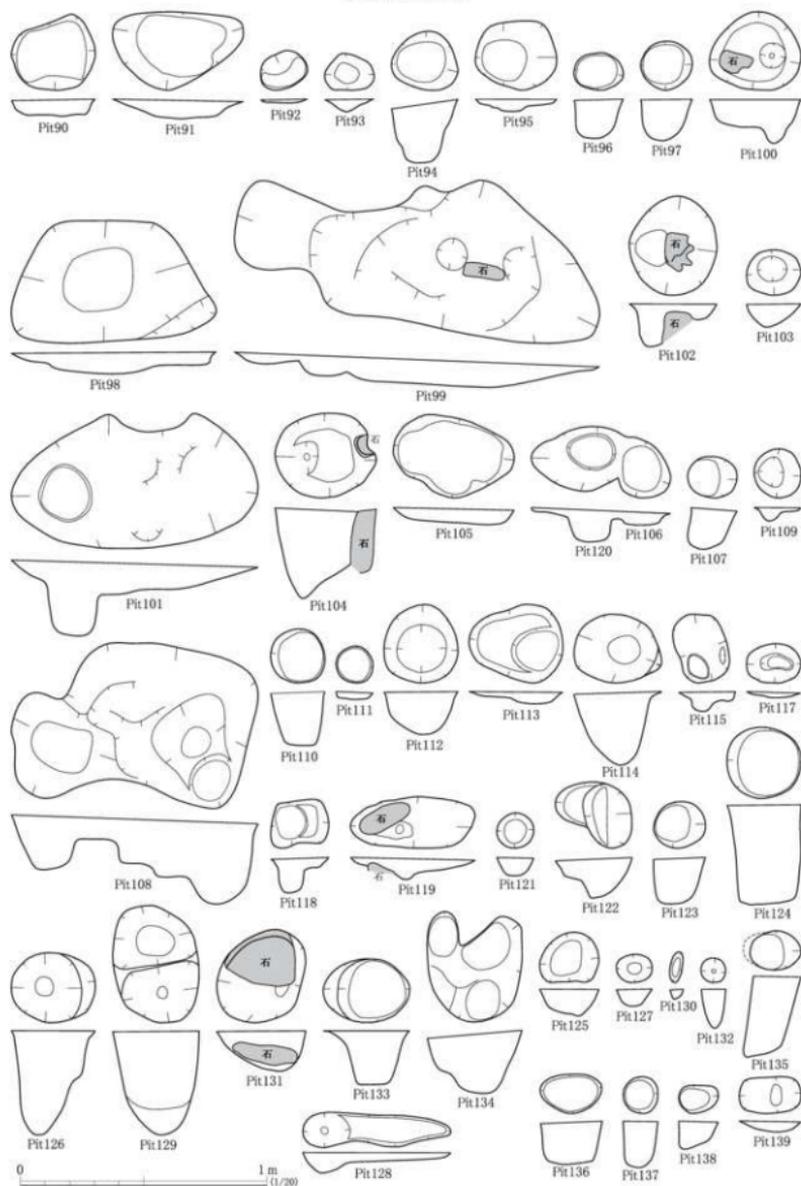


図 58 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区 遺構平面図・断面図③

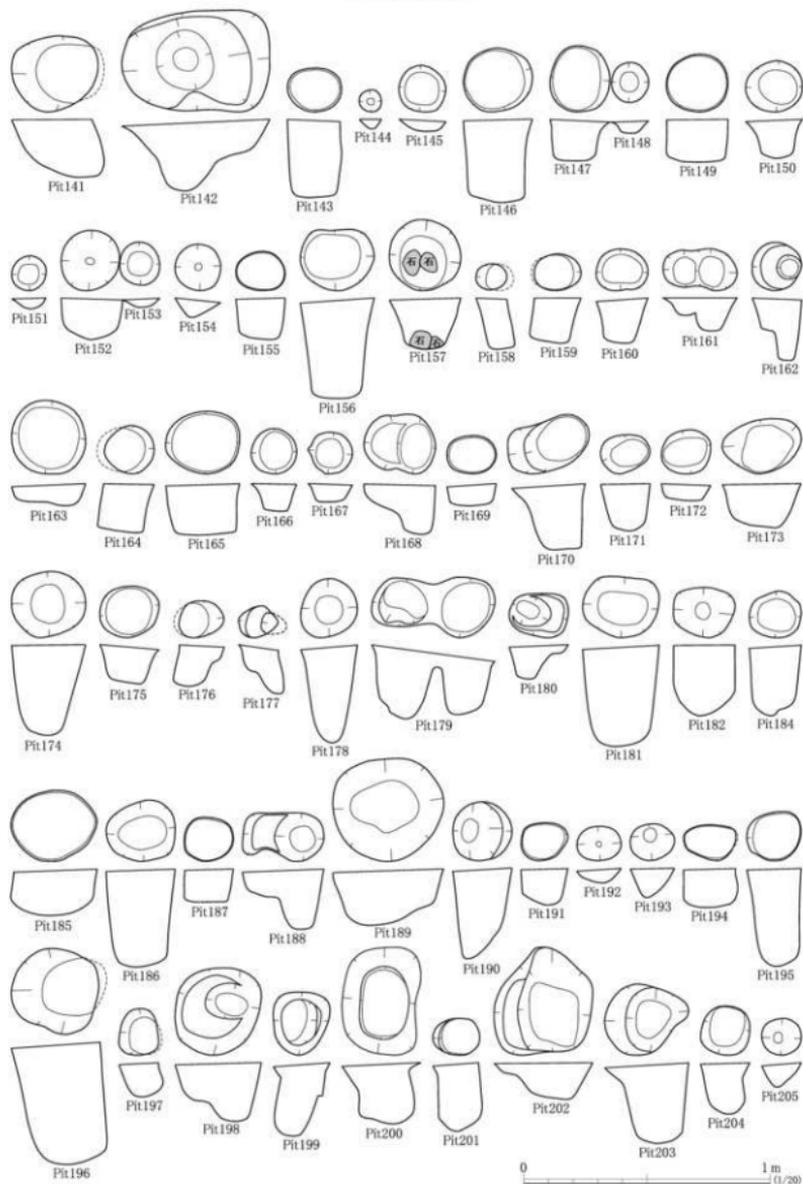


図 59 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区 遺構平面図・断面図④

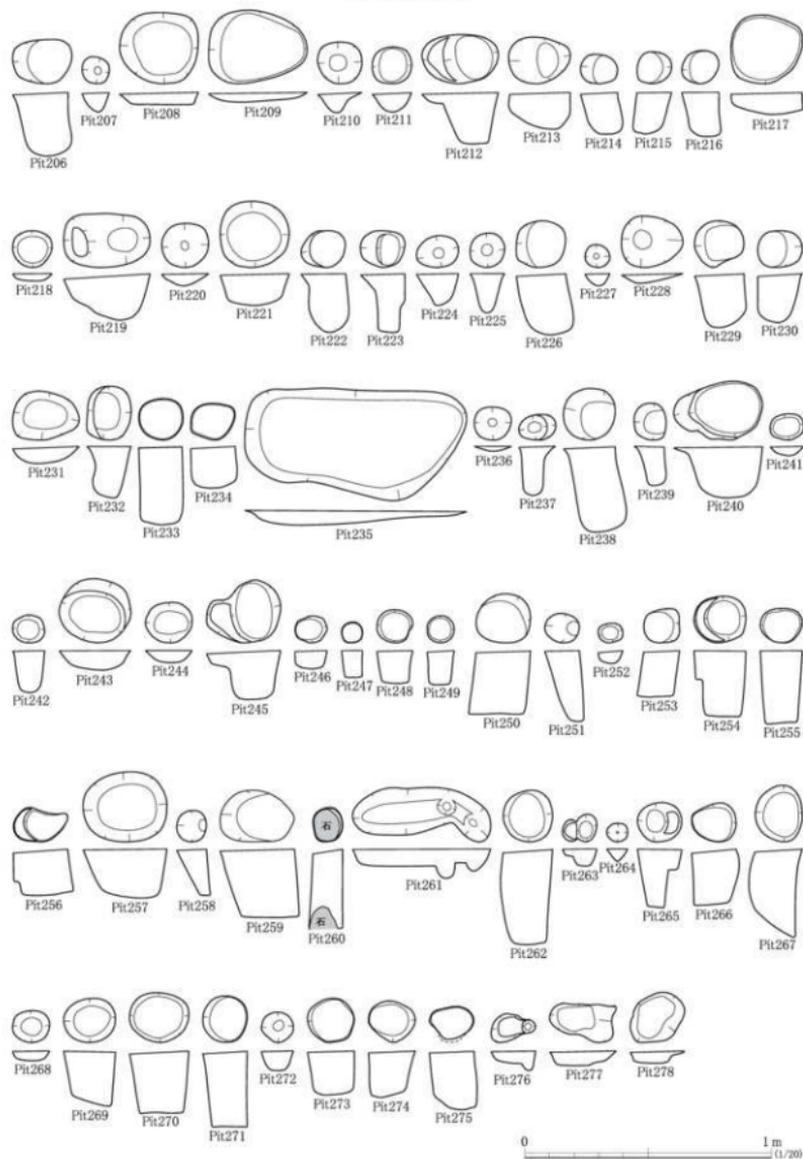


図 60 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区 遺構平面図・断面図⑤

表9 吉田遺跡第Ⅱ地区第1調査区遺構観察・現存遺物一覧表

遺構名	最大径 (資料5) 単位:cm	最小径 (資料5) 単位:cm	深さ (資料5) 単位:cm	備考 (資料5)	遺物 (資料5) 単位:個	遺物 (現存資料) 単位:個	備考 (筆者)
SD1	全长1205 (資料4)	最大幅 165	不明			須恵4・土師14・土師質1 瓦質4・陶器2	
SD1a						須恵22・土師68・土師質1 瓦質20・石製品1・石器1	「溝と思われる所」と記された遺物袋が存在
Pt1	26	24	23		石片1		
Pt2	25	22	14			土師2	
Pt3	25	25	8				
Pt4	22	19	15.5				
Pt5	13	13	8				
Pt6	14.5	14.5	6.5				
Pt7	123.5	61	12			土師1	
Pt8	171	73	16.5		須恵器片・土師	須恵3・土師14・炭化物3	
Pt9	18	15	8				
Pt10	39	22.5	6				
Pt11	10	9	7				
Pt12	35	20	3.5				
Pt13	24	24	9				
Pt14	16	16	27				
Pt15	39	28	3.5				
Pt16	19	15	22		石		
Pt17	37	33	3.5	傾斜			
Pt18	33	18	4				
Pt19	27	12	4		瓦器	須恵1	
Pt20	14	10.5	3.4				
Pt21	34	21	24				
Pt22	25	15.5	18.5		土師・石	土師1	
Pt23	29	12	23				
Pt24	26	24	5				
Pt25	142	不明	9		土師片・須恵器片 糸底・瓦器片1	須恵3・土師4	
Pt26	45	14	6.5				
Pt27	14	14	3				
Pt28	44	39	24		須恵糸底・土師	須恵1	
Pt29	15	12	7.5			須恵1・土師1	
Pt30	43	25	7.5				
Pt31	33	30	46				
Pt32	25	25	6.5		石2	石3	
Pt33	21	19	29				
Pt34	27	25	16.5				
Pt35	105	16	5				
Pt36	28	25	4.5		瓦器	土師3	
Pt37	24	24	17				
Pt38	16	16	15.5		瓦器	須恵1	
Pt39	18	15	11				
Pt40	16	14	7.7			須恵1	
Pt41	45	12	6				
Pt42	29	25	10			須恵2・瓦質1	
Pt43	16	15	11				
Pt44	25	18	12				
Pt45	7.5	7.5	4				
Pt46	28.5	25.5	31				
Pt47	28	18	27.5		瓦器片2		
Pt48	15.5	15.5	16				
Pt49	20	20	18		土師器片1		
Pt50	15	13	3.5				
Pt51	20	20	8				
Pt52	6	6	5.5				
Pt53	16	13	8.5	傾斜			
Pt54	18	18	21.2				
Pt55	32	24	21.5	傾斜			
Pt56	18	18	12			土師3・石1	
Pt57	24	24	14.5				
Pt58	17	17	16				
Pt59	24	22	24			陶器1・粗陶器2	
Pt60	28	22	17				
Pt61	34	24	18		土師3		
Pt62	30	21	19				
Pt63	29	26	20				
Pt64	26	20	9				

遺構名	最大径 (資料5) 単位:cm	最小径 (資料5) 単位:cm	深さ (資料5) 単位:cm	備考 (資料5)	遺物 (資料5) 単位:個	遺物 (現存資料) 単位:個	備考 (筆者)
Pit65	21	20	23				
Pit66	31	24	17				
Pit67	18	17	15				
Pit68	20	16	19		土師4・須恵2	須恵2・土師1	
Pit69	30	20	5				
Pit70	17	13	10				
Pit71	26	22	14		古式土師2・土師1		
Pit72	20	15	5				
Pit73	26	19	24				
Pit74	20	17	23		土師1・須恵1	土師2	
Pit75	20	18	12				
Pit76	23	9	2				
Pit77	27	21	39		土師2・石葉1・不明1		
Pit78	49	不明	21		須恵1・不明1	須恵1・瓦質1	2基のPitの切り合いか
Pit79	26	20	17		土師2	土師1	
Pit80	33	30	23				
Pit81	180	16	12		須1・土3		
Pit82	24	22	8				
Pit83	16	13	5.5				
Pit84	18	17	4				
Pit85	25	21.5	16		土師		
Pit86	25	22	11			瓦質1	遺物:試験時の遺構番号
Pit87	不明	不明	不明			須恵3・土師12・土師質1 瓦質1・石製品1	資料3の平面図のみ
Pit88	110	20	13		土製支脚1・土師5 須恵6・不明6	土師4・瓦質1	
Pit89	16	14	5				
Pit90	34	31	7				
Pit91	53	32	8		土師1	土師1	
Pit92	19	18	1.5				
Pit93	20	15	5				
Pit94	27	24	26				
Pit95	33	28	5				
Pit96	20	16	16				
Pit97	21	20	17			須恵2・土師3・瓦質4・石2	
Pit98	83	50	9		須恵2・土師	土師1・瓦質1	
Pit99	148	64	10		須恵5・土師12	須恵2・土師9・瓦質2	
Pit100	37	32	18	石	須恵4・土師多数	須恵3・土師11・瓦質2	
Pit101	100	55	31				
Pit102	40.5	35.5	17.5				
Pit103	22	18.5	9.5				
Pit104	41	34.5	37	木片		炭化木	
Pit105	49	34	7		土師7	土師4	
Pit106	56.5	14.5	13		土師1・不明1	須恵1・土師6・瓦質4	Pit120との切り合い
Pit107	20	17	21		土師1	須恵1・土師10・瓦質1	
Pit108	100	56	33		土師多数・須恵5 不明1	須恵3・土師25・瓦質3	複数Pitの切り合いか
Pit109	20	19	5.5				
Pit110	22	22	22		土師3・須恵1	須恵1・土師2	
Pit111	15	15	3				
Pit112	32	30	17.5		土師1		
Pit113	38	32	5				
Pit114	35.5	28	30				
Pit115	28	23	8		土師2		
Pit116	不明	不明	不明				記載なし
Pit117	22	16	2.5				
Pit118	23.5	20	14.5		土師4	瓦質1	
Pit119	50.5	21	9				
Pit120	56.5	14.5	13		土師1・不明1	須恵1・土師6・瓦質4	Pit6との切り合い
Pit121	15	14	7.5		土師4・須恵1・瓦器1		
Pit122	31	27	17	底に石	土師2・須恵	土師2・瓦質1	
Pit123	21	20	19				
Pit124	30	29	41		土師2・炭化物2		
Pit125	24	20.5	11	せっこう3		石3	
Pit126	34	28.5	42.5		土師2・石片1		
Pit127	14.5	11.5	7		須恵1	須恵1	
Pit128	60	14.5	8.5				
Pit129	48	35	42.5	焼け石	土師2		
Pit130	12.5	5.5	4				
Pit131	38	36	16.5	底部に石	瓦器1	土師1・瓦質1・石3	
Pit132	10	10	16				
Pit133	35	26	22		須恵1・瓦器(中世)1		

吉田遺跡第Ⅱ地区の調査

遺構名	最大径 (資料5) 単位:cm	最小径 (資料5) 単位:cm	深さ (資料5) 単位:cm	備考 (資料5)	遺物 (資料5) 単位:個	遺物 (現存資料) 単位:個	備考 (筆者)
Pt134	45	38.5	不明				複数Ptの切り合いか
Pt135	20.5	16	33		土師1		
Pt136	25	15	17.5		土師1・須恵1	須恵1・土師2	
Pt137	15	14	19				
Pt138	16	11.5	11.5				
Pt139	25	15	4.5				
Pt140	不明	不明	不明	柱穴ではなごり おろしがない			
Pt141	31.5	31	23		瓦器・須恵・木片		
Pt142	60	41.5	不明		須恵1・瓦器1・土師3	須恵1・土師11・石1	
Pt143	22	18	32				
Pt144	9	9	4				
Pt145	19	19	5				
Pt146	28	26	34		石		
Pt147	27	24	17				
Pt148	15	15	7.5			土師1	遺物:試験時の遺構番号
Pt149	25	23.5	17.5				
Pt150	23	20	16		土師		
Pt151	14	14	4.5				
Pt152	25	25	17		石・須恵		
Pt153	15	15	5			瓦質1	遺物:試験時の遺構番号
Pt154	18.5	18.5	8				
Pt155	20	16	17				
Pt156	30	25	41			瓦器	須恵1・土師8・瓦質5
Pt157	29	29	21			石	
Pt158	12.5	12.5	21				
Pt159	19	15	18.5				
Pt160	21	17	18.5				
Pt161	30	15	13.5				2基のPtの切り合いか
Pt162	20	20	25.5				
Pt163	30	30	9				
Pt164	20	20	20				
Pt165	30	25	24		土師・石多	須恵1・土師3・瓦質1	
Pt166	18.5	18.5	11.3		須恵	土師2・瓦質1・陶器1 土師3	
Pt167	18	17	7.5				
Pt168	29	21.5	3.5				
Pt169	20	15.2	9.1		須恵器片		
Pt170	33	20	27		土師		
Pt171	20	16	21				
Pt172	20	18	7				
Pt173	32	23	18		土師・須恵 数片		
Pt174	30	27	37		木炭・土師		
Pt175	24	21	16		須恵1・土師数片		
Pt176	18	15	17				
Pt177	16	13	20				
Pt178	24	23	40				
Pt179	50	20	30				2基のPtの切り合いか
Pt180	24	18	14				
Pt181	31	25	41.5		土師		
Pt182	25	20.5	29				
Pt183	不明	不明	不明				記載なし
Pt184	21	19	17.5				
Pt185	35	29	19				
Pt186	28	25	40				
Pt187	20	18	13.5	かきなおし		土師3・瓦質1	
Pt188	33	20	24				
Pt189	45	42	23				
Pt190	24	24	37				
Pt191	19	15	15				
Pt192	18	14	6				
Pt193	18	15	12				
Pt194	22	15	16				
Pt195	22	20	40		瓦器・土師・須恵 須恵・瓦器・木片 土師・石	須恵1・土師1 土師3・瓦質1・粘土塊	
Pt197	19	16	14				
Pt198	36	35	24				
Pt199	26	23	30		須恵・土師	須恵1・土師1	
Pt200	44	32	25				
Pt201	19	15	28				
Pt202	44	40	15		土師	土師3	

吉田遺跡第Ⅱ地区の調査

遺構名	最大径 (資料5) 単位:cm	最小径 (資料5) 単位:cm	深さ (資料5) 単位:cm	備考 (資料5)	遺物 (資料5) 単位:個	遺物 (現存資料) 単位:個	備考 (筆者)
Pt203	34	29	33		土師・瓦器	須恵2・土師3・石1	
Pt204	20	20	21				
Pt205	16	15	10				
Pt206	24	18	26		土師		
Pt207	11	11	8				
Pt208	32	29	5				
Pt209	40	30	4				
Pt210	18	17	8				
Pt211	15	15	8				
Pt212	31	20	21				
Pt213	25	19	15		土師	土師2	
Pt214	15	12	17				
Pt215	14	13	17				
Pt216	15	14	18		須恵	須恵4・土師1・瓦質1・石1	
Pt217	29	18	9				
Pt218	16	15	3				
Pt219	35	22	19		須恵	須恵1	
Pt220	19	18	5				
Pt221	28	27	13		土師・須恵	須恵1・土師6	
Pt222	18	15	24		土師		
Pt223	18	16	23				
Pt224	17	13	18				
Pt225	14	14	16				
Pt226	20	19	25		須恵	須恵2	
Pt227	10	10	5				
Pt228	25	21	4				
Pt229	20	19	22		土師	土師1	
Pt230	18	15	20				
Pt231	27	20	7				
Pt232	22	18	21				
Pt233	18	17	32		須恵	須恵1	
Pt234	18	15	17				
Pt235	90	45	5		須恵・土師・瓦器	須恵1・瓦質1	
Pt236	15	14	2				
Pt237	15	10	20				
Pt238	21	21	35		土師	弥生?1	
Pt239	15	13	16				
Pt240	36	24	21		須恵		
Pt241	13.5	10	4				
Pt242	13	11	15				
Pt243	29	26	8		土師	土師1	
Pt244	19	17	5				
Pt245	30	26	20				
Pt246	13	11	7.5				
Pt247	8.5	8.5	11				
Pt248	14.5	13.5	13.5				
Pt249	11	11	14				
Pt250	22	20	26		土師・瓦器		
Pt251	14	12	29				
Pt252	10	8	5				
Pt253	14.5	14	19				
Pt254	21	19	27				
Pt255	17	14	30				
Pt256	22	14	19				
Pt257	34	30	20				
Pt258	13	12	19				
Pt259	30	21	28				
Pt260	14	12	33		石		
Pt261	56	12	12				
Pt262	21	20	39				
Pt263	14	7	7				
Pt264	8.5	7	5				
Pt265	18	16	24				
Pt266	18	16	26				
Pt267	23	19	36				
Pt268	15	13	4				
Pt269	21	18	22.5				
Pt270	24	20	25.5		土師・瓦器	須恵1・土師1・石1	
Pt271	19	18	31		須恵		
Pt272	13	12	8				
Pt273	19	18	18				
Pt274	19	17	19		須恵1	須恵1	
Pt275	18	15	24		土師・須恵		
Pt276	18	12	8				
Pt277	27	16	6				
Pt278	22	16	5				



写真 81 第Ⅱ地区第1調査区南西部（南東から）



写真 82 第Ⅱ地区第1調査区北東部（南西から）



写真 83 第Ⅱ地区第1調査区南西部（西から）



写真 84 第Ⅱ地区第1調査区北東部（南から）

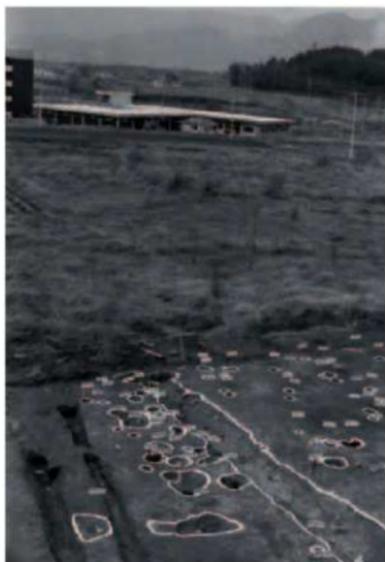


写真 85 第Ⅱ地区第1調査区中央部遺構群 (南から)

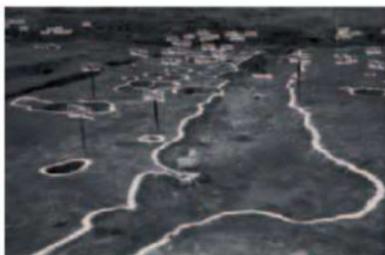


写真 86 第Ⅱ地区第1調査区中央部 SD1 (南東から)

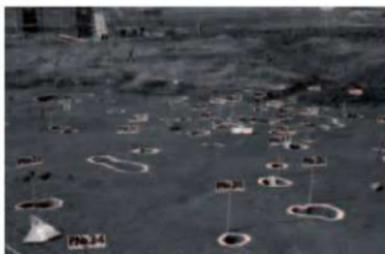


写真 87 第Ⅱ地区第1調査区南西部遺構群 (南東から)



写真 88 第Ⅱ地区第1調査区南西部遺構群 (東から)



写真 89 第Ⅱ地区第1調査区中央部遺構群 (北東から)



写真 90 第Ⅱ地区第1調査区南西部遺構群 (東から)



写真 91 第Ⅱ地区第1調査区遠景 (南西から)

c. 遺物(図61～64、表9・10、写真92～98)

前述したように、現在埋蔵文化財資料館には遺物収納コンテナ1箱分の第Ⅱ地区第1調査区出土資料が保管されており、収納されている遺物袋には遺構番号や取り上げ年月日などが記載されている。それらの注記を見ると、個別遺構が特定できるものが69袋、SD1出土と推定されるものが5袋、複数ピットの出土遺物が混在すると考えられるものが13袋、表採等詳細が不明なものが4袋である。表9に遺構と現存資料の対応を記しているが、個別遺構記録時の出土遺物表記とほぼ対応しているものの、記録には記載されているが遺物袋が存在しないもの、逆に遺物袋は存在するが記録には記載されていないものもある。前者については混在する遺物袋に混ざったものと推測することが可能であるが、後者に関しては判断が難しい。ここで遺構掘削完了時に撮影されたと考えられる写真(写真81～90)に目を転じると、新たな事実が浮かび上がる。写真は各遺構の縁に遺構番号を示す標識を立てた状態で撮影されているが、その番号と調査後半に作製された平板測量図(図54)に記載された遺構番号を見比べると、大きく齟齬を来していることが分かる。特に遺物袋が写されている写真86・87と図54とを比較していただければ一目瞭然だろう。つまり、現状では記録された遺構と出土遺物との相関性は保証できないと言える。

以上の事実を念頭に置き出土遺物の全体像を見てみよう。図61～64にかけて遺物実測図を掲載しているが、遺物の大多数が小片であるため図化可能なものは極めて少ない。ピット出土とされるもの(1～55、87～123)は概ね古代から中世の土器で占められる。須恵器ではかえりをもつ坏身片(100)や坏蓋片(15)なども存在するが、多くは8世紀後半から9世紀にかけての資料である。一方土師器では高台が退化し、断面が三角形を呈する底部片(18、27、46、51、89、90、103)が目につき、瓦質土器においては、14世紀中に姿を消すと思われる羽釜(13、33、36、47、104)が存在する。これらは13世紀から14世紀にかけての遺構群の存在を示唆する遺物群とらえられる。また鍋(87)は口縁内端部にわずかな突起を有することから、口縁部単体では岩崎氏分類のVIB型式もしくはVIA古型式に該当するようにも感じられるが、土師質であること、口縁部長が短いこと、体部に叩き痕を残すことから、岩崎氏分類ではⅡ型式からⅢ型式に属する個体と見なすべき資料であろう⁸⁷。その他中世の遺物としては滑石製の石鍋底部片(25)も出土している。

この他に、ピット出土とされる資料中で注目されるのは、整理NO.83「吉田第Ⅱ柱穴S.41.11.23」と注記された遺物袋である。この袋には89点の土器片が収められているが、その全てが弥生土器である。単一遺構から出土したものか、複数遺構から出土した弥生土器を一括して収納したものなのかは不明であるが、この資料により遺跡南東部の丘陵地帯においても弥生時代の遺構が存在することがほぼ確定的となった。資料の多くは接合しない体部片であるが、図化可能なもの(110～123)を見ると、底部片では前期から中期までの資料が存在している。一方120は後期の壺頸部片と考えられるが、頸部に貼り付けた薄い粘土帯上に二枚貝による施文が行なわれており注目される。

SD1に関連する資料としては、遺物袋に「溝」と注記されているもの(56～66)と、「溝と思われる所」と記されているもの(67～86)が存在する。資料を見ると古代から中世にかけての土器類が中心であるが、少数ではあるものの近世の磁器(65、66)や土師質土器(63、64)も見られる。前述したようにこの溝は北西部において落ち込み状の遺構と重複している可能性があり、縁辺のピットとも切り合い関係を有している。現状では中世期に形成された溝と見なしたい。特徴的な遺物としては外面に煤が付着した石鍋体部片(86)が挙げられるが、断面三角形の貼り付け高台を有する椀の底部片(84)も注目される。内面には粗くミガキが施されており、土師器椀の末期形態と思えるが、外面に見られるあまい炭素吸着や全周しな高台の貼り付け方法などは和泉型瓦器椀Ⅳ期初頭に見られる特徴であり、注意が必要であろう。

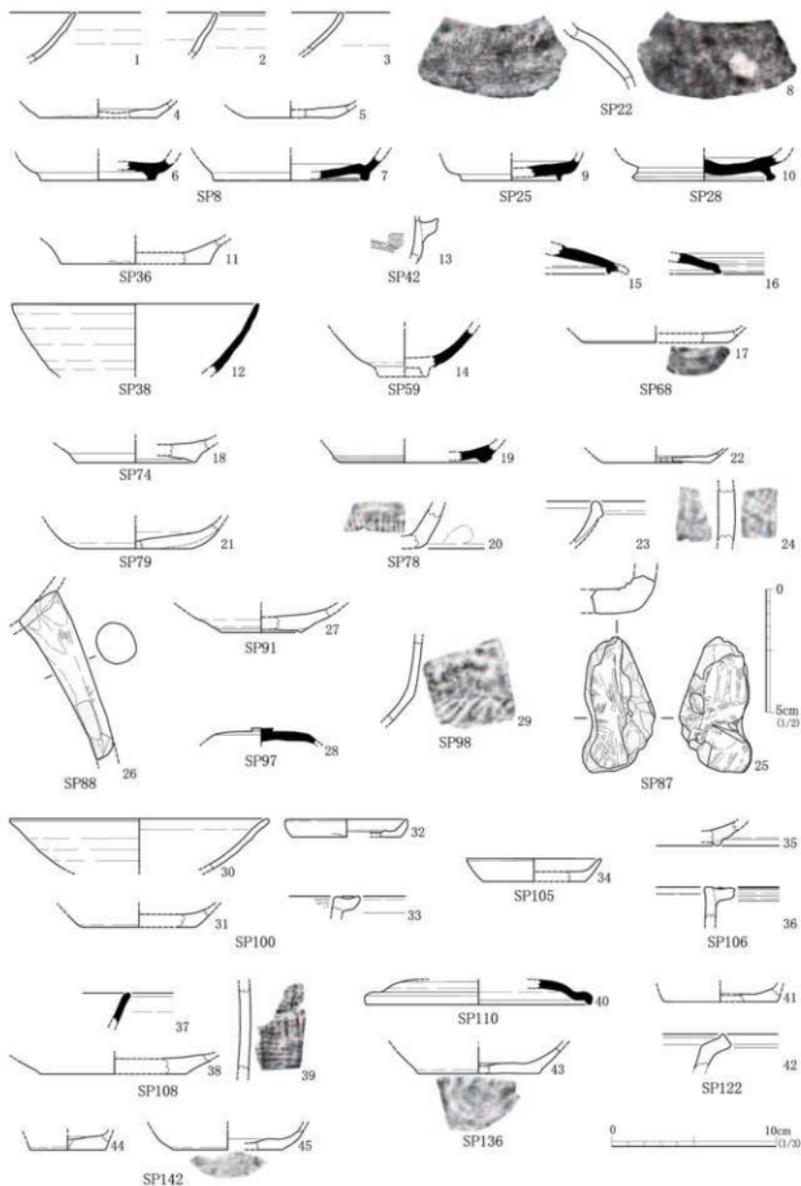


図61 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物実測図①

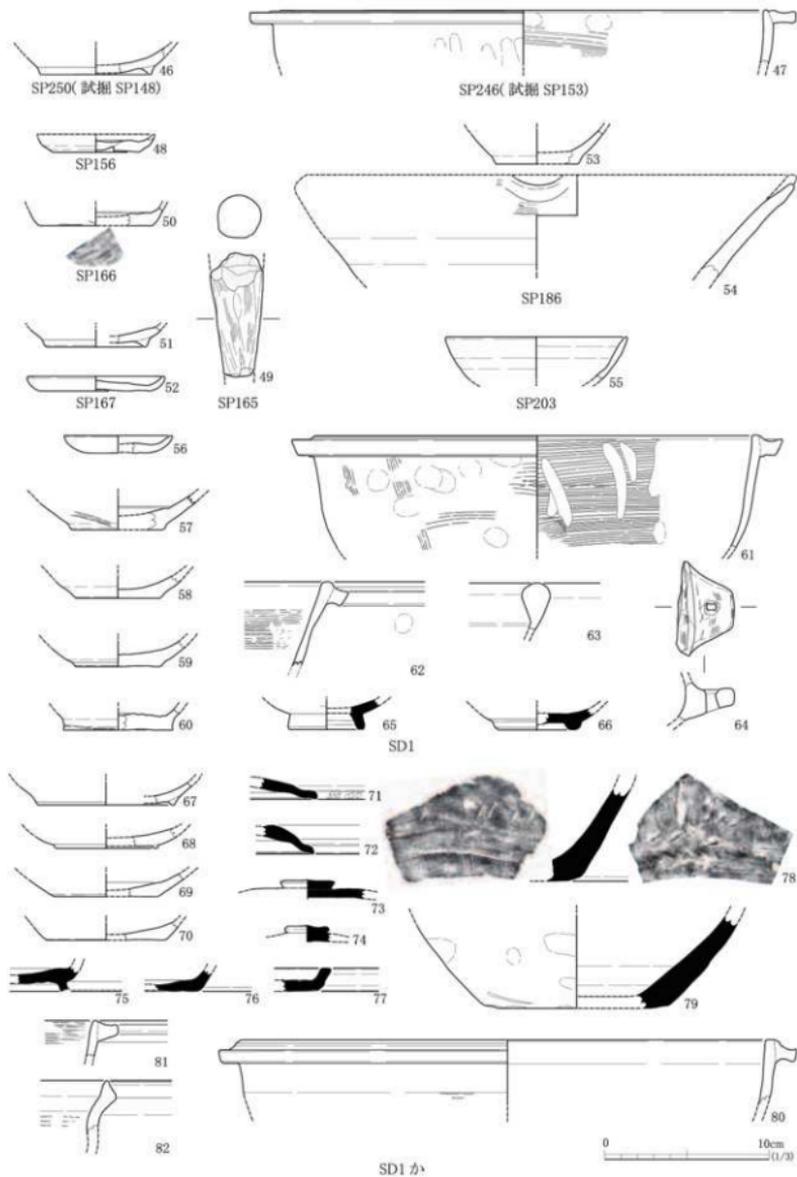


図62 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物実測図②

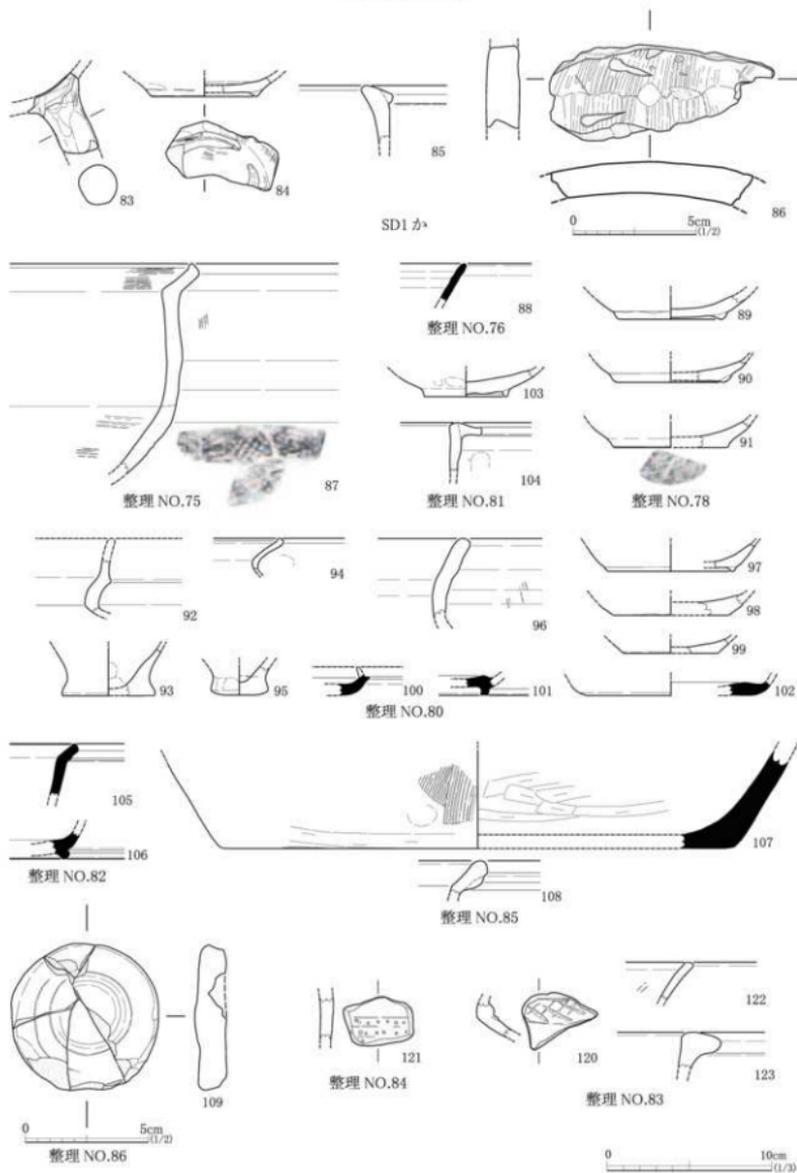
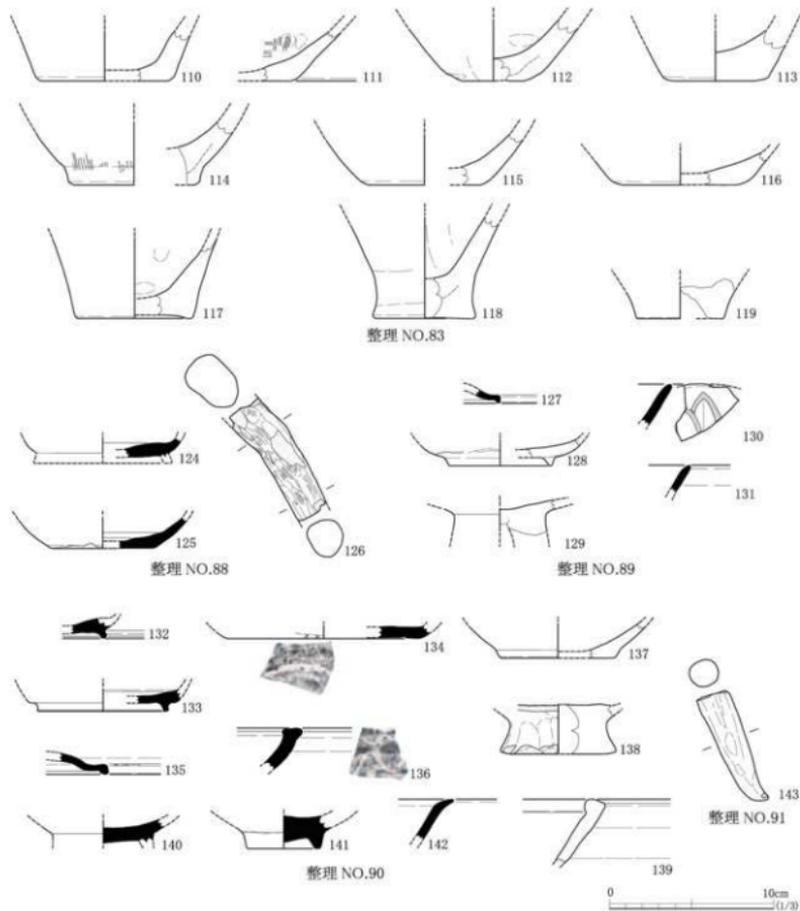


図 63 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物実測図③

吉田遺跡第Ⅱ地区の調査



遺物の注記

整理 NO. 75…吉田遺跡	第Ⅱ遺跡	S. 41. 11. 2	柱穴跡	整理 NO. 84…吉田遺跡	第Ⅱ遺跡	S. 41. 12. 11	柱穴
整理 NO. 76…吉田遺跡	第Ⅱ遺跡	S. 41. 11. 6	柱穴跡	整理 NO. 85…吉田遺跡	第Ⅱ遺跡	S. 41. 12. 11	柱穴跡
整理 NO. 78…吉田遺跡	第Ⅱ遺跡	S. 41. 11. 10	柱穴跡	整理 NO. 86…吉田遺跡	第Ⅱ遺跡	S. 41. 12. 11	柱穴跡
整理 NO. 80…吉田遺跡	S. 41. 11. 10	第Ⅱ遺跡	柱穴跡	整理 NO. 88…1966. 8. 11	平川Ⅱ地点	表面採集	
整理 NO. 81…吉田遺跡	第Ⅱ遺跡	S. 41. 11. 10	柱穴跡	整理 NO. 89…1966. 8/13	吉田遺跡Ⅱ	○(不明文字)	帯状
整理 NO. 82…吉田遺跡	第Ⅱ遺跡	S. 41. 11. 10	第Ⅱ遺跡	柱穴跡	整理 NO. 90…1966. 8/13	吉田遺跡Ⅱ	
整理 NO. 83…吉田	第Ⅱ遺跡	柱穴	S. 41. 11. 23	整理 NO. 91…1966. 9. 9	平川吉田遺跡	第Ⅱ地区付近	

図 64 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物実測図④

表10 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物 番号	遺構	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③高さ	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
1	SP8	土師器 坏	口縁部			①褐色(5YR7/6) ②浅黄褐色(7.5YR8/4)	0.5~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
2	SP8	土師器 坏	口縁部			①褐色(7.5YR7/6) ②浅黄褐色(7.5YR8/4)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
3	SP8	土師器 皿か	口縁部			①浅黄褐色(7.5YR8/4) ②にぶい褐色(7.5YR7/3)	精緻	
4	SP8	土師器 皿か	底部	②(7.0)		①②にぶい褐色(7.5YR7/4)	0.1~1mmφの細砂粒 少量混ざる	
5	SP8	土師器 皿	底部	②(5.4)		①②浅黄褐色(7.5YR8/4)	0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
6	SP8	須恵器 高台付坏身	底部	②(7.0)		①灰色(N6) ②灰白色(N7)	0.5~1mmφの細砂粒 多く混ざる	
7	SP8	須恵器 高台付坏身	底部	②(9.3)		①②青灰色(5B5/1)	0.1~1mmφの細砂粒 やや多量混ざる	
8	SP22	土師器 甕	体部			①浅黄褐色(10YR8/3) ②灰黄褐色(10YR5/2)	0.1~1mmφの細砂粒 多く混ざる	
9	SP25	須恵器 高台付坏身	底部	②(6.1)		①灰色(N5) ②灰色(N6)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
10	SP28	須恵器 高台付坏身	底部	②(8.0)		①②灰白色(N7)	0.5~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
11	SP36	土師器 坏か	底部	②(9.0)		①②褐色(5YR6/8)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
12	SP38	須恵器 坏身	口縁部 ~体部	①(15.0)		①②灰白色(2.5Y7/1)	0.5~1.5mmφの粗砂粒 少量混ざる	
13	SP42	瓦質土器 羽釜	口縁部			①②灰白色(2.5Y8/1)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
14	SP59	陶器 鉢か	底部 ~体部			素地にぶい黄褐色 (10YR7/2) 軸 灰白色(N8)	0.5~1mmφの細砂粒 少量混ざる	薬灰釉
15	SP68	須恵器 坏蓋	口縁部 ~体部			①②灰白色(N7)	0.5~1mmφの細砂粒 少量混ざる	
16	SP68	須恵器 坏蓋	口縁部 ~体部			①②灰色(N6)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
17	SP68	土師器 皿か	底部	②(8.7)		①②にぶい黄褐色(10YR7/4)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	底部系切り
18	SP74	土師器 高台付坏か	底部	②(7.2)		①浅黄褐色(7.5YR8/3) ②灰白色(10YR8/1)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
19	SP78	須恵器 高台付坏身	底部	②(9.8)		①②灰白色(N7)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
20	SP78	瓦質土器 撰鉢	底部			①②にぶい黄褐色(10YR7/2)	0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
21	SP79	土師器 皿か	底部	②(6.6)		①褐色(5YR6/6) ②褐色(5YR7/6)	0.5~2mmφの粗砂粒 少量混ざる	
22	SP87	土師器 皿	底部	②(6.4)		①②灰白色(10YR8/2)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
23	SP87	土師質土器 鉢	口縁部			①②赤褐色(10R6/6)	0.5~2mmφの粗砂粒 少量混ざる	
24	SP87	瓦質土器 銅釜類	体部			①②灰色(N5)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
26	SP88	瓦質土器 足鍋	脚部			①灰白色(2.5Y8/1)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
27	SP91	土師器 高台付坏か	底部	②(4.9)		①灰白色(2.5YR8/2) ②浅黄色(2.5Y8/3)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
28	SP97	須恵器 坏蓋	天井部 ~体部	つまみ径 1.5		①灰色(5Y6/1) ②灰色(N6)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
29	SP98	瓦質土器 銅釜類	体部			①②灰白色(10YR8/1)	0.5~2mmφの粗砂粒 少量混ざる	
30	SP100	土師器 坏	口縁部 ~体部	①(15.8)		①②にぶい褐色(7.5YR7/4)	0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
31	SP100	土師器 坏か	底部	②(7.0)		①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②灰白色(10YR8/1)	0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
32	SP100	土師器 皿	口縁部 ~底部	①(7.3)②(6.5)③1.1		①褐色(5YR6/6) ②褐色(5YR7/6)	0.1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
33	SP100	瓦質土器 羽釜	口縁部			①灰黄褐色(10YR6/2) ②灰黄褐色(10YR5/2)	0.5~2mmφの粗砂粒 少量混ざる	
34	SP105	土師器 皿	口縁部 ~底部	①(8.2)②(6.2)③1.4		①②褐色(5YR6/6)	0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
35	SP106	土師器 高台付坏か	底部			①にぶい黄褐色(10YR7/3) ②灰白色(N8)	0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
36	SP106	瓦質土器 羽釜	口縁部			①②暗灰色(N3)	0.1~1mmφの細砂粒 少量混ざる	
37	SP108	須恵器 坏身	口縁部			①②灰白色(N7)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	

吉田遺跡第Ⅱ地区の調査

遺物番号	遺構	器種	部位	法量 (cm)		色調		胎土	備考
				①口径②底径③器高	①外面 ②内面	①外面 ②内面			
38	SP108	土師器 皿か	底部	②(9.0)		①褐色(5YR6/6) ②にふい黄褐色(10YR7/4)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる		
39	SP108	瓦質土器	体部			①白色② ②灰白色(N7)	0.5~2mmφの粗砂粒 少量混ざる		
40	SP110	須恵器 坏蓋	口縁部 ~体部	①(13.6)		①灰色(N6) ②灰白色(N7)	0.1~0.5mmφの細砂粒 やや多く混ざる		
41	SP122	土師器 皿か	底部	②(6.8)		①②褐色(7.5YR7/6)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる		
42	SP122	瓦質土器 銅か	口縁部			①②灰白色(5Y8/1)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる		
43	SP136	土師器 坏	底部~ 体部	②(7.3)		①②褐色(7.5YR7/6)	0.5~1.5mmφの粗砂粒 少量混ざる	底部糸切り	
44	SP142	土師器 皿	底部	②(4.6)		①②褐色(5YR6/8)	0.5~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる		
45	SP142	土師器 坏か	底部	②(6.6)		①②にふい褐色(7.5YR5/3)	0.1~1mmφの細砂粒 やや多く混ざる	底部糸切り	
46	試SP148 本SP250	土師器 坏	底部	②(6.6)		①②灰白色(10YR8/2)	0.1~1mmφの細砂粒 少量混ざる	試掘時 出土品	
47	試SP153 本SP246	瓦質土器 羽釜	口縁部 ~体部	①(29.2)		①②暗灰色(N3)	0.5~2mmφの粗砂粒 多く混ざる	試掘時 出土品	
48	SP156	土師器 皿	底部~ 体部	②(5.3)		①②にふい褐色(7.5YR7/4)	0.1mmφの細砂粒 極少量混ざる		
49	SP165	瓦質土器 足鍋	脚部			①灰白色(2.5Y8/1)	0.5~2mmφの粗砂粒 多量に混ざる		
50	SP166	土師器 皿か	底部	②(6.9)		①にふい黄褐色(10YR7/3) ②灰白色(10YR8/2)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	底部糸切り	
51	SP167	土師器 高台付坏	底部	②(6.0)		①②灰白色(2.5Y8/2)	0.5~1mmφの細砂粒 少量混ざる		
52	SP167	土師器 皿	口縁部 ~底部	①8.2②6.7③0.9		①②褐色(7.5YR6/6)	0.5~1.5mmφの細砂粒 少量混ざる		
53	SP186	土師器 坏	底部~ 体部	②(5.0)		①②浅黄褐色(10YR8/3)	0.1~1mmφの細砂粒 少量混ざる		
54	SP186	瓦質土器 片口鉢	口縁部 ~体部			①②灰色(N4)	0.5~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる		
55	SP203	土師器 椀	口縁部 ~体部	①(11.0)		①②にふい褐色(7.5YR7/4)	0.5~1mmφの細砂粒 少量混ざる		
56	SD1	土師器 皿	口縁部 ~底部	①(6.6)②(4.0)③1.05		①②褐色(5YR6/6)	0.1~1.5mmφの粗砂粒 少量混ざる		
57	SD1	土師器 坏	底部~ 体部	②(5.6)		①②褐色(5YR7/8)	0.1~1mmφの細砂粒 少量混ざる		
58	SD1	土師器 坏	底部~ 体部	②(5.1)		①浅黄褐色(7.5YR8/4) ②褐色(7.5YR7/6)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる		
59	SD1	土師器 坏	底部	②(5.2)		①褐色(7.5YR7/6) ②浅黄褐色(7.5YR8/4)	0.1~1mmφの細砂粒 少量混ざる		
60	SD1	土師器 坏	底部	②(6.6)		①②褐色(5YR7/6)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる		
61	SD1	瓦質土器 羽釜	口縁部 ~体部	①(26.2)		①②暗灰色(N3)	0.1~1.5mmφの粗砂粒 少量混ざる		
62	SD1	瓦質土器 羽釜	口縁部 ~体部			①②暗灰色(N3)	0.1~0.2mmφの粗砂粒 少量混ざる		
63	SD1	土師質土器 甕	口縁部			①②浅黄褐色(7.5YR8/4)	0.1~2mmφの粗砂粒 少量混ざる		
64	SD1	土師質土器	把手			にふい黄褐色(10YR7/4)	0.5~3mmφの粗砂粒 極少量混ざる		
65	SD1	陶器 碗か	底部~ 体部	②(4.5)		素地 灰黄色(2.5Y7/2) 釉 灰白色(7.5Y8/1)	精緻	藁灰釉	
66	SD1	陶器 皿か	底部~ 体部	②(4.6)		素地 灰白色(2.5Y8/2) 釉 透明	精緻	蛇の目 釉剥ぎ	
67	SD1か	土師器 高台付坏	底部~ 体部	②(8.2)		①灰白色(2.5YR8/1) ②灰白色(2.5YR8/2)	0.1~1mmφの砂粒 少量混ざる		
68	SD1か	土師器 高台付坏	底部~ 体部	②(6.0)		①②灰白色(10YR8/2)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる		
69	SD1か	土師器 皿か	底部~ 体部	②(6.3)		①褐色(5YR7/6) ②褐色(7.5YR6/6)	0.1~5mmφの砂粒 少量混ざる		
70	SD1か	土師器 坏	底部	②(7.4)		①②褐色(5YR6/6)	0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる		
71	SD1か	須恵器 坏蓋	口縁部 ~体部			①②灰色(N6)	0.1~1mmφの砂粒 やや多く混ざる	口唇刻み 目	
72	SD1か	須恵器 坏蓋	口縁部 ~体部			①②灰色(N6)	0.1~0.5mmφの砂粒 やや多く混ざる		
73	SD1か	須恵器 坏蓋	天井部 ~体部	つまみ径3.2		①②灰色(N7)	0.5~1mmφの砂粒 極少量混ざる		
74	SD1か	須恵器 坏蓋	天井部	つまみ径2.7		①灰色(N7) ②灰色(N5)	0.1~1mmφの砂粒 極少量混ざる		
75	SD1か	須恵器 高台付坏身	底部			①②灰色(N5)	0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる		

吉田産物部産品地区の調査

遺物番号	遺構	器種	部位	法量 (cm) ①口径②底径③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
76	SD1か	須恵器 坏身	底部			①②灰色(N5)	0.1~1mmφの砂粒 少量混ざる	
77	SD1か	須恵器 皿	口縁部 ~底部	③1.45		①灰色(N7) ②灰色(N5)	0.1~1mmφの砂粒 少量混ざる	
78	SD1か	須恵器 甕	底部			①灰色(N5) ②灰色(5Y6/1)	0.1~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
79	SD1か	須恵器 甕	底部~ 体部	②(11.2)		①灰白色(5Y7/1) ②灰白色(2.5Y8/2)	0.1~2mmφの粗砂粒 少量混ざる	
80	SD1か	瓦質土器 羽釜	口縁部 ~体部	①(31.6)		①暗灰色(N3) ②灰色(N6)	0.5~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
81	SD1か	瓦質土器 羽釜	口縁部			①②灰色(N4)	0.1~2mmφの砂粒 少量混ざる	
82	SD1か	瓦質土器 鍋か	口縁部			①灰色(N4) ②にぶい、橙褐色(7.5YR6/4)	0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
83	SD1か	瓦質土器 足鍋	脚部			①灰白色(7.5YR8/2) ②灰白色(5Y8/1)	0.1~3mmφの粗砂粒 少量混ざる	
84	SD1か	瓦器 椀	底部	②(6.3)		①褐灰色(10YR5/1) ②灰白色(2.5Y8/1)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
85	SD1か	粗陶器 甕	口縁部			①②灰白色(2.5Y8/2)	0.5~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
87	不明Pt	土師質土器 鍋	口縁部 ~体部			①にぶい、黄褐色(10YR5/3) ②にぶい、黄褐色(10YR7/4)	0.1~3mmφの粗砂粒 多く混ざる	
88	不明Pt	須恵器 坏身	口縁部			①②灰色(N6)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
89	不明Pt	土師器 坏	底部~ 体部	②(6.0)		①②灰白色(2.5Y8/1)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
90	不明Pt	土師器 高台付坏	底部~ 体部	②(6.6)		①②灰白色(10YR8/2)	0.1~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
91	不明Pt	土師器 坏	底部~ 体部	②(6.8)		①褐色(7.5YR7/6) ②灰褐色(7.5YR5/2)	0.5~2mmφの粗砂粒 少量混ざる	底部系切り
92	不明Pt	土師器 甕	口縁部			①浅黄褐色(10YR8/4) ②にぶい、黄褐色(10YR7/2)	0.1~1mmφの細砂粒 少量混ざる	
93	不明Pt	赤生土器 甕	底部	②(5.6)		①赤赤褐色(2.5YR7/3) ②浅黄褐色(10YR8/3)	0.5~3mmφの粗砂粒 少量混ざる	
94	不明Pt	土師器 甕	口縁部			①にぶい、黄褐色(10YR7/4) ②暗灰色(N3)	0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
95	不明Pt	土師器 ミニチュア土器	底部	②(3.5)		①②褐色(7.5YR7/6)	0.1~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
96	不明Pt	土師器 甕	口縁部			①にぶい、橙褐色(5YR7/2) ②にぶい、黄褐色(10YR7/2)	0.5~2mmφの粗砂粒 多く混ざる	
97	不明Pt	土師器 高台付坏	底部~ 体部	②(7.6)		①②にぶい、黄褐色(10YR7/2)	0.5~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
98	不明Pt	土師器 坏か	底部	②(7.0)		①にぶい、橙褐色(7.5YR7/4) ②灰黄褐色(10YR6/2)	0.1~0.5mmφの細砂粒 やや多く混ざる	
99	不明Pt	土師器 皿か	底部	②(5.6)		①②褐色(5YR6/6)	0.1~0.5mmφの細砂粒 極少量混ざる	
100	不明Pt	須恵器 坏身	体部			①灰色(N5) ②灰色(N6)	0.5~2mmφの粗砂粒 極少量混ざる	
101	不明Pt	須恵器 高台付坏身	底部			①②灰色(N5)	0.5~1mmφの砂粒 極少量混ざる	
102	不明Pt	須恵器 坏身	底部	②(10.2)		①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰白色(2.5Y8/2)	0.1~0.5mmφの細砂粒 少量混ざる	
103	不明Pt	土師器 高台付坏	底部~ 体部	②(5.0)		①灰白色(10YR8/2) ②浅黄褐色(10YR8/3)	0.1~1mmφの細砂粒 少量混ざる	
104	不明Pt	瓦質土器 羽釜	口縁部			①黄灰色(2.5Y6/1) ②暗灰色(N3)	0.1~1.5mmφの砂粒 やや多く混ざる	
105	不明Pt	須恵器	口縁部			①②灰色(N6)	0.5~1mmφの細砂粒 極少量混ざる	
106	不明Pt	須恵器 高台付坏身	底部			①②灰色(N6)	0.1~1mmφの細砂粒 やや多く混ざる	
107	不明Pt	須恵器 甕	底部	②(31.3)		①灰色(7.5Y5/1) ②灰色(N6)	0.5~3mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
108	不明Pt	土師質土器	口縁部			①にぶい、黄褐色(10YR7/4) ②黄灰色(2.5Y5/1)	0.5~3mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
110	不明Pt	赤生土器 甕	底部	②(7.8)		①灰白色(2.5Y8/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5~2.5mmφの粗砂粒 多く混ざる	
111	不明Pt	赤生土器 甕	底部			①褐色(5YR7/6) ②黒褐色(10YR3/1)	0.5~5mmφの粗砂粒 多量に混ざる	
112	不明Pt	赤生土器 壺	底部	②(4.6)		①浅黄色(2.5Y7/3) ②黄灰色(2.5Y4/1)	0.1~3mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
113	不明Pt	赤生土器 壺	底部	②(6.4)		①褐色(5YR6/6) ②褐色(7.5YR6/6)	0.5~3mmφの粗砂粒 多量に混ざる	
114	不明Pt	赤生土器 壺	底部	②(8.0)		①褐色(2.5YR7/6) ②灰黄褐色(10YR6/2)	0.5~2mmφの粗砂粒 やや多く混ざる	
115	不明Pt	赤生土器 壺	底部	②(6.9)		①灰黄褐色(10YR5/2) ②にぶい、黄褐色(10YR7/3)	0.5~4mmφの粗砂粒 多量に混ざる	

遺物番号	遺構	器種	部位	法量 (cm)		色調		胎土	備考
				①口径②底径③器高	①外面 ②内面				
116	不明Pt	弥生土器 壺	底部	②(7.0)	①赤褐色(2.5YR5/6) ②にふい褐色(7.5YR5/3)	0.5~7mmの粗砂粒 多く混ざる			
117	不明Pt	弥生土器 甕	底部	②(7.0)	①にふい赤褐色(2.5YR5/4) ②褐色(10YR5/1)	0.5~2mmの粗砂粒 やや多く混ざる			
118	不明Pt	弥生土器 甕	底部	②(6.0)	①にふい褐色(5YR7/4) ②褐色(5YR5/1)	0.5~3mmの粗砂粒 やや多く混ざる			
119	不明Pt	弥生土器 甕	底部	②(5.2)	①灰黄褐色(10YR6/2)	0.5~4mmの粗砂粒 やや多く混ざる			
120	不明Pt	弥生土器 壺	頸部		①にふい黄褐色(10YR7/4) ②浅黄褐色(10YR8/3)	0.5~1mmの細砂粒 少量混ざる		貝殻施文か	
121	不明Pt	弥生土器	体部		①にふい黄褐色(10YR7/4) ②にふい黄褐色(10YR7/3)	0.5~2mmの粗砂粒 やや多く混ざる			
122	不明Pt	弥生土器 甕	口縁部		①浅黄褐色(10YR8/3) ②灰白色(10YR8/2)	0.5~1mmの細砂粒 やや多く混ざる			
123	不明Pt	弥生土器 鉢か	口縁部		①淡黄色(2.5YR8/3) ②灰色(N5)	0.5~2mmの粗砂粒 やや多く混ざる			
124	表採	須恵器 高台付坏身	底部		①②灰白色(N7)	0.1~2mmの砂粒 やや多く混ざる			
125	表採	須恵器 坏身	底部	②(6.5)	①灰色(N6) ②灰白色(N7)	0.1~0.5mmの細砂粒 極少量混ざる			
126	表採	瓦質土器 足鍋	脚部		①灰白色(N7)	0.5~1mmの細砂粒 極少量混ざる			
127	不明遺構	須恵器 坏蓋	口縁部 ~体部		①②灰白色(10Y8/1)	0.1~0.5mmの細砂粒 少量混ざる			
128	不明遺構	土師器 高台付坏	底部~ 体部	②(6.1)	①灰白色(10YR8/2) ②灰白色(2.5Y8/1)	0.1~0.5mmの細砂粒 極少量混ざる			
129	不明遺構	弥生土器 高坏	坏部~ 脚部		①②褐色(5YR7/6)	0.1~0.5mmの細砂粒 極少量混ざる			
130	不明遺構	青磁 碗	口縁部		素地 灰白色(7.5Y7/1) 釉 灰オリーブ色 (7.5Y5/2)	精緻		鍋蓮華文	
131	不明遺構	青磁 碗か	口縁部		素地 灰白色(7.5Y7/1) 釉 灰オリーブ色 (7.5Y5/3)	精緻			
132	不明	須恵器 高台付坏身	底部		①灰色(N6) ②灰白色(N7)	0.1~0.5mmの細砂粒 極少量混ざる			
133	不明	須恵器 高台付坏身	底部	②(7.8)	①②灰色(N5)	0.5~1mmの細砂粒 少量混ざる			
134	不明	須恵器 坏身	底部	②(12.0)	①灰色(N5) ②灰色(N6)	0.1~1mmの細砂粒 少量混ざる		ヘラ記号	
135	不明	須恵器 坏蓋	口縁部 ~体部		①灰色(N5)	0.1~1mmの細砂粒 極少量混ざる			
136	不明	須恵器 甕	口縁部		①灰色(N7) ②灰色(N6)	0.5~1mmの細砂粒 少量混ざる			
137	不明	土師器 坏	底部~ 体部	②(6.8)	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y8/2)	0.1~1.5mmの細砂粒 少量混ざる			
138	不明	土師器 台付皿	底部	②(7.0)	①②にふい褐色(7.5YR7/4)	0.1~0.5mmの細砂粒 少量混ざる			
139	不明	瓦質土器 鉢か	口縁部		①灰白色(2.5Y8/2) ②灰色(2.5Y8/1)	0.5~2mmの粗砂粒 少量混ざる			
140	不明	白磁 碗か	底部		素地 灰白色(5Y7/1) 釉 灰白色(7.5Y7/1)	精緻			
141	不明	陶器 碗か	底部	②4.4	素地 にふい黄色(2.5Y6/3) 釉 暗オリーブ灰色	精緻			
142	不明	磁器 皿か	口縁部		素地 灰白色(5Y8/1) 釉 灰白色(7.5Y8/1)	精緻			
143	表採	瓦質土器 足鍋	脚部		①褐色(2.5YR6/6)	0.1~1.5mmの砂粒 多く混ざる			

表11 出土遺物(石器・土製品)観察表

法量()は復元値

遺物番号	遺構	器種	法量(cm)	重量(g)	材質	備考
25	SP87	石鍋	残高1.5 底部厚1.0	24.86	滑石	底部片・外面煤
86	SD1か	石鍋	残長9.05 最大幅3.8 最大厚1.4	71.79	滑石	体部片・外面煤
109	不明Pt	円盤形土製品	最大径5.95 最大厚1.3	43.12	粘土	



SP8



SP68



SP87



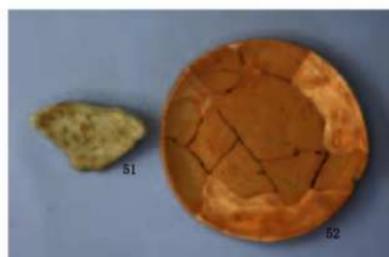
SP100



SP108



SP246 (試掘 SP153)



SP167



SP186

写真 92 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物①



8

SP22



9

SP25



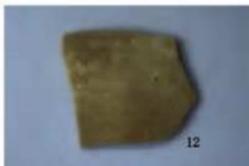
10

SP28



11

SP36



12

SP38



13

SP42



14

SP59



18

SP74



19

20

SP78



21

SP79



25a

SP87



25b

SP87



26

SP88



27

SP91



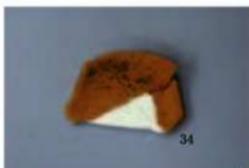
28

SP97



29

SP98



34

SP105



35

36

SP106

写真 93 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物②



写真 94 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物③



SD1 か



SD1 か



SD1 か



SD1 か



SD1 か



SD1 か



SD1 か



SD1 か



SD1 か



SD1 か

写真95 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物④



整理 NO. 75



整理 NO. 78



整理 NO. 76



整理 NO. 81



整理 NO. 82



整理 NO. 80



整理 NO. 80



整理 NO. 80



整理 NO. 80



整理 NO. 80



整理 NO. 85



整理 NO. 86

写真 96 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物⑤



整理 NO. 83



整理 NO. 83



整理 NO. 83



整理 NO. 83



整理 NO. 83



整理 NO. 83



整理 NO. 83・84



整理 NO. 83

写真 97 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物⑥



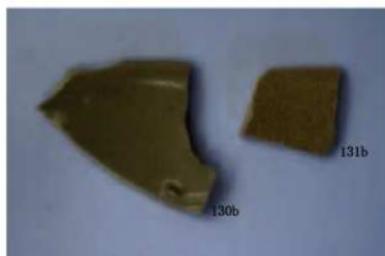
整理 NO. 88



整理 NO. 89



整理 NO. 89



整理 NO. 89



整理 NO. 90



整理 NO. 90



整理 NO. 90



整理 NO. 91

写真 98 第Ⅱ地区第1調査区出土遺物⑦

4. 第2調査区の成果

a. 立地

第2調査区は現在の動物医療センター建物設営に伴う調査区である。第1調査区の北東約30mに位置するが、現況標高は第1調査区よりも約0.5m低い。大学移転前に撮影された航空写真を見ると、旧地形は第1調査区が立地する支脈丘陵の北東に沿う谷部と推定される。

b. 遺構(図64)

現存する第2調査区の記録は縮尺1/50の平板測量図1枚であり、写真類も発見されていない。この測量図には黒色粘土層(遺物包含層)の分布域が示されているが、その後の調査記録及び出土遺物も残されていないことから、調査は包含層上面を検出するに止まったようである。従ってそれ以上の報告も行えないが、当館が近年実施した第Ⅱ地区周辺の調査成果により、第2調査区の東部に分布するこの黒色粘土層に関しては重大な問題を含んでいると考えられるため、以下に近年の調査成果を記す。

平成14年度に実施された農学部校舎他改修(解剖実習棟校舎新営)に伴う発掘調査区は、第2調査区の北西約30m地点に位置する。この調査区の南西部において、南東から北西方向に流れる河川跡の右肩部が検出されている。この河川埋土からは、平安時代を中心とする土器とともに「官」の墨書がなされた須恵器坏蓋が出土しており、緑釉陶器や六連式製塩土器など一般集落には通常出土しない土器類も出土している。更に輪羽口や鉈尾の未製品も出土していることから、調査地周辺には鑄造に関連する官衙施設が存在した可能性が高いと考えられる。また、これと直接関連するかは不明であるが、河川埋土下から総柱建物の可能性がある2棟の掘立柱建物跡が検出されている。この2棟は現在の座標軸に沿う形で整然と南北に並んでおり、その性格が目ざされている。

平成12年度に実施された総合研究棟新営に伴う発掘調査区は、平成14年調査区の更に約20m北西に位置する。この調査においても南東から北西に流れる河川跡の下流部分が検出されており、埋土からは平安時代の土器とともに円面硯、製塩土器などが出土している。遺物の出土は河川の南東(上流)部に集中していたようであり、調査担当者は動物医療センター建物周辺に同時期の遺構群が存在したものと推定している。

以上の調査成果から見ると、第2調査区において検出された黒色粘土層は、平安時代の遺物を包含

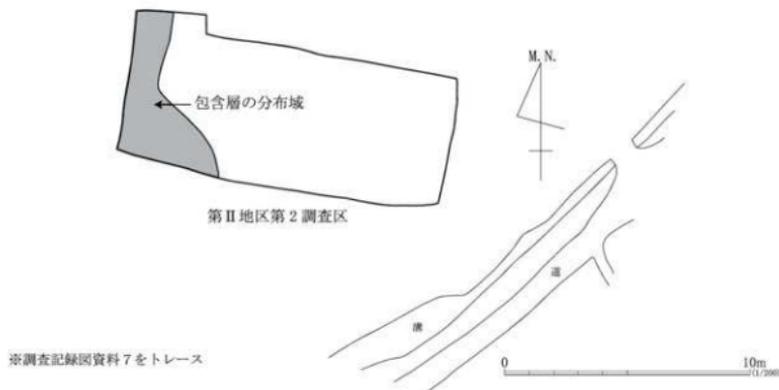


図65 吉田遺跡第Ⅱ地区第2調査区平面図

する河川埋土である可能性が極めて高い。他調査区での河川埋土出土資料は、官衙の存在を強く示唆する遺物群であり、かつ埋土下に古代の建物跡と推定される遺構群が遺存していたことを考えると、山口大学の遺跡調査体制が整っていない当時のこととは言え、慚愧に堪えない調査結果と言える。

4. まとめ

吉田遺跡Ⅱ地区の調査は昭和41年8月より実施された。山口大学としては第Ⅰ地区A区に続く2度目の発掘調査である。遺跡の調査報告としては多くの不備を残すが、以下にまとめを記す。

第Ⅱ地区第1調査区は、遺跡の南東に聳える今山から北西に向かい派生する低丘陵上に位置する。検出された遺構には、丘陵軸に平行する溝1条と柱穴と推定される278基のピット群である。現存する出土遺物から見ると、遺跡の中心時期は8世紀後半から9世紀代を中心とする古代と、13世紀から14世紀を中心とする中世と見なされる。特に後者については吉田遺跡では遺物相として確認されているものの集落等の確認がなされていない時期に当たるため注目される。また相当数の弥生土器資料も存在することから、従来遺跡の低地部に集中して発見されていた当該期の生活痕跡が丘陵部まで広がることを予測させる。

第2調査区は、第1調査区が位置する丘陵の北東に沿う谷筋にあたる。調査は包含層の検出に止まったようである。ただしこの包含層は、近年実施された周辺地での発掘調査により、古代の官衙関連遺物を包含する河川埋土である可能性が極めて高い。

第1調査区は現在本学農学部が管轄する飼料園となっており、調査後埋戻された遺跡はそのままの状態で見られるはずである。調査記録には様々な不備が見られるため、この地で開発等遺跡破壊に繋がる行為がなされる場合には、再発掘調査が必須であることは言を待たない。

最後に、本稿を成すにあたり、第Ⅱ地区の調査に本学の学生として参加していた添田建治郎氏(現：山口大学人文学部教授)に当時の思い出も含めて調査に関する様々な情報をご教示いただいた。文末ではあるが感謝の意を表する。

[註]

- 1) 石川卓美(1990)『増補 平川文化散歩』山口
- 2) 豆谷和之(1993)「付篇Ⅱ 第1章 吉田遺跡Ⅰ地区A区の調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X I』,山口
- 3) ガリ版刷りの冊子であり、正確な作成年月日は不明。統合移転が完了した1973年頃作成か。
- 4) 平成19年1月1日に農学部附属家畜病院から改称。
- 5) 前掲註3報告。
- 6) 写真が撮影されたのは10月後半と推定され、遺構の図化作業と遺物の取り上げは11月以降に行われているため、図に記された遺構番号と遺物袋に記された遺構番号が一致する可能性が高いと思われるが、これも推定でしかない。
- 7) 岩崎仁志(1999)「足跡再考」,財団法人山口県教育財団山口県埋蔵文化財センター(編)『山口県埋蔵文化財センター年報—平成10年度— 陶垣 第12号』,山口
- 8) a: 田畑直彦(2002)「山口大学構内吉田遺跡—農学部校舎改修(解剖実習棟新営)に伴う発掘調査略報—」,山口考古学会(編)『山口考古 第22号』,山口
b: 田畑直彦(2004)「第8章6. 平成14年度山口大学構内遺跡調査の概要」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X VI・X VII』,山口
- 9) 田畑直彦(2004)「第8章4. 平成12年度山口大学構内遺跡調査の概要」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X VI・X VII』,山口

報告書抄録

ふりがな	やまぐちだいがくまいごうぶんかざいしりょうかんねんぼう
署名	山口大学埋蔵文化財資料館年報
副書名	-平成17年度-
巻次	
シリーズ名	山口大学埋蔵文化財資料館年報
シリーズ番号	3
編著者名	田畑直彦 横山成己
編集機関	山口大学埋蔵文化財資料館
所在地	〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1 ℡083-933-5035
発行年月日	西暦2007年(平成19年)3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
御手洗遺跡	山口県光市 室積8丁目4番1号	35210		33度 55分 11秒	131度 58分 10秒	20050519- 20050531	53㎡	教育学部附属光小学校 体育器具庫新営工事
吉田遺跡	山口県山口市 吉田1677-1	35203		34度 08分 53秒	131度 28分 03秒	20050627- 20050722	130㎡	教育総合研究センター 改修Ⅰ期工事
吉田遺跡	山口県山口市 吉田1677-1	35203		34度 08分 49秒	131度 28分 06秒	20060327- 20060428	92㎡	教育総合研究センター 改修Ⅱ期工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
御手洗遺跡	散布地 集落跡	古墳～近世		土師器・須恵器 陶器・磁器・瓦	
吉田遺跡	集落跡	弥生～古墳	ピット、河川	弥生土器・土師器	
吉田遺跡	集落跡	弥生～古墳	ピット、溝、河川	弥生土器・土師器 石器	

山口大学埋蔵文化財資料館年報
－平成17年度－

平成19年3月31日

編集 山口大学埋蔵文化財資料館

発行 山口大学

〒753-8511 山口市吉田1677-1

印刷 株式会社マルニ

〒753-0037 山口市道祖町7-13

**YAMAGUCHI UNIVERSITY
ARCHAEOLOGICAL MUSEUM REPORT Vol.3**

CONTENTS

Chapter I	The project on the Yamaguchi University campus in the 2005 fiscal year	1
Section 1	General outline of the project on the Yamaguchi University campus in the 2005 fiscal year	1
Section 2	Excavation on the Shiraishi campus "Yoshida site"	5
Section 3	Excavation on the Shiraishi campus "Shiraishi site"	34
Section 4	Excavation on the Kogushi campus "Yamaguchidaigaku-Igakubukounai site"	35
Section 5	Excavation on the Tokiwa campus "Yamaguchidaigaku-Kougakubukounai site"	37
Section 6	Excavation on the Hikari Campus "Mitarai site and Tsukimachiyama site"	39
Section 7	Excavation on the other Campus	45
Appendix 1	The gist of researches and studies at Yamaguchi University in the 2004 fiscal year	47
Chapter II	Report of the Yamaguchi University Archaeological Museum activities	56
Section 1	Exhibition activities	57
Section 2	Social education activities	59
Appendix	Archaeological research for Area II at Yoshida site	62

Published by
Yamaguchi University Archaeological Museum
Yamaguchi, 2007